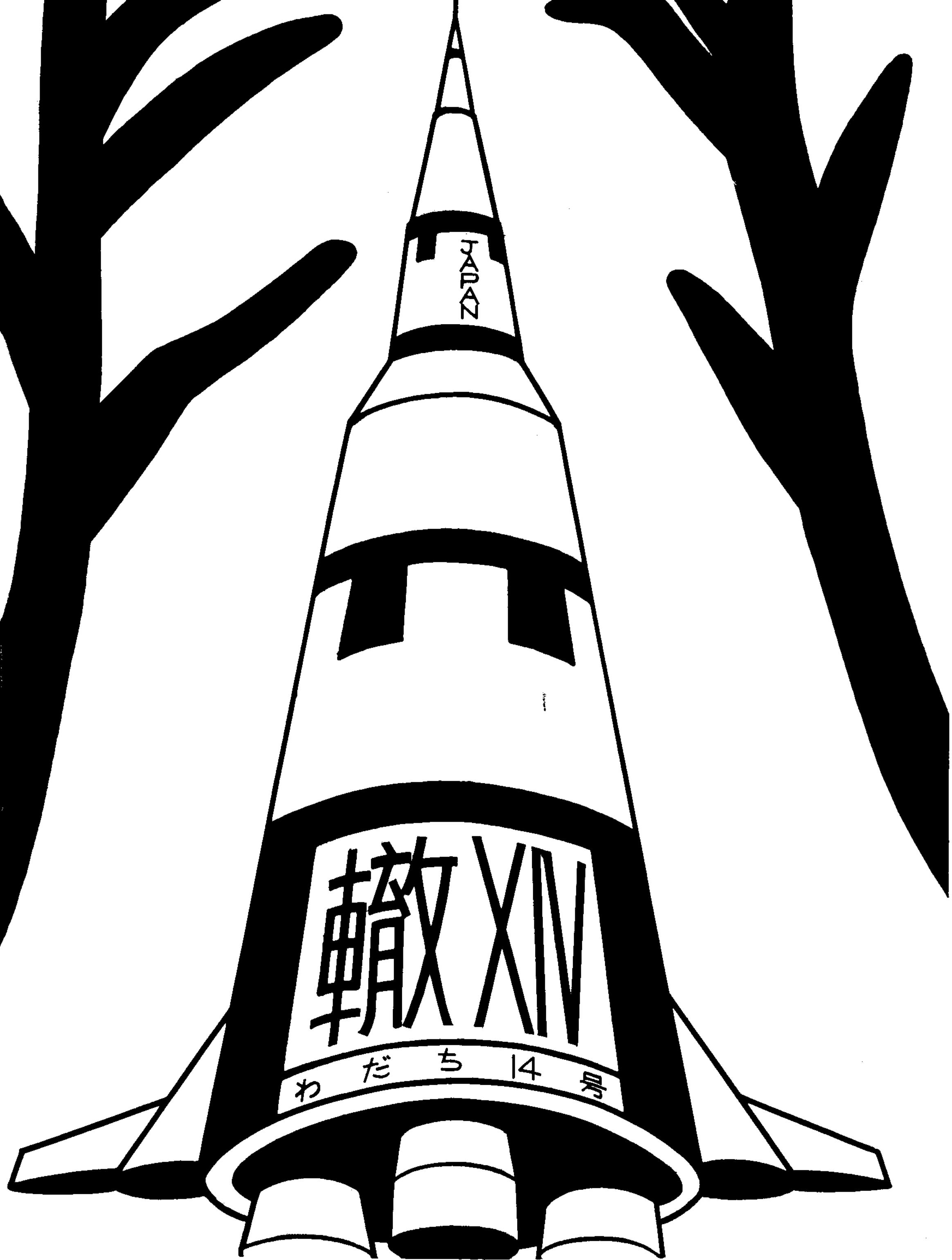




東京都立新宿高等学校生徒会機関紙

# 轍 ————— わ だ ち

No. 14

1969 ~ 1970

東京都立新宿高等学校生徒会



轍……車輪のあと

馬↓自動車↓飛行機↓ロケット

乗物は高速化していく

限りなく近づく光の速度の漸近線

現代の轍……それはロケットの軌跡

轍……それは生徒一人一人の作るもの

ロケットは生徒

推進力は大きい方がよい

どんどん吸収しろ、学問というエネルギーを  
飛べ飛べ加速度を増して

広い宇宙空間をさまようロケット

自分がどこを飛んでいるのかわからなくなる

暗黒星雲には突込むな

暗黒星雲にはロケットの墓場がある

前進しろロケット、ちらばる星たちがよき  
道しるべだ

行け行けロケット、真理の星をめざして

そのロケットの轍はきれいだ、

虹色に輝いている

# 第 14 号 目 次

プ ロ ロ ー グ ..... 4

## 特 集

経 過 ..... 6

解 説 .....17

変 革 .....19

問 題 点 .....21

人 間 模 様 .....24

許可制に関するアンケート .....27

資 料 解 説 .....28

ま と め .....29

## 詩

無 題 ..... 2 E 松 香 光 信...30

つ ぶ や き ..... 2 C 米 沢 芳 彦...31

どう生きよう..... 2 F 庄 司 健...32

秋 ..... " 庄 司 健...33

(表 紙 鬼 沢 一 寿)

(カット 井 口 淳)

## 報 告

クラブ活動報告..... 人 文 科.....36

芸 能 科.....38

理 数 科 42

体 育 科 44

二 部 52

同 好 会 53

委 員 会 報 告 .....56

A F S 報 告 .....3 年 G 組 田 口 雄 司...67

## 研 究 発 表

多 摩 川 .....地理歴史研究部...70

只 見 線 .....鉄道研究同好会...79

ミヤコタナゴの増殖に関する研究 ..... 2 年 H 組 君 塚 芳 輝...87

## そ の 他

ユ ー モ ア .....他校生徒会誌より...66

新 宿 徒 然 草 .....16, 26, 29, 34, 65, 86, 97

年 間 行 事 .....97

編 集 後 記 .....98

1号・2号・3号・4号・5号・6号・7号・8号・9号・10号・11号・12号と続いた轍。確かに去年の轍は12号であった。しかし、今度の轍（つまりあなたが読んでいるこの轍です）の号数をよく見てほしい。14号になっている。どうして、13号にしないで、14号にしたのか。

今まで、轍は必ず発行されてきた。発行しなければならない、という義務感から発行してきたのだ。轍に関する関心は非常に少ない。轍の予算は学園祭と同じ程度であり、全予算額の中に占める割合は極めて大きい。轍に対する関心が非常に低い現在の時点で、多額の金をかけて轍を発行してよいのだろうか、という疑問は実質的には二人しかいない轍委員会の内部でも起こった。そして、一人の委員は轍の発行を中止して、生徒にショックを与える事によって轍に対する関心を高めようと主張した。しかし、その案は余りにも危険な冒険だという事でとりやめた。しかし、轍委員会の内部では、何の問題もなしに、轍を発行してしまったら、結局、情性で発行することになり、発展性がないばかりか後退への道を歩むことになる、と考えた。そこで、今度の轍には問題性を多く含んだものにしよう、という事になった。そのような方針をたてて編集を始めたのだが、轍の大部分のページはクラブ紹介など必ず載せなければならないものであり、轍委員会の方針をくり込む事ができるページは殆んどなかったため、この最初のプロローグのページで、轍に対する問題を載せたわけである。本当は今回の轍は13号なのに14号にしたのも、そのためである。表紙もわざと問題性の多いものにしたのである。

表紙のロケット（轍）が順調に前進して飛んでいるか、両側にある不気味な黒い手につかまり、こなごなにこわされてしまいかは、それはあなた自身の轍に対する関心の状態によるのである。

昭和四十四年度轍編集委員会

# 特 集

## 昭和44年度紛争

|                |    |
|----------------|----|
| 経 過            | 6  |
| 解 説            | 17 |
| 変 革            | 19 |
| 問 題 点          | 21 |
| 人 間 模 様        | 24 |
| 許可制に関するアンケート資料 | 27 |
| 資 料 解 説        | 28 |
| ま と め          | 29 |

昨年九月、青山高校に突如として紛争がおり、全共闘派の生徒によるバリストが行なわれた。その当時、我が校では学園祭が行なわれていて、青山高における紛争を他人事のようにしか感じなかった。

しかし、青山高紛争を発火点として高校紛争が次々と広まっていった。

そして十一月。紛争は我が校にも起こり、約四週間にわたって続いたのであった。

紛争中、我々生徒はいろいろな事を考えた。

紛争から四か月たった今、もう一度「あの時おこった紛争は我々生徒にとって一体なんだったのだろうか」という事を考えるために、あの時起こった紛争をこの轍に再現し、それを四十四年度轍の特集とした。

昭和四十四年度

轍特別委員会

# 経過

十一月 五日 全学共闘会議の六項目要求と校長室乱入。  
六日 二年遠足中止と一年遠足。  
七日 全学集会。学校側第一次回答。  
一〇日 学校側第二次回答。  
三年に授業再開のきざし。  
全学集会。  
十二日 学校側「政治活動を禁止しない」と言明。  
全共闘三名と有志一名ハンスト決行。  
十三日 ハンスト ドクターストップで一人離脱。  
十四日 ハンスト中止要求の全学集会。  
十五日 ハンストにドクターストップ。  
全共闘、人を交代してハンスト続行。  
ハンスト中止要求の全学集会。  
十七日 学校側第三次回答。  
全共闘ハンスト中止。

以後、一年と二年の中に授業再開のきざしが見え、次々と授業再開をしていった。

## 6 項目要求

新宿高校全学共闘会議  
全日制闘争委員会

僕らは何故この要求書を出すのか？ 何故このような要求をするのか？ まず僕らが生活しているこの学校の現状に目をむけようではないか。斜陽の名門校と言われる新宿高校。しかしこの名門校とはどういう意味だろうか。東大に百人以上も入学した受験校という名誉がそれなのだ。しかしその内実はというと人間性を見失った人間の集団ではないか。教育の結果がそんなものなのか。何故そんなことになったのか。このような問いかけから出発して我々はここに6項目の要求を学校側に提出する。

- 1、許可制撤廃
- 2、現行処分制度の基準の明示
- 3、文部省教育庁の高校生政治活動規制についての学校当局の見解の明示
- 4、評価を前提とした一切の試験の廃止
- 5、特別考査の廃止
- 6、以上の各項目について学校当局は文書化した回答を十一月七日迄に全校生徒の前で公表せよ。

○許可制撤廃。明らかな検閲制度である許可制（印刷物・掲示物）が学校によって施行されている。生徒独自の広場（集会・討論会）が自由に開かれない。このような秩序の中で生活している我々新宿高校生は毎日せつせと勉強し、そのような、憲法ですら禁止している秩序にならされていく。この許可制とは弁解の余地もなく一定の

## 十一月五日（水）

午前七時四十五分ごろ全共闘派の生徒約三十名が校長室に乱入し六項目要求（別記）を校長につぎつけた。  
二時間目、全共闘派生徒が校庭をデモ行進し、シュプレヒコールを繰り返し、全共闘の一部の生徒は校舎内に入り「あなた方は、何のために勉強しているのか、直ちに授業をやめて討論会を開こう」などと口々に叫び、その時授業していた教師と一部いざこざが起った。

ショートホームルームの時間に開かれた臨時職員会議によって、三時間目以降をホームルームに切りかえるという事を決定し、全学でホームルームが開かれ、六項目要求に関する討論が行なわれた。  
2年G組が討論において、十一月六日に予定されてる遠足を中止すると決議した。そのため、二年の各クラスで十一月六日の遠足をやるかやらないか決議したところ、AEG組で遠足中止がCDFH組で遠足決行がそれぞれ決議され、B組は中止・決行が共に過半数に満たず決議できなかった。この結果、遠足は学年の各クラスがそろっていくべきものである、との学校側の見解により、学校側から一方的に二年の遠足を中止させられた。

学校側は十一月六日は一応授業をやると決定した。

三E、この一連の行動に対して一切の処分者を出さないように学校側に要求するという決議。

なお、この日、全校生徒にくばられた六項目要求のビラの内容は次の通り。（原文のまま）

方向性を持つものである。この結果、我々自身も一定の方向性をもつ。「これは公平」「あれは一方的だ」しかしそれは権力者の方向性なのだ。検閲によってコミュニケーションを失った我々はその方向性に反対する意見を見らなくなる。そして社会へ出て行く。そんな型にはまった我々は矛盾を見てもあまり感じなくなる。つまり最もつかいやすい労働力（商品）となる。文句を言わずに働く……。もっと人間らしくてもいいはずだ。それにはいろいろなことを言い合って自分の問題として考え合うこと。このための邪魔物——許可制は撤廃せねばならない。

○現行処分制度の基準の明示。「処分」というものがある。しかしどのような事を基準にしているのだろうか。本当に教育的な基準なのだろうか。文部省で「政治活動には処分を」と言っていた。現に多くの学校にそのような処分が為されてきた。「教育」という名前で弾圧があるのかもしれない。我々はそれを知る必要がある。そして教育的なものでなかったなら我々は異議申し立てせねばならない。○文部省教育庁の高校生政治活動規制について学校当局の見解の明示・人間として生まれたからには政治から逃れることはとできない。しかし、よく言う「高校生は未熟だ。何も知らないくせに」しかしこれが政治活動規制の理由にはならない。大人自身でさえ政治家が何をやっているか知らない。そして知れない。我々高校生と大人は政治問題については同じだ。高校の矛盾は高校にいる者しか知らない。「文句がある」と言っては何故悪いのか。文句を言わないということを高校生生活で身につけることが「教育」なのだろうか？そして文句を言う人間は「変わった奴」とされ、文句があってもブツブツ従うのが当然のようになる。そしてならされ、高校か

らの積み重ねで使い易い「人間」が形成されていく。政治家と資本家の意になかった「人間」となってゆく。それでいいのか？ 先生方はこの高校生画一化に対してどのように考えているのか。我々高校生は知るべきである。でなければ暗黒だ。そしてそれが教育的でないなら我々は異議申し立てせねばならない。

○評価を前提とした一切の試験の廃止。「試験や勉強だけが全てではない」と先生方は言う。しかし幼稚園から大学まで『シケン』といううすっぱらな紙を基にした先生方の僕達に対する『評価』が厳然として現代社会ではその人間の価値とされてしまふのだ。そしてその試験の結果として、東大に入学できたものは高級官僚・管理職・研究者・技術者つまり専門知識のみを持った有能な使い易い人間専門バカとなり、日大等のマスプロ私大に於ては中級労働者・課長クラス等という様に明確に階層分化されていく。さらに良い評価をもらう為として良い評価をもらって「いい大学」へ入る為の試験勉強が我々の日々の勉強となり、それが「学問とは？ 人間とは？」という問題より先行する。生き方を考える以前に職業を考えるのと全く同じで、本末転倒である。しかしその様な事を言っても日々の生活は、営々として続き、うすっぱらな紙による評価は厳然として存在して、我々の心を試験勉強に引っぱる。しかし我々は試験と試験との間にある様な本末転倒の勉強から一步抜け出さねば真の意味での学問を見失うだろう。そして次に来るのは、単なる知的労働力商品としての疎外された人生であろう。学力などを調べるのに何故評価がつかねばならないのか！ そしてその評価が社会的差別の根源となっている事を我々は許しておくことはできない。評価の為の試験は学問外的、教育外的強制でしかない。

## 十一月六日（木）

二年はこの日に予定されていた遠足が中止されたが、一年は予定通り遠足にいった。

一部のクラスで一、二時間授業をやったところもあったが、殆んどのクラスで授業を全面的にホームルームに切りかえた。

三年D組のホームルーム討論において次のような事が決議された。

### 三D決議

一、学校側の全共闘に対する回答を今週末まで延期して、その後二回に臨時生徒大会を開くことを要求する。

二、次に掲げる決議に基づく要求について学校側の回答を要求する。

- ① ビラ・印刷物は届出署名制にする。
- ② 現行処分制度の基準を明示する。
- ③ 文部省・教育庁の高校生政治活動に関する通達に対する学校当局の見解を明示する。
- ④ 評価を前提とした試験の改革を要求する。
- ⑤ 特考の改革を要求する。
- ⑥ 現行処分の規定によらず、十一・五闘争に於いて処分者を出さない。

この決議に基づいて三Dは生徒大会を開催するために必要な、全生徒の六分の一以上の署名を集めるための行動をした。この結果、二百七十名の署名を得、十一月七日に生徒大会を開く事が職員会においても承認された。

○特考廃止 受験の為の試験「特別考査」は、結局は大学へ行つて「身分」をもらうのに便宜をはかるだけのものである。何故、このようなものが高校に於いて存在しているのか。やはり人間の評価を紙キレと金もうけの為の要請で決定してしまう資本主義体制の価値観が我々の頭の中を画一的に支配しているからであろう。もっと根本的に学問とは何かを考える事なくして「現実問題は大学へ行つて……」などという人間に学問する資格は全くない。本当に学問を求めたい人間ならこの高校に於いても考えなおしていいはずだ。そして三年間を「受験の為」の浮き足立った期間とせず、もっと腰を落ちつけてしっかり考える期間とすべきではないだろうか。そのような真の学問追求の場としての高校に、受験の象徴としての特考の存在は絶対に許されない。

○以上の各項目について学校当局は文書化した回答を十一月七日までに全校生徒の前で公表せよ。

以上のような基本的問題について考えることなくして、安易に高校生活を送ることは許されない。

そして、学校側はこの問いかけを無視して、教育者としての立場をとることは許されない。

我々は「真の学問とはなにか」を追求する者として以上の項目要求を学校側に提出する。

全日制闘争委員会  
書記局

## 十一月七日（金）

一・二時間目は各クラスともホームルーム討論を行なった。

三時間目に予定通り生徒大会が開催され、規約にもとずき生徒代表会議できめた議長団が司会を行なった。しかし、職員会議の下にある生徒大会では、今度の問題についての討論ができない、と主張する全共闘と一部の生徒が生徒大会を全学集会へ切り変えるという事を主張した。このため、生徒大会にするか全学集会にするか、という事で四十分近くも時間を費やし、実質的討論を早く行ないたいとする大部分の生徒の要求もあって、生徒大会にするか全学集会にするかという事の決をとったところ、圧倒的多数で、全学集会にするという事が議決された。このため、生徒大会は全学集会に切り換えられたが、生徒大会の時の議長団が、そのまま全学集会の司会を行なう事になった。

このようないきさつがあった後、討論がしばらくの間、行なわれた。その後、口頭による学校長の六項目要求に対する回答がなされた。この回答が口頭でなされた事に対して、全共闘側が追及し、それに対して、学校長は、「文書にして述べるよりも、口頭の方が詳しく説明でき、生徒によくわかってもらえるのではないかと思つた」と回答した。

また、この日の校長回答には、回答として不備な所が多かったため、生徒側がこれを不満とし、再び学校側が回答する事を要求する「決議」がなされ、この日の全学集会は終わった。

（決議に鍵かっこをつけた理由は全学集会では、規約上、決議をする事ができないため）

## 十一月八日（土）

前日の全学集会の決議によりこの日も全学集会が開かれる予定であったが、昨夜の雨で校庭がぬれているため、全学集会をこの日に行なうかどうかクラス単位で決をとったところ、この日には行なわないというクラスが殆んどだったので、全学集会は行なわれず、クラス討論が行なわれた。

昨日学校長が口頭で回答した内容が、この日に文書化して全生徒に配られた。内容は次の通りである。

### 回 答

昭和四十四年十一月七日

学校長 織 田 富 勝

十一月五日（水）生徒諸君の中の有志や、いくつかのホームルームから、六項目要求あるいは七項目要求が学校長宛に出された。また、十一月七日（金）の全学集会においても、生徒諸君からいろいろの意見が出された。

これらの要求や意見に対する回答を以下に述べる。

(1) “許可制を撤廃せよ、あるいは届出制にせよ等”について。

本校では、従来、掲示・印刷物や集会・討論会等について許可制を採用してきた。それは、そこで述べられることがらについて、一方的見解におちいることなく、広く、深い理解を望んでいたこと、また、誤った事実が公表された場合、その修正手段が煩雑である等を考慮したためであった。

しかし、諸君の自主性を伸ばす方向で、許可制の修正を検討している。たとえば、掲示においては、場所を指定して自主規

制にしたり、集会討論会については、場所時刻等を連絡して自由の実施できるようにする等について具体的に検討を進めている。

(2) “現行処分制度の基準を明示せよ”について。

本校には、成文化された基準はない。処分は、指導の一環として、個々の場合に即して考える。

(3) “文部省・教育庁の高校生政治活動の規制について学校当局の見解を明示せよ”について。

直接的な生徒指導については、それに関する通達が出るとか出ないとかに関係なく、われわれ教職員一同の責任において実施している。

(4) “評価を前提とした試験を廃止せよ、あるいは改革せよ”について。

評価そのものを全く否定することはできない。たとえば諸君が自ら学習の到達度を自己評価するための資料にしたり、指導者が指導した結果についての自己評価の資料とすることがあるからである。

しかし、評価するという事は難しいことである。しかも、社会から要求されれば評価しなければならないという現実がある。これらの点を考慮しつつ、評価をできるだけ多角的にすることを考えたい。

(5) “特別考査を廃止せよ、あるいは改革せよ”について。

本校では、従来、主として三年生を対象にして特別考査を実施してきたが、かねがね改善する必要があると感じ、間もなく具体案を示す予定である。

(6) “今回の行動について一切の処分者を出さない”ことについて。

要望の趣旨を十分考慮したい。

なお、この日に目だった事は三Hを始めとする三年の一部のクラスにおいて授業再開のきざしが見えてきた事であった。

また、二年の一部のクラスにおいても同様のきざしが見えはじめ二Dにおいては、来週からは授業改善を各教科ごとに推し進めていくという事が決議された。

## 十一月十日（月）

三年の一部のクラスにおいて授業が再開された。また二Dにおいては授業改善を各教科ごとに行なって授業再開をしていく予定であったが、結局一時間目しか授業ができず、再び討論を行なっていくという事が決議された。しかし、一二年の各クラスの間でも、学校正常化への気運がやや高まり、クラス討論においても授業再開を前提とした具体的な授業改革への討論をするクラスが増えてきた。

なお、この日に学校側の生徒に対する二次回答があった。

### 回 答

昭和四十四年十一月十日

学校長 織 田 富 勝

一、許可制について

論文新報・轍……………自主的に発行することができる。

（事実を故意に歪曲しないこと。個人の中傷をしないこと）

掲示・ビラ・看板等……………自主規制機関を通じて配布掲示することができ。

（事実を故意に歪曲しないこと。個人の中傷をしないこと）

集会・討論会……………本校生徒の校内における集会・討論会については所定の手続きをとり、実施する事ができる。

朝陽時報・放送……………従来通りとする。

二、処分について

本校には成文化された基準はない。処分は指導の一環として、個々の場合に即して考える。

三、政治活動について

政治に関心をもち、政治的な教養を深めることは望ましいが、行動は慎重でなければならない。

この学校側の回答に対して、全共闘は次のような見解を発表した。

十一月十日の校長の「回答」に抗議

現在、一部には改良ムードがある。しかしその本質はどうか六項目要求で提起された問題はそんなものなのか？ 六項目をあくまで追求してみると、そこには一貫した論理が見出せるはずだ。ここで問われた教育の問題を追求するなら、それは必ずや、我々自身を社会という壁につき当たらせ、そこに於いていかに、自分自身で主体的に生きるかという自己変革の問題がでてくる。

しかるに改良ムードは何を生むか？

そこからは制度的な変革はありえても、自己変革はありえない。改良ムードじゃダメだ。自分自身を問うことを全く忘れてしまいうではないか。ここに大きな質のちがいが見出せよう。

したがってこのあいまいな改良ムードに乗って、そのレベルで、「回答」してきた校長声明は、問題の本質からそれたものになっている。

ここに再度問題提起する。自己変革をしつかりとらえて、行動せよ。なぜなら、教育の結果生まれてくる人間は自分で考え、自分で行動する人間でなければならぬからである。それが為されないなら真の教育はありえない。

改良ムードじゃダメだ。

新宿高校全共闘

## 十一月十一日（火）

いつもの通り、三年を除いた殆んどのクラスでホームルームが開かれた。別に目だった事はなかったが、二Aの次のような決議によって、十二日（水）に全学集会が開かれることになった。二Aのクラス決議は次の通り。

全校生徒諸君へ!!

### 二Aクラス決議

我々は十一月七日六項目要求に関する学校当局の回答は曖昧な為、回答として認めることができない。よってここに次の五項目要求に対する学校当局の誠意ある回答を再度十一月十二日までに文書化して全校生徒に示すことを要求する。

### 一、許可制撤廃要求

具体例 ・許可制そのものについてどう思うか。

### 二、現行処分制度の基準を明示せよ。

・処分そのものについてどう考えるか。

・政治活動をした場合の処分（軽重にかかわらず）

### 三、文部省教育庁の高校生政治活動規制に対する学校当局の見解の明示

・高校生の政治活動そのものについてどう思うか。

・文部省教育庁と学校当局の見解が異なった場合学校当局はいかなる処分をとるかを明示せよ。

### 四、評価を前提とした一切の試験の廃止

・職員会議において話がどのくらい進んでいるのか具体的に示せ。

・先日出されたプリントの中の「多角化」とはどういうことが具体的に明示せよ。

### 五、特別考査

・特考存在の事実をどう考えるか。

・特考の目的を明示せよ。

以上のことを学校当局に対して提示する。

十一月十一日

二A一同

## 十一月十二日（水）

一・二時間目はいつもの通りホームルームが行なわれ、三時間目以降全学集会が開かれた。

全学集会では、主に政治活動禁止に対する学校側のはっきりした

見解の明示が求められた。この事について、校長と北地先生が主に

答えたが、始めのうちはやや曖昧に、高校生の政治活動を禁止しない、というような事を言っていた。そして、全共闘側ははっきり答えてほしい、と学校側に迫った。その結果、校長は「政治活動を禁止しない。ただし、政治活動をする前に先生や親によく相談し、慎重を期してほしい」と言明した。この政治活動を認める発言は、都立高では最初のもので、翌日の新聞に大きく取り上げられた。

政治活動についての討論が一段落した後、全共闘は各先生の今度の紛争に対する個人的見解の明示を要求し、多くの先生が発言したしかし、全学集会の終わり近くになって、全共闘の一人の生徒が、「先生方はもっとも自分の心の中を明かしてくれない。こんな集会はナンセンスである。この事に抗議してハンストに入ろう」と呼びかけた。これに応じて数人の生徒が直ちにハンスト入ると言明し、水のみ場の付近で生徒や先生がやめるように説得したが、結局説得できず、校長室前でハンストに入った。

このハンスト突入に関して数多くの生徒の反発があり、午後のホームルームでは殆んどのクラスがこのハンストの事についての話し合いを行なった。

何故ハンストを行なったのか生徒はよくわからなかったので、全共闘にその事を質したところ、生徒に今度の紛争について壁につきあたるところまでもっと深く考えてもらいたい、という事を啓発するために行なった、との事であった。

とにかくこのハンスト突入により紛争も新しい段階をむかえることになり、校内にみなぎっていた授業再開ムードはいっぺんにふっとんでしまった。

## 十一月十三日（木）

ハンストを行なっていた全共闘三名と有志一名のうち全共闘の一人がドクターストップで離脱した。

各クラスは前日にひきつづいてハンストに関しての討論を行なった。各クラスともハンストをやめさせたいという気運が強く、具体的にどうやってハンストをやめさせたらよいか、という事について討論を行なったクラスが殆んどであった。

別に目だった動きはなかったので、この日に全共闘が配ったビラをのせておく。

### 四名の学友ハンスト決行

昨日、我々全共闘三名と生徒有志一名の四名が校長室前においてハンストに突入した。このハンストにより我々はいまいで本質をとらえようとしない学校当局に抗議し、この様な状況になりながらそこから逃げようとしている生徒諸君に対し、問題の本質を正面からとらえ、行動する事を求めたい。

問題の本質とはまさに、四項目めに象徴的に表われてくるように我々が自分自身を受験体制の中の存在から真の学問を追求する自分へと変えていくことによって、教育体制社会体制の壁につき当たらずを得ないし、そしてまさにその壁をのりこえる事によってこそ初めて、真の学問を追求する人間に自分を変え得たといえるのではないだろうか。

現在の教育体制とは、実質的に我々を能力別に分類し、社会の各所に分配する「選別の体系」なのではないだろうか。

再度この問題の本質を正面からとらえ、行動する事を望みたい。

十一月十四日（金）

生徒の意識はもう十分高まっているから、ハンストは中止してほしい、という主旨の全学集会が開かれた。

しかし、全共闘側はある程度の意識の高まりは認めるが、まだ十分でないとしてハンスト続行を決めた。

この日もハンストをやめさせるためのホームルーム討論が活発に行なわれた。例えば二Fでは、全生徒の意識が高まったという事をハンストをしている人たちに理解してもらうために、今まで一人一人が考えたことを紙に書いてハンストをしている人たちに見せようと全生徒に呼びかけた。そして、そのための活動を行ない、全生徒の約半数にあたる人たちの意見を書いた紙を集めて、ハンスト実行者にわたしたが、それでもハンストは続けられた。

十一月十五日（土）

各クラスともハンスト中止のための活動を活発に行ない、この日の朝だけでも二B・二D・二Gの三枚ものビラが配られた。

一方ハンストのほうは午前七時半ごろドクターストップがかかり、中止された。しかし、全共闘側が協議した結果、人を交代してハンストを続けると決定し、九時ごろ、新しく交代した二名をもってハンストを再開した。

また、この日の四時間目から二B主催ハンスト中止要求の全学集会が開かれた。しかし、これに対しても全共闘側はまだ意識の向上が足りないとして、ハンスト続行を確認した。

なお、この日までに一・二年の三・四クラスが授業再開を決定し

ていたが、それらのクラスも実質的には殆んど授業は行なわれず、まだ一・二年の正常化のめどはついていなかった。

十一月十七日（月）

討論の行きずまりを打破しようと、二年では学年全体（二年AC E G組は音楽室、B D F H組は視聴覚室に分かれて行なった）の討論会が行なわれたが、一部のクラスがその討論会を終始リードしてしまい、他のクラスからは余り意見も出ず、結局討論の行きずまりを打破するには至らなかった。

この日の昼休み、全く予想外な事にハンストを全共闘側が中止したとの放送が入った。全共闘側は、この日だされた十五日付学校第三次回答に誠意が見られたとの理由でハンストを中止したと声明した。

なお、この日に出されて、ハンスト中止の原因ともなった学校側の回答は次の通り。

回 答

四十四年十一月十五日

織 田 富 勝

第一次（十一月七日）・第二次（十一月十日）回答後、諸君の中から、質問や要望があったので、それらも含めて答えたい。

一、許可制について

許可制そのものについては、従来提示・印刷物や集会・討論会等で述べられることがらが、一方的見解におちいることなく、広く深い理解の上に立つことを望んでいたことと、誤った事実が公表された場合、その修正手段が煩雑であること等を考慮したため

に実施してきた。しかし、一方で、私はつねづね諸君に学校生活を送る態度として、「自ら求め、考え、学習すること」を要望してきた。これは単に学校生活だけでなく、諸君が自分の生涯を生きて行くときの態度であってほしいと願っている。そこで、私はもろもろのことがらに対し事実についての正確な理解や論理的分析を通して、問題のとらえ方、考え方を積極的に身につけてほしいと考え、第二次回答のような具体的な方向を示した。

なお「自主規制機関の内容」についての質問があったが、この回答のねらいは、従来の教職員の許可によるのではなく生徒諸君の良識ある調整を期待することにある。したがって、自主規制機関の具体的な内容は諸君がきめてほしい。

また、集会・討論会についての「所定の手続き」についての質問があった。公共物を借用するときに手続きを必要とすることは当然であるが、「集会・討論会の内容については自由である」とことを前提とするものである。この趣旨にそって、所定の手続きの具体的内容を諸君と教職員と一緒にきめてほしい。

学校生活全般に関して右に述べたような諸君の自主制をのばす方向で進めていくことについて社会からその指導の責任を問われたとき、われわれ教職員一同は、しっかりとうけて立つ覚悟である。

二、処分について

処分はいわゆる処罰ではない。処罰はこらしめの色合いや、処罰そのものに重きをおく考えがあるように思われる。処分が実際には現われないような学校の状態を誰しも望んでいることと思う。基本的に人間はお互いに信頼しあって生きて行かなければなら

らないと私は信じている。しかし、人間の行ないは、ときとして誤りがあり得るということも覚悟しなければならない。行動には行動をとった主体者の責任がともなう。処分はそれが終わりでなく、指導の一環として行なうものである。政治的行動をしたというだけで処分はしない。しかし違法なものや、暴力等をとまなう場合はこの限りではない。

三、高校生の政治活動について

従来、「政治に関する研究は認めるが、行動はいつさい認めない」という方針をとってきた。それは、

① 考えることと行動することを比較するならば考えることは易しいが、行動することは難しいといえよう。

② 政治に関する問題は、複雑なものが多く、その見解も多岐に分れる場合が多い。したがって、それぞれの見解の基盤について十分理解することが望ましい。

③ 現実に行なわれる運動には、それぞれに背景があるので、それに対する考慮が望ましい。

④ 違法なものや暴力をとまなう危険のあるものは避けなければならぬ。

を考慮したためであった。

しかし、外部の政治的集会に参加したい希望があっても、従来の方針では教師と話し合うこともできないという諸君の苦しみがあった。そこで、行動をおこす前に、心をわって教師と生徒が右の①～④などについて話しあう機会をもちたいし、やむをえず行動にはいる場合も慎重ににやってほしいとの顔いから「政治に関心をもち、政治的教養を深めることは望ましいが、行動は慎重で

なければならぬ」とした。

いうまでもないことであるが、違法なものや暴力をとまらう行動については政治的行動であるか否にかかわらず認められない。

#### 四、評価を前提とした試験について

いま、各教科の考えをまとめ検討にはいり出したところである。なるべく、すみやかに結論を出したい。

#### 五、特別考査について

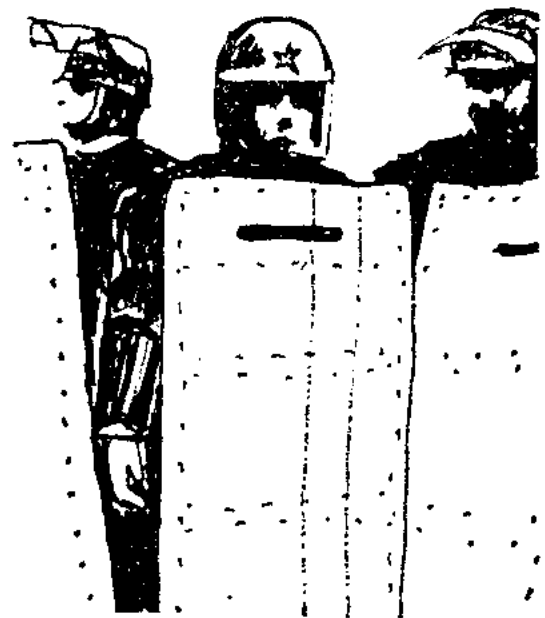
あるべき姿の高校教育の観点に立てば、受験のための特別考査を行なうことは望ましくないと考え、廃止する。

以上

★

★

なお、この十一月十七日に全共闘がハンストを中止したのをきっかけに授業再開するクラスがふえていき、一週間後の十一月二十四日には二年の一部のクラスを除いて全校授業に達し、一応正常化となった。



## 新宿徒然草

紛争エピソード

―（ビラの一生）―

紛争中は連日のビラ攻勢。ビラが配られなかった日は殆んどなかった。ここでは、紛争中配られ、焼却炉の横に落ちていた一枚のビラの回想をのせる。

私は十一月六日の夕方、全共闘諸君の手によって、生ぶ声をあげた。そして、その日の夜は、同じ仲間達にはさまれ窮乏な思いですごした。翌朝は、からりと晴れたよい天気であった。私はその日に、正門の所で配られた。私の所有者は一年生であった。その人は、私をポケットに入れた。私はそのポケットの中で数十分間過ごしたようである。私の所有者が私をポケットからとり出して、二・三秒目をやった。私はとても嬉しかった。が、しかし、彼は私をいきなり二つに折りはじめ、私を紙飛行機にかえ、窓から空へ飛ばした。私は彼に見守れながら、数十秒間空を飛んでいた。そして校庭に着陸した。そこで数時間過ごした後、私はほうきで掃かれて、焼却炉のわきに落とされた。

## 解説

### 一、原因

この紛争が起きた直接の原因としては、本校内に検閲などというような不合理なものが存在していた、という事実である。しかし、この紛争が起きた背景に次のような事があったからこそ、起きる必然性のようなものが内在したのである。

#### ① 生徒会の沈滞

例年ならば、十月下旬にはもう後期の役員選挙が済んでいるはずである。しかし、この年は、紛争発生時の十一月五日にもまだ役員の立候補者がそろわず、役員選挙が行なえる見通しは全然なかった。（ちなみに、後期役員選挙が行なわれたのは、十二月十一日であった）

② 教育庁通達・文部省見解などというような高校生の政治活動に対する弾圧的な文書が頻繁にだされた。

なお、この年には大学法が強行採決され、機動隊の学内導入が頻繁に行なわれた。

③ 青山高校をはじめとして多くの高校で相次いで紛争が起こった。全都立校の約四分の一の高校で紛争がおきた。紛争が起こった主な学校は次の通りである。日比谷・立川・上野・青山・竹早・学芸大付属・駒場・桜町・都立大付属・深沢・北・大山・九段・南・葛西工・玉川・志村高など合計三十一校。

#### ④ 政治の歪み

汚職件数一五七件。検挙人員一五六二人（12月25日現在）

### 二、発展

この紛争は、十一月十日と十七日にかけて、非常な盛り上がりを見せた。討論にもかなり熱が入り、顔つきもみんなかなり引きしまっていた。このような大きな盛り上がりを見せたという事は紛争当初は誰もが予想しえなかった事である。このような大きな盛り上がりを見せた原因はさがしにくい、さがせたものをあげると次のようになる。

① 全共闘の問題提起がある程度正しかった。

現在の社会には、いろいろな矛盾があり、生徒も前々から少しではあるが問題意識を持っていたようである。その問題意識が全共闘の論理によって、より高められたようである。

② 感情的になった。

一部のクラスでは、討論に熱が入りすぎて、しまいには互いの罵り合いになった。それにつられて、みんなもかなり感情的になったようである。

③ ハンストが行なわれた。

ハンストは人道上に関する事なので、誰もが関心をもった。

④ 日常性の打破

毎日きまった時間に授業が始まり、きまった時間に授業が終わる、というような単調な学校生活のくり返し。この単調な学校生活を破ったのが、今度の紛争。単調な学校生活のくり返しにあきている生徒達が、この紛争という日常性を打破したものに魅かれるというのは当然の事であろう。今度の紛争が大きく

盛り上がった第一の原因が、この日常性打破という心の奥底にある欲求であろうと思う。

### 三、消沈

この紛争が終わった後は、まるで火が消えたように消沈してしまった。紛争が終わってから授業と討論会を平行して行なっていたところと決議したクラスも数多くあったが、それを実行したクラスはわずかに一・二クラスにすぎず、大部分のクラスでは紛争後も引き続き討論をやっているという事は実行されなかった。

紛争前と紛争後を比べてみても、殆んど生徒には変化がなかった。この事が、紛争は結局一時期のお遊びにすぎなかった、といわれゆえんである。

紛争後、沈滞してしまった理由は数多くあるが、その中からいくつか抜き出してみる。

- ① 討論のやりすぎ  
討論をやりすぎたため、意見を言いつくしてしまい、これ以上討論やっても何の発展もないと感じた生徒が数多くいた。
- ② 日常性への思慕  
日常性を打破された状態が長く続くと、もとの状態に戻りたい、という気持ちが働く。これは一種の人間の性質である。
- ③ 受験や進級などからくるジレンマ  
余り長期にわたって紛争を長びかせてしまうと、当然受験や進級などに影響が出てくるわけである。それに、受験や進級を犠牲にしてまでも、授業をつぶし、討論をやっていく価値がないと考える生徒も多かった。

## 変革

(当初は「成果」という項目にする予定だったが、委員の中からあれを成果とみるのは一方的である、との異議が出され、検討した結果「成果」を「変革」に変更した)

変革されたものとしてあげられるのは許可制廃止・政治活動の自由・特別考査の廃止の三つである。

### 一、許可制廃止

学校側は従来、掲示・印刷物や集会・討論会等について許可制を採用してきた。それは、そこで述べられることがらについて、一方的見解におちいることなく、広く深い理解を望んでいたこと、また誤った事実が公表された場合、その修正手段が煩雑である等を考慮したためであった。(学校側第三次回答による)

そして「生徒が、もろもろのことがらに對し、事実についての正確な理解や論理的分析を通して、問題のとらえ方、考え方を積極的に身につけてほしい」として、許可制を廃止した。

許可制については前から問題となっていた。特に四十三年度には、生徒大会の時間延長を認めなかった学校を追求した意見を載せたプリントが印刷し終わって発行する寸前に、職員会議が発行を認めないと決定し、廃棄処分にされてしまった。この時、大きく許可制という事がクローズ・アップされた。そして、規約検討委でも、改めて許可制の事が取り上げられた。

また「確かに現在の評価とか特考などは悪いが、そういうものを廃止すれば受験に不利になるだけであり、結局新宿高校だけが損をする」と考えた生徒が多かったのも事実である。

- ④ 全共闘が紛争後、積極的な活動を行なわなかった。  
紛争後も、全共闘はほとんど全学集会などを開催していくと思われていた。しかし、そのような活動は行なわなかった。また、十二月十日に行なわれた生徒会役員選挙の立会演説会に於ても、多くの質問はしたが熱気に欠けていた。全共闘は翌日の十一日開かれる選挙を實力で阻止する、と言っていたが、結局、そのような行動はせず、選挙ボイコットを呼びかけたにすぎなかった。

- ⑤ 無力感  
討論会をいくらやったって、結局この体制は崩す事ができないんだから、意味がない、と考える人が多かった。
- ⑥ 受動的な生徒の態度  
何か与えなければ何もやらない、というような受動的な生徒が多かった。このような受動的な生徒が多かったというのが、紛争後、急激に消沈してしまった第一の原因であろう。紛争が終われば、何も与えられない、何も与えられてないから何もやらない。だから、結局、紛争後は何もやらなかったのである。
- ⑦ 時間的余裕がない  
放課後、討論会を開催しても、結局集まるのは暇人かよほど関心の強い人たちだけである。これは、生徒が時間的余裕がない事と、放課後の自由な時間を束縛されたくない、との理由も大きいと思われる。

しかし、四十三年度前期の総務は学園祭を最重視、許可制というものをさして重要視せず、規約検討委の議題ともしなかったために、四十二年度後期に盛り上がった許可制の問題は自然消滅してしまった。

四十三年度後期総務は許可制廃止を大きな方針として打ち出し、再び許可制問題に火をつけた。総務は任期中に許可制廃止を実現するために、規約検討委を何度も開催し、精力的に規約改正にとりくんだ。そして、草案を作製し、職員会議に出した。教師側では、その草案を審議する期間が少ないので生徒大会に取り上げるな、との「指導」を出した。その結果、規約改正によって許可制を廃止する事ができなかった。このいきさつを知っている人たちは、許可制を廃止する事は合法的には絶対出来ないと考えた。

四十四年度前期は、総務内で許可制廃止についての考えが分裂してしまい、規約検でも、毎年問題になる三学期の生徒大会の定足数などを取り上げ、許可制については取り上げなかったので再び許可制問題は消滅してしまった。

学校側は今度の紛争で許可制を廃止した。そして、学校側が今まで許可制を行なっていた理由も発表された。

みんなに考えてもらいたい事が一つある。それは、今度の紛争がおきたから、許可制が廃止されたという事である。四十三年度のように合法的に許可制を廃止しようとした時には、学校側はその事に對して大きな弾圧を加えたのである。

### 二、政治活動の自由

四十三年四月に「高校生の政治的活動は好ましくない」という教

育庁通達が出された。この事は四十三年前期の生徒大会でも大問題となり、教育庁通達を考える特別委員会というのが作られた。しかし、この通達に対して一般生徒が盛り上がったのはその生徒大会の時だけであった。

学校長が政治活動を認める発言をした時には、翌朝の新聞に大きく取り上げられたが、生徒に別にたいした反響はなかった。それは、政治活動をした事がない生徒が多く、直接自分の事としてとらえる事ができなかった、というのも一つの理由である。しかし、政治活動をした事のある生徒の間にも殆んど反響のなかった事を考えれば、今まで学校が政治活動を禁止していたとはいえ、それを守らせることはできなかったという事が一番大きな理由であろう。

だから、この政治活動が自由になったという事は、表面上の変革にすぎず、今度の紛争においても、そう大きな役割を演じていない。

しかし、学校側が教育庁や文部省の高校生政治活動禁止という方針に逆らったという点を考えれば、対外的には大きな役割を演じたといつてよい。

それに、今まではデモや集会等に本校生がどの程度加わっているかを知るために、教師側が集会などに監視しにくるため、参加生徒の精神的な圧迫もあったが、今度はそれもなくと思われるのでその点においては一つの変革としてあげる事はできる。

### 三、特別考査の廃止

特別考査は今までも問題となっていた。それは、全共闘が問題としたものとは異なり、次の三点である。

## 問題点

今度の紛争の問題点はハンスト行為・生徒会役員選挙の大幅延期・三年遠足中止の三点である。

### 一、ハンスト行為

今度の紛争で、ハンスト行為が投げかけた影響は極めて大きかった。ここでは、ハンストをした態度の曖昧さとハンストという一種の力によって勝ちとったものである、という二つに問題をしばって追求してみた。

#### ① 態度の曖昧さ

ハンストは十一月十二日の全学集会直後に行なわれた。

ハンストに入る前に開かれた全学集会で、全共闘に属する二年のある生徒が、先生一人一人の今度の紛争に対する考えを聞き終えた後に、マイクの所へ行って次のように叫んだ。

「先生方はちっとも本当の姿を我々生徒の前に示してくれない。こんな状態で全学集をやっているのも全くナンセンスだ。この先生方の曖昧な態度に抗議するためにハンストを行なおう」

この発言をきっかけとして四人の生徒がハンストに入った。

しかし、その日の午後に全共闘が説明したハンストに入った理由は、次のように変わっていた。

「生徒はもはや壁につきあたって考える事をやめてしまった。我々全共闘はこの事に深く抗議する意味でハンストに入った。生徒は考える事をやめずに、つきあたった壁を乗り越えるまで考えてもらい

#### ① 授業をつぶして行なわれる

#### ② 実質的には半ば強制的に受けさせられる

#### ③ 有料である

全共闘が問題としている点は、特別考査が受験体制に奉仕しているという点である。

学校側はこの全共闘側の主張を全面的に認め、特考を廃止した。しかし、生徒の間には特別考査廃止に関しては反対意見もあり、従って、この特別考査の廃止という事は、必ずしも成果とはいえないであろう。

学校側はこの特別考査を受験体制に奉仕するものと認めた。これは我々のクラス討論に於いても同様であった。しかし生徒の中には、その存在の矛盾を認めながらも、現実の厳しい受験体制を考えると「全面廃止」に対する少なからぬ不安もあった。

全廃案と改革案の交錯するなかで、学校側が打ち出した「全面廃止」の方針は、学校が自ら受験至上主義の否定へ我々を先導することとなり、その点で他の項目とは異質のものである。



たい。我々全共闘は生徒にもっと意識を高めてもらいたいのだ」

そして、その理由を正式な理由として生徒に示した。

生徒側は意識はもう高まったのだ、という事を示すために何度も全学集会を開いたりして、ハンストをやめさせようとした。しかしそのたびに全共闘は、ある程度の意識の向上は認めるがまだ十分とは言えない、と言ってハンストを続けてきた。

ハンストが途中で人を代えた事もあった、生徒側はハンストは終わりそうもない、と考え半ば解決に対して絶望視していた。

しかし、ハンスト突入から五日経過した十一月十七日、全共闘は突如としてハンストを中止した。この突然のハンスト中止に対しては生徒のだれしもが驚いた。ハンストは終わりそうにない、と生徒達は思っていたのだから驚くのは当然である。

このハンスト中止の理由を全共闘は「学校側第三次回答に誠意がみられたからハンストを中止した」と述べた。従って生徒の意識が高まったからやめたのではなかった。

結局、馬鹿をみたのはハンストを中止させるための活動を精力的に行なった各クラスであった。

このように、全共闘はハンストに関しては全く一貫性を持たず、その場、その場の安易な考えで対処し、そのために多くの一般生徒が多大な迷惑をこうむったにもかかわらず、ハンスト中止後も何らの自己批判も行なわなかった全共闘は強く非難されて当然である。この全共闘のハンストに対する曖昧さは、一貫した理論が売りものの全共闘の今度の闘争に大きな汚点を残したと言っても過言ではない。

#### ② 力によって勝ちとったものであるという事

このハンストによって学校側第三次回答を勝ちとる事ができたわけである。

我が校においては、生徒会に対しては学校側の圧力が大きかったから、いわゆる合法的にいろいろな事象を変えていくという事はほとんど不可能であった。それは四十三年度後期総務の検閲廃止運動に対する大きな弾圧や四十四年度の学園祭におけるグループ参加を認めるという方針に対して出された当初の教師側の大きな反対をみてもわかると思う。

従って、学校管理下におかれた生徒会であるという所に学校側の「力（＝弾圧）」に対する生徒側の「力」が肯定される要素がある。

しかし、今度の紛争における全共闘の力（ハンスト）をもって勝ち得たものの内容（特考廃止・許可制廃止など）は必ずしも大多数の生徒の支持をうけていない。生徒の大多数の支持を背景として、「力」を行使するならばその行為は肯定される。

六項目を共闘が学校に要求するのは自由である。しかし、学校側はその六項目全てが生徒の支持を受けているとは限らないと思えばその生徒の支持を受けていない部分は、認めてはならないはずである。何故ならばもし一部の生徒が生徒会活動をもっと弾圧しろ、と言ってハンストを行なったならば、学校側がハンストを早く中止させるためにその生徒が要求した事を飲み込んでかまわないのであろうか。

今度の紛争において、生徒のどの程度が六項目要求を支持しているのかをはっきりつかまずに、ある面で一方的に全共闘側の言い分を認めてしまった学校側には問題がある。

### 三、二年遠足中止

紛争が起こった翌日の十一月六日に予定されていた一・二年生の遠足のうち、二年生の遠足が中止になった。

この遠足中止のいきさつは経過の所でも述べた通り、二Gの遠足中止のクラス決議が発端となった。そして、二年生の全クラスで遠足を中止するか決行するかについてのクラス決議を行なったところ二年のAEGの各クラスで中止がCDFHの各クラスで決行がそれぞれ決議された。二Bは決行とする意見の方が中止とする意見よりもわずかに多かったが、どちらも過半数をとる事ができず決議ができなかった。この結果、「遠足は学年の各クラスがそろって行くべきもので、遠足中止を決議したクラスがある以上遠足を行なう事はできない」との学校見解により、学校側によって二年生の遠足を中止させられた。

この二年遠足中止に対しては、何もそう大きく取り立てて騒ぐべきものではないと思うむきもあると思う。しかし、この二年生の秋の遠足は例年、一年間の学校行事の中には予定されておらず行なわれるべきものではなかった。今年も例年通り二年生の秋の遠足は学校の年間予定には入っていなかった。その事に対して一部の二年生が「一年生は秋にも遠足があるのに二年生は秋に遠足がないのはおかしい」として、二年ホームルーム連絡会議などで問題とし、二年生の各先生などに遠足を行なうよう働きかけた。これが功を發し、二年の全てのクラスが遠足を行なう事を決議すれば遠足を行なうという事になった。そして、各クラスでこの遠足の事についての討論をしたところ、全てのクラスで、秋の遠足を行なうという事が圧倒的

### 二、生徒会役員選挙の大幅延期

この紛争の直後、全共闘は現状の生徒会はナンセンスである、という事を言明した。そのために、生徒会役員になった時の学校側と全共闘側による大きな板ばさみが予想された。そういう中であえて立候補しようという人は紛争前から立候補を表明した人以外は皆無の状態が長い間続いた。そして、結局は紛争も終わって長い時間が経過した十二月三日になってやっと候補者がそろうというような事態になってしまった。しかも、その時立候補した人は選管委員長、前会長・代表会議副議長とその友人というような、立候補者がいないために責任を感じて立候補した人たちであった。

選挙が行なわれたのは十二月十一日であり、何と後期総務の正式な発足時である十月一日から約二か月半という生徒会始まって以来の長い期間遅れて後期総務が発足するというような事になってしまった。

この立候補者がなかなか出て来なかったという事は、紛争だけが原因でなく、生徒大会を開いてもなかなか定足数に達しないというような生徒会に対する関心の低さや全国的に高校生の間で広まっている無気力感なども考えられる。

しかし、生徒会総務室が十月下旬以来全共闘に占拠され、前期総務の事務代行に支障をきたしたというような事も考えれば、今度の紛争が生徒会後期役員選挙に及ぼした影響は大きいといえよう。

（なお、立会演説会が行なわれた時には思ったよりも全共闘の妨害が少なく新総務発足後も全共闘の妨害はなかった）

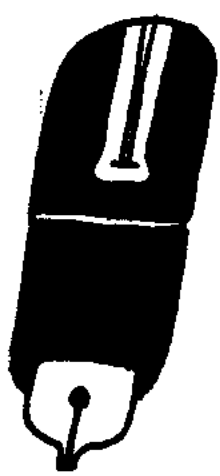
多数の賛成を得て決議された。これに基づいて年間行事予定になかった二年生の秋の遠足が行なわれる事になった。

このように、二年遠足は最初に予定されていなかったものを、生徒達の強い要求によって学校側がその実施を認めたといういきさつがあったものなのである。しかし、結局紛争によって中止になってしまったのである。

遠足という小さな問題であるが、生徒の下からのつき上げによって、受験至上主義の学校の体制に一矢を報いたということは高く評価されてよいだろう。

しかるに、許可制や政治活動の問題で我々生徒の「自主性」獲得を標榜する全共闘が、我々の自主性の一つの発現であった遠足を、はからずも圧殺する結果となってしまったのは残念なことである。

結局今年は二年生の秋の遠足はできなかった。だから来年の年間予定にも再び二年生の秋の遠足はできないかもしれない。この秋の遠足がないという事は、ある程度受験を意識したものと考えられてしかたがない事である。今度の紛争が本校内にある受験によって歪められたものを是正するために行なわれたものであったならば、この二年の秋の遠足がないという事や三年には春の遠足も秋の遠足もないという事に対しても、当然目を向けてしかるべきだと思う。



# 人間模様

紛争中はいろいろな出来事があった。そして、その出来事に対する反応も多種多様あり、様々な人間模様がくりひろげられた。ここではその人間模様を探り生徒を分類してみた。

なお、この特集は硬い部分が多いので、ここではユーモアを数多く取り上げて構成した。

## 一、態度による分類

ホームルームにおける態度を主として深夜タクシー拾い派・酔っ払い派・計算派・ムード派・機械派・瞑想派・蒸発派の七つに分類してみた。

### ① 深夜タクシー拾い派

深夜タクシーを拾う時のようにやたらと手を上げるのでこの名を付けた。大物派と小物派に分ける事ができる。

大物派は、自分の意見が論理的に絶対正しいのだと信じて疑わない自信家に多い。その自信は確固たるものがあり、「俺の意見が正しい」という事を認識できないような奴は、理解力が低いという事を自ら証明したようなものだ」などと平気で言う。大物であるから、手を上げているのに「乗車拒否」されても一向動じない。数は非常に少なく、いないクラスも多い。

小物派は、別に大した論理を持っていないわけではないが、存在を誇示するためと退屈さをまぎらわすために手を上げる。

この深夜タクシー拾い派がいるクラスは討論会がいつも活気があり、いないクラスのホームルーム運営委員の羨望的となっている。

### ④ ムード派

紛争にはかなり関心を示すが、自分の意見というものはっきり持っていないために、その時、その時のムードによって意見がかわる。キャスティング・ボートの存在なので、先生や全共闘派などいろいろな所から重宝がられる。数は多かったが、今度の紛争を動かす事は出来なかった。

### ⑤ 機械派

させば、意見を言うが、ささなければいつまでも黙っている。この名を付けた。

機械のように、余り考える事はせず、今度の紛争に対する関心も低い。

主体的に行動する事はせず、いつも受身的なので、各方面の非難を浴びているが、それに対しても機械のように腹を立てない。ニヒリスティック的存在である。数は少なくない。

### ⑥ 瞑想派

討論の時なども全く口を開かない。沈黙を愛し一人瞑想にふけている。悟りを開いているらしく、何が来ようと動かない。身体的特徴としては余り口を開かないので口が小さい。

### ⑦ 蒸発派

紛争には全く関心がなく、紛争中は学校へ来なかったり、途中で蒸発したりした。利己的な所は計算派に近いが、この蒸発派は計算など全くせず、汝の心に欲するものに従って動く。この中には遊び人間やガリ勉人間などいろいろいる。

この派は多いクラスあり、少ないクラスありで、平均的には分布していない。

### ② 酔っ払い派

感情的で興奮しやすい。発言する時に酔っ払いのように熱気をむんむん漂わせ、顔を真赤にする事からこの名を付けた。

この派もよく手を上げるが、深夜タクシー拾い派と違う点は深夜タクシー拾い派はコンスタントに多く手を上げるのに対して、この酔っ払い派は「酒気」を帯びた時には多く手を上げるが、「酒気」を帯びていない時には余り手を上げない、というように波がある点である。

「乗車拒否」されると非常に怒る。手を上げる時に右手を高く、体乗り出すようにして上げるので、身体的には左手よりも右手の方が数センチ長いと思われる。

なお、この派は殆んどが男子で占められている。

### ③ 計算派

非常に冷静で常に頭の中では計算が行なわれている。手を上げる時に消耗するエネルギーの量が発言した時に得る利益よりも大きいと計算の結果が出れば手を上げず、その逆だと手を上げる。資本主義や共産主義の影響を殆んど受けず、イギリス功利主義の影響を受けた生徒に多い。他人に迷惑は全くかけずして、自分の利益のみに動く人間なので、害のないエゴイストである。

紛争中は一日に十数回は手を上げるので、手を上げる回数は多い方であり、前述の二派の次に多い。

なお、この派に属する生徒は階段を登る時や特別教室に行く時に最短距離を通って行くので、いつもわずかの差で遅刻している生徒はこの派に属する生徒の歩く道を参考にするというだろう。

この派も殆んど男子で占められている。

## 二、思想による分類

思想による分類は細かく分けるときりがないので、ここでは大ざっぱに授業指向派・なりゆき派・紛争貫徹派の三つに分けた。

### ① 授業指向派

紛争中の殆んどの間際にわたって一貫して授業再開を叫び続けてきた派。大部分の生徒を敵に回して戦ってきたので意志はかなり強い。

その立場の背景となる考えとしては、「討論は授業外にやればよい」というのが殆んどである。

紛争中も、授業をやる可能性が少しはあると考え、毎日重さ10キログラム前後のかばんを持ち、わきに重さ5キログラムの辞書を抱えて登校してきた。従って腕の太さは抜群。腕相撲をやったら、かなり強い事が推察できる。

これはさておき、この派に属する生徒は当初、非常に数が少なかった。それゆえ、授業再開の可能性は少なかった。この派の人数を増やすために、積極的なオルグ活動をやった。

### ② なりゆき派

出来事全て天命なり、と考え、今度の紛争も神の思うままにまかせようと考えた、非常に謙虚で神の恵み深き生徒達が属している派。圧倒的多数派であり、「紛争は落ち着く所に落ち着き、何とかなるだろう」と考えている楽天派あり、「所詮、俺の考え通りにいくはずがないから、あきらめてなりゆきを見よう」と考えている悲愴派ありで、様々である。

世の人々は主体性なき生徒と言うけれども、柔軟性に富んで対立

が激化するのを押えているという重要な役割を演じている事をお忘れなく。

### ③ 紛争貫徹派

討論をもっとやり続けるべきだ、と考え紛争を続けようと主張する派である。全学封鎖にもつていこうなどと考える過激な生徒は殆んどいない。

紛争中にこの紛争貫徹を主張した生徒は数多くあったけれども、紛争後は別に何ら積極的な活動を行なわなかった者も少なくなかった。

この派に属する全共闘のみについて考えてみると、他の学校の全共闘とは著しく違っている。その相違点を次にあげてみる。

#### 一、穏便である

この点は全く他校の全共闘と相違している。私事で恐縮だが、僕が日比谷高校のバリケードの中を訪れた時にいた全共闘のメンバーは顔はひきしまり、話す口調は例のアジ演説調、髪はボサボサであり、本校の全共闘のようにおっとりしていなかった。

なお、穏便であったから、先生や生徒達の全共闘に対する反感は余りなく、処分も行なわれなかったのだと思う。

#### 二、全体に一貫した考えがない

大前提（Ⅱ反体制）では一致しているが、細かい所ではかなり意見が食い違っている。これは全共闘も言っている通り、全共闘が開放された集団である、という所からくる必然性であろう。

しかし、問題点の所でもあげたように、この一貫した考え方がない、という事が原因で、ハンスト行為に対する位置付けが曖昧だった事は問題である。

## 新宿徒然草

### 紛争エピソード

#### —— ブッ飛ばされた裏言語 ——

裏言語とは「 teme me」とか「 o me」などという言葉の事である。

裏言語は他の高校の紛争ではかなり使われた。そこで紛争の起こった我が校でも、大分使われる事が予想された。

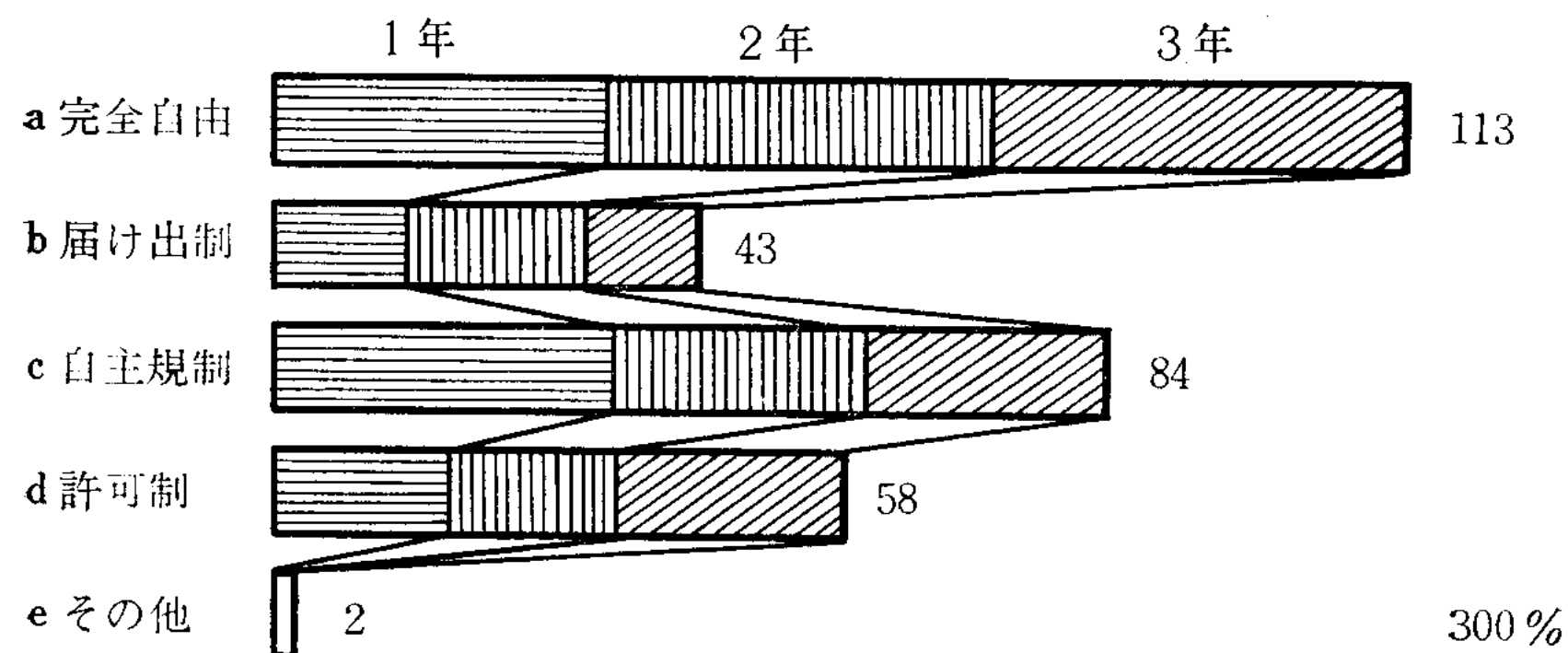
しかし、その予想は見事ブッ飛ばされてしまった。紛争中は数多く教師との話し合いが行なわれた。その話し合いにおいてもちゃんとした敬語が使われ、敬語を使い落とした時には、あわてて言い直す、といった具合である。

裏言語の使用量は、一般的に教師と生徒の断絶の深さに比例すると言われているから、我が校は他校と比べて断絶が少ないという事が言えるのか……。

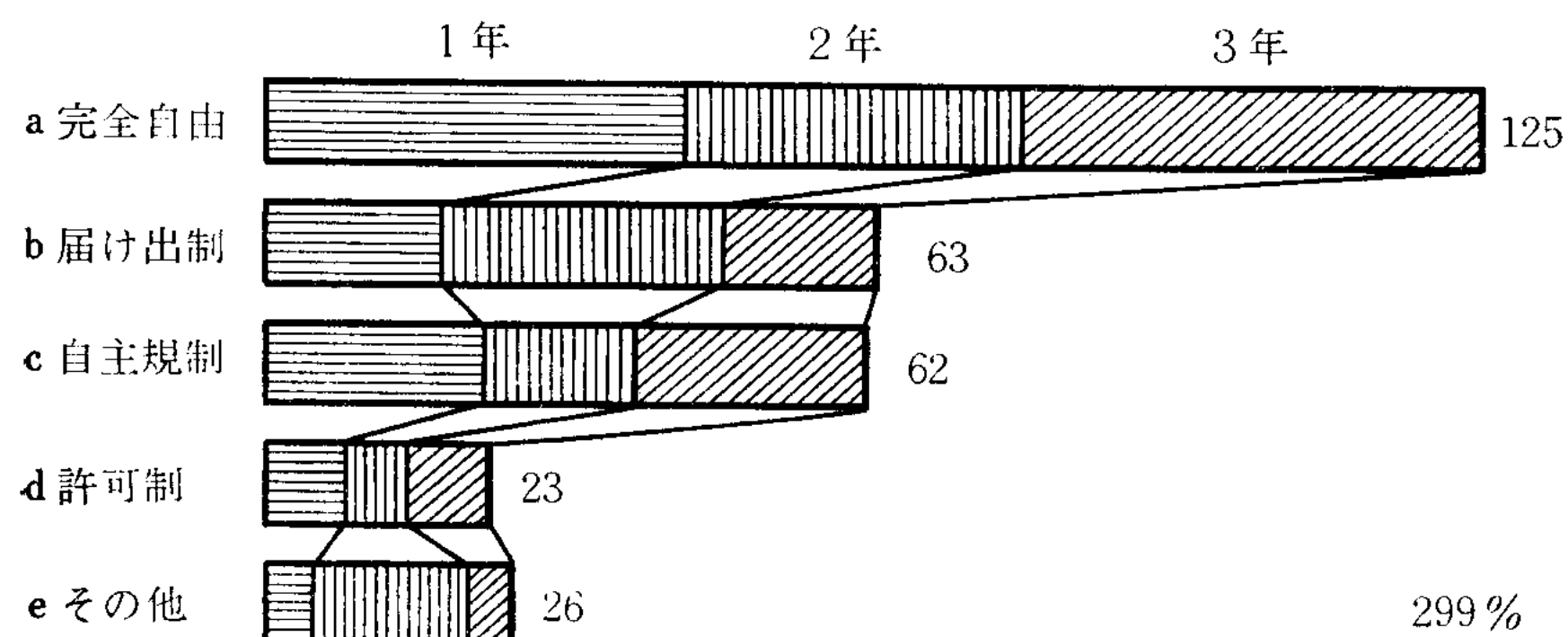
ともかく、この裏言語を使わなかったという点は、紛争中でもあまり理性を失っていなかった、という事になり、大いに誇ってよい事である。

許可制に関するアンケート資料 単位%

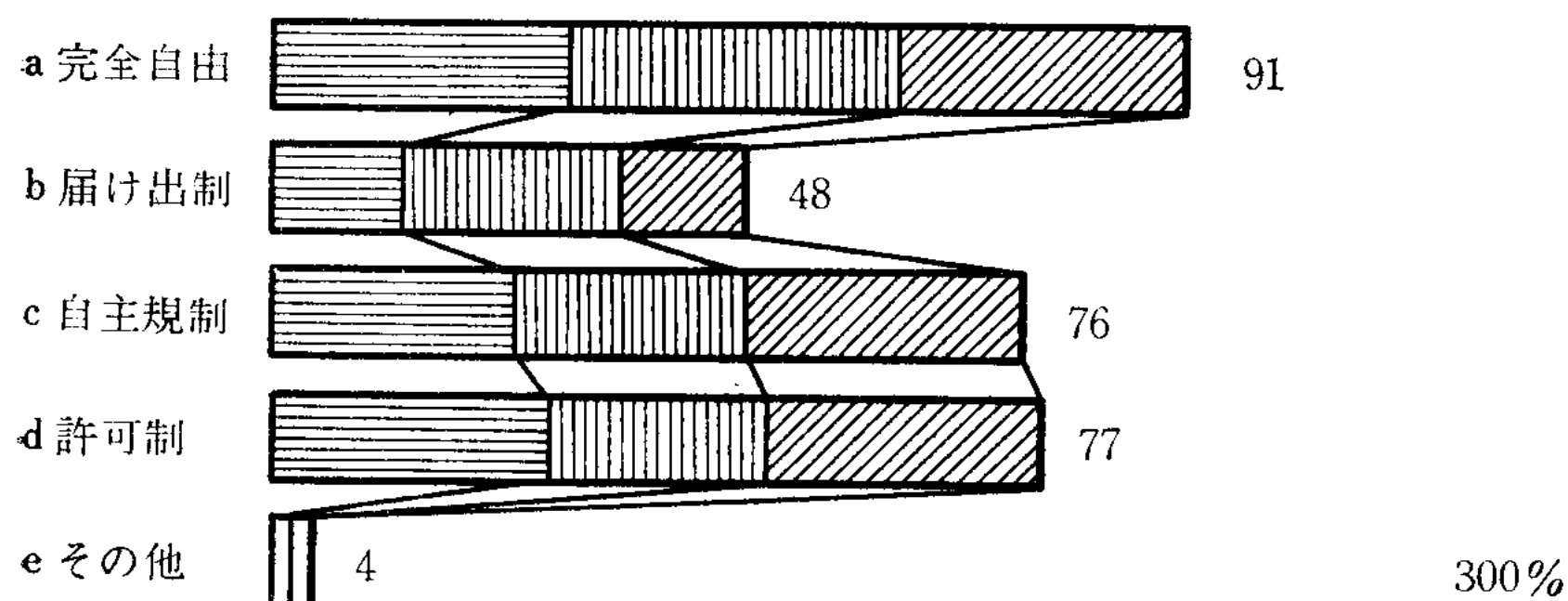
#### I. 轍、論文新報について



#### II. ビラについて



#### III. 朝陽時報、放送について



## 資料解説

昨年の十一月に行なった許可制に関するアンケートの結果は、朝陽時報で一部既報したが、ここでさらに詳しくお伝えする。対象は一、二、三年約四百名で、時期は職員側の第三次回答が提出された後、つまり轍、論文新報に関しては完全に職員の手を離れて自由にビラ、集会等については生徒側で自主規制機関を設けてその下で行なう、また朝陽時報、放送などについては今まで通りの許可制を施行するという回答が出された後の時点である。

このアンケートの欠点としては使われている語の意味の曖昧さにあり、つまり具体的にいうと「完全自由」と「自主規制」との違いが明確に理解されていなかった。「完全自由」というのは発行する時に発行者又は発行団体が他から発行一切について制約を受けないで発行できることであり、「自主規制」というのは独立した自主規制機関をつくり、そこで事務的であれ、内容的であれ許可制を施行する方法である。届け出制というのは、規制機関へ発行を届けるのみで、制約は受けない。だいたいこのような意味でこれらの語を使用したのであるが、理解されたかどうかは甚だ疑問である。

なお、回収率が一番高かったのは二年で、次には一年で三年が一番悪かった。ビラ、集会に対す自主規制機関の設置だけで許可制の問題が解決するわけではもちろんなく、さらに多くの改革が必要であり、その一つの資料としてここに提出したつもりである。

☆

☆

## まとめ

二十数ページを費やした特集も一応これで終わりとなるが、読んでいる皆さんには何か物足りない事と思う。

これは時間的な余裕がなかったために、この四十四年度紛争を多角的にみる事ができなかったためである。

これはさておき、今度の紛争では数多くの授業がつぶされ、期末考査も試験休みもなくなる、といったような犠牲があった。今後もう、あの紛争から多くの時が経過しているから、あの紛争を客観視する事が可能だろう。そして、考えてもらいたい、紛争前の自分と紛争後の自分を。もしそこに何ら変革点がなければ、その人にとって、あの紛争は無意味なものであった事になる。あれだけ授業をつぶす価値があったかどうか、という事はその人が紛争によって何を得たか、という事によって決まる。

今年は激動の七〇年といわれる。学生運動は、去年で衰退してしまったが、高校生のその種の運動は、今年もまだ広がる可能性は十分ある。今年も去年と同様、我が校に紛争が起こるかも知れない。その時に、もう一度、この轍の特集を読んでもらいたい。そして、去年の紛争がどうあったのか、という事をしっかり認識してもらいたい。

昭和四十四年度轍委員会

(執筆 鬼沢一寿)

まずⅠの轍、論文新報については、完全自由が一番多いが、自主規制機関の設置の希望がな多いことが注目される。我々生徒としては第三次回答で完全自由と提出されたからそれに従うのではなく回答を一つの提案として受け、さらにこの問題について討論をしていくことが重要ではないかと思われる。もっと話し合いを生徒の間で行ない、意見をまとめていく方向を望みたい。一、二、三年の割合はだいたい同じようである。

次にⅡはビラに関してであるが、回答以前に行なわれていた許可制を望む声は非常に少なく、反対に完全自由が全体の半分近くを占める。また届け出制、自主規制は完全自由のそれぞれ半分である。

Ⅰのその他で多いのは合議制、許可制を以前よりも強化せよ、などがあった。学年別では二年に届け出制が多く、自主規制が比較的小さい。

Ⅲは取り残された感じが強い朝陽時報と放送であるが、ここではⅠを除いた四つの項の平均化が目立つ。特に完全自由と許可制がこんなに差を縮めたのは前のⅠ、Ⅱでは見られなかった事で、さらに一年と三年で完全自由と許可制はほとんど同数で、aとcの差はだいたい二年での差と見ることもできる。しかし、a、b、cの三項を現在からの改革意見としてとり、dを現状維持の見意として見ると圧倒的に改革意見の方が多いことが判る。

全体としても改革意見が大勢を占めることは確かだが改革意見の中で種々の意見に分かれており、さらに討論の必要があると思われる。またⅠ、Ⅱ、Ⅲとも、特にⅢで言えることは、今まで行なわれていた許可制の実態をよく知らないので、答えられないという意見がかなりあったことである。

## 新宿徒然草

### 業間体操

業間体操があった時は、さぼる者も多く、先生方の不評を買っていたが、いざなくなってみれば何とさびしいことよ。

業間体操はさぼる人も多かったが、好きな人もかなりいた。業間体操を楽しみに学校へ来ていた人も実際に存在し、またよいコミュニケーションの発露の場でもあった。

そのみならず、朝のすがすがしい空気の中に頭をさらせば、三四時限目の勉強もさえるというものだ。

業間体操がなくなってからというもの、業間の三十分が暇でしやうがない。

その暇つぶしのために、卓球とかトランプがはやってるが、それらはあの日光のもとで行なう業間体操と比べれば実につまらない事である。

業間体操の復活を当局に強く望む。

# 詩

## 二 F 松 香 光 信

＊

うすぐらい博物館の中を  
一人の小男がうろろろしている  
何をやりたいのか  
その偉大なる展示物のひとつひとつを  
必死に感性によって  
凝視している  
ともすると恐ろしいものを見た様に  
身ぶるいして齒を喰いしぼり  
床にうずくまる  
ある瞬間突然立ちあがり  
その中の一つをこぶしで砕く  
また一つを足で蹴り倒す

偉大な展示物たちは

その狼藉者を

威圧しようというのか

いっせいに目を開き睨む

その無数の視線は

重く、ほこりっぽく、太く、鈍く

そしてその中に巨大な誇りと名誉が

ギリギリとうなっている

この太古の大神殿の中で

まさにすさまじい死闘が行なわれつつあるのだ

その昔ローマの神々がここに現われたとき

腐った彫像はすべて破壊された

しかしその神々をもよせつけぬ

がんとした作品も中にはあった

やり得る事をすませると

神々はそれでも満足して帰っていった

だが今、たかが一個の人間の分際で

それをも破壊しようとしている

者がある

もはや神々のいない今

それをあえてしようとしているのだ

ああこの冒瀆者！

神聖なる宮殿を汚す者よ！

だがそやつこそ

恐怖と絶望で蒼白になっていることを

汝等よ知れ！

またそやつの心臓が

怒りと悲しみと疑惑で

破れんばかりに

ふくれあがっているのを知れ！

そやつは毛穴から血をふき、

こぶしからは骨を見せ、

なおも厳然とした、

神々をも屈服せしめた、

存在に向かっているのだ

何かが見守るその中で、

慟哭し、涙をしたらせて、

今も暗黒の中でたたずむ、

孤独な人間がある

＊

## つ ぶ や き

## 二年C組 米 沢 芳 彦

草むらがあった

木があった

気がついた

薄暗い。

雑木林、

きがついた

地面が傾いていた

気がついた

山があった。いっぱい木が繁っていた

目に写った空

真青な。青。

歩いた、進んだ

苦しくなった

きがついた

空が拡って。

気がついた

空に黄く輝く。

太陽、

汗がでた

見上げた

そして寝ころんだ

エスプリ

## 「どう生きよう」

2 F 庄司健一

あまり

いろんな

感情が

錯乱している社会なので

そこから

ある一定の法則をもった

道程をさがしだすことなど

不可能なのだ

傷を負った人間が

自分を正当化しようと

あらゆる寓話をつくりだし

無思想の青年や

死んでしまった大人たちが

それに喜んで同調したので

ゆがんだ悲しみだらけの

小さな社会ができあがってしまった

人は

やたら

青い空間に線をひきたがり

複雑な幾何学を説こうとあせる

いくんだ

直線や曲線

その間から

孤独な人間の

深い吐息がもれ

空が低くなり

太陽が姿をけしてしまったのに

人はそれを

メルヘンの国の

魔法使いのせいにする

うすぐらいほこり

私はそこから生まれたのだ

そう思うことがある

しかし

だれが私のことを

考えてくれるのだろうか

ヒューヒューと吹きぬける風

うすぐらいほこり

私はそこから生まれだ

そう思うことがある

## 「秋」

机上の地球儀をつつついて

故郷はどこなんだろう

と思うことがある

砂山の砂を数えながら

これは何の墓なのだろう

と思うことがある

流れる雲をみながら

だれが故郷のことを想うのだろう

そう思うことがある

ヒューヒューと吹きぬける風

# クラブ活動報告

|       |    |
|-------|----|
| 人 文 科 | 36 |
| 芸 能 科 | 38 |
| 理 数 科 | 42 |
| 体 育 科 | 44 |
| 二 部   | 52 |
| 同 好 会 | 53 |

## 新宿然徒草

新校舎エピソード

——正面どこ——

この新校舎の正面はどこか、と聞かれたら、あなたはちゃんと答えられますか。

恐らく、はつきりと答える事ができないでしょう。でも嘆く事はありません。どこが正面かはまだはつきりしていないのです。

正面はどこか、という事に対しては次の三つの説がある。

- ① 校舎の西側説（門に面している方）
  - ② 校舎の東側説（校庭に面している方）
  - ③ 校舎の南側説（事務室のある方）
- 大体、①の説を唱える人は先生に多く、②の説を唱える人は生徒に多く、③の説を唱える人は事務関係者に多いようである。

それぞれの説の根拠を次に述べてみる。

### ① 校舎の西側説

校舎の西側にある門は裏門ではなくて正門である。従

って正門に面している方が正面である。

### ② 校舎の東側説

東側は陽がよくあたり、明るい。それに反して、西側はいつも日影であり、いかにも、裏面であるという印象を与える。それに、西側は校舎のでっぱりがあるが、東側はで、ぱりもなく、形の上から言っても東側を正面とするのが適当である。

### ③ 校舎の南側説

これを唱える生徒は全くないと思う。

根拠としては、玄関（事務室の横）が南側にあり、外来者はその玄関を通ってくる。どこの家だって、玄関がある方が正面であるから、この学校も南側が正面である。以上のようにどの説も一長一短があり、①②③のうちの一つを正面だ、と断定する事は非常に困難だ。

別に正面がどこか、という事を知っていなくても困る事はないが、正面がどこかという事ははっきりわからないと、何となく学校にいても落ちつかない、というような神経過敏な生徒も幾人かいる。

とにかく、この正面がどこかわからない、というような変てこりんな校舎で、勉強している事は確かなのである。

# 人文科

## E S S

新宿の野獣どもの中にあつて唯一の紳士淑女たちのクラブ、それが English speaking society 略して E・S・S である。我が E・S・S では、毎週水曜日に活動する。元 N・H・K 基礎英語講師 Mrs. Baker がいらつしゃって一生懸命我々を指導してくださる。我々高校生にとって、外人と話す機会はめつたにあるものではない。そして Mrs. Baker を囲んで free conversation や、その時々話題（アポロについてなど）について、話しあうのは楽しいことである。なれないうちは黙って下をむいているが、日がたつにつれてだんだんと自分の言いたいこともどうにか表現できるようになる。そして九月の学園祭には、ギリシャ神話の中の King Midas をとりあげてみた。なかなか大へんではあったが今考えてみると、それにより、部員どうしの交わりというものが深まったようにおもえる。三月には調布にある American school を訪問して見聞をひろめたりもする。

活動はわりと地味ではあるが、とにかく楽しいクラブである。

### 新聞研究部

この一年間の活動を振り返ってみると、文北部でもっとも派手な活動をする我が部はいろいろなことを行なった。

本年度末で百六十号を数える我が校でもっとも有名かつ貴重な文献である「朝陽時報」の発行（新聞委員会としての一、恒例の放研、新研の戸山戦速報競争、そして夏休みに新聞作成技術向上、同時にトランプ技術の向上をも計った合宿、さらに随時ではあったががり刷りの「週刊新宿」「しんじゅくぐあでいあん」発行等、数多くの活動を行ってきた。

しかし、これだけすばらしい活動してきた我が部の本年度の新入部員は、なにをかくそうたったの三名であつたのである。そこで来年度はまちがっても二ケタを割らない位の新入部員を入れる予定である。

前の事と多少ダブるが本年度末で百六十号を数える「朝陽時報」は号数では青山の「くまんばち」について二位、又年八回発行は、全国で一位を誇っている。しかも一位「くま

んばち」は信頼できる消息筋によると、百六十六号と、実にあと六号とせまっているのである。

すでに、年間発行号数で「くま」にかつている「朝陽」が一位になるのは時間の問題であるが、愛校心のある諸君らは少しでも早く「くま」を抜こうとよろこんで新研に入るであらう。

これまでの話で、文化部に入るなら、もちろん新研と決めたであらう。新研の「朝陽」は後世まで残るし記事を書いていると文章はうまくなるし、漢字もよく覚えられて、自分のためにもすごくいいよ。

それから、なにも運動部に入っていたら新研に入れないという訳じゃない。むしろ、いろいろな部に入っていると、試合の記事は書きやすいし、新研と各クラブの関係が密になってむしろ望ましい位だ。これからの我が部の理想の型としては各クラブ（特に運動部）に一人ないし二人の新研部員を置き、中央に新研だけに所属する部員を数名置きたい。そのためにも一年のみならず二年の部員も募集するものである。

我が部の特典  
1、部費タダ

- 2、トランプがうまくなる講座あり。
- 3、甲府の昇仙峡になじみの旅館あり。
- 4、そこにおいて、いろいろなことについての特訓あり。
- 5、年に二度リクレーション（ハイキング、登山、新聞社見学等）あり

### 放送研究部

クラブにとって、楽しく、また、縦横の人間的なつながりほど、大切なものはないだろう。この条件にびつたりクラブ、それが放送研究部だ。このことは、二学期に入つてからも、入部希望者が多数いることから判断できよう。しかし、楽しいばかりではない。その充実した活動たるや、他のクラブには、ちょっと例をみないものである。なに？ もっと詳しく知りたいって？ それじゃ次に、放研の活動の明細も書いてみよう。

○活動内容……放送劇コンクール、アナウンスコンテストへの参加―これらは今まで優秀な成績をおさめ、その実力たるやTV局から出演依頼が（当然声だけであるが）来るほどである―、学園祭における放送劇、班毎の番組制作、その他放研の活動の重要点である放送委員会―部員が委員を兼ねる―の仕事である

ところのあらゆる放送業務、カード・これは巷でトランプと呼ばれているもので、腕の上達まちがいなし―、駄弁 i n g―これらによつてあらゆる方面の知識を得られる―e t c  
○現在の活動日……火・水・金曜日。  
これで少しは、分かったかな。放研に入つたからといって機械いじりがうまくなるだけじゃないよ。

## I R H K

### 地理歴史研究部

地理歴史研究部では、主にある地域を浮き彫りにして詳細にわたって追求し、実地踏査などをするハイキングの要素を兼ねた楽しいクラブであります。

皆さんは地理歴史ということばの概念から多少誤解を招いて、客観的につまらないなどと思う人が少なくないと思います。しかし、地歴で扱う内容を知っていただければ、そしてなお少しでも研究してみれば地歴を研究する歓びを感じて、今までになくこういう方面に興味がわくことでしょう。

ここで、本年度の活動内容を順を追って紹介しますと、次に示す通りであります。  
○テーマ 昨年の武蔵野に続いて第二部的な

ものとして今年は、都民に潤いを与えてくれる多摩川に焦点を絞りました。

○活動日 火・水曜日

○夏期研究旅行（合宿） これは地歴部の特色として上げられるものであり、夏休みを利用して行ないます。今年が多摩川の二つの水源を窮め、東京のチベット檜原村まで歩を進めました。参考↓多摩川実地踏査八回

顧問には何キロ歩いてもちっとも疲れを見せないタフな、そしてかつ非常に聡明な地理の久保田先生をいただいています。

我々と思わん人は地歴部に入つて、先生、先輩諸氏の伝統を継ぎ、深く道をきわめられんことを希望する次第であります。

### 社会科学研究部

六九年は政治的にみると、日本が大きな選択をせまられた年であり、深く研究すべき事柄が沢山あつたにもかかわらず、我が部の活動は全く停滞してしまつた。その結果、学園祭に満足な発表ができない、というような大失態を演じてしまつた。

活動が停滞した理由としては、部室移動にともなう部室の狭小化のために部室活動が出来なくなった事と、二年有力部員の離脱があ

げられる。

前期には、一人はノイローゼのために、また一人は生徒会活動のために離脱してしまい活動に大きな支障をきたすようになった。後期は、部員の殆んどが、全共闘に吸収されてしまい、社研としての活動は殆んどゼロに等しくなってしまった。

社研でやっているような活動（討論会や読書会・勉強会等）は何も社研に入らなければできない、というようなものでなく、社会科学の研究などは一人でも出来るので、部活動としての社研が停滞する必然性がそこにあったのかもしれない。

僕達は世界をよくするために、しっかりと考えたなければなりません。しかし社会が複雑になっていく現在では、どちらが正しいか判断できない事が数多くあります。例えば、沖縄返還に関しては、自民党と野党は全く評価が逆です。生徒の中にもどちらの主張が本当に正しいかまごついている人が数多くいることと思います。このように、まごついている状態にある時は、宣伝力が大の方へ評価が落ちついでしまうものです。この事は危険な事であるが、それが人間の弱さでもあるのです。しかし、その弱さを克服しない

限り真の政治などは望めないことなのです。また、その弱さを真に克服することは人間にとって非常に難しいことなのです。

## 芸能科

### 管弦楽部

「先輩、こんどはベートーヴェンをやりましょうよ」「いや、だめ、やりたいけど響きにならないからできないの」……ガッカリ。ついに管弦も室内管弦楽部になりさがってしまったか……。でもどうしてこんなに弦楽器弾く人が減っちゃったんだろう。これじゃまるで滅楽器だ。「ねえ、ヴァイオリンいじれる皆様、管弦におはいんなさいよ」というわけで本年度も苦しいものでした。春の新入生歓迎演奏会はクラリネットにシャープが五つもつく超難曲で全体的にひどいザマ。（でも「けっこう良かった」と言ってくれる心ある人もいる）それでは学園祭こそは始めた曲（秘密）は部員のリズム音痴と技術の欠如で……（消滅）。今度こそはと始めた「ピアノ協奏曲」「アンダンテ」「驚愕交響曲」……なんと八月四日のこと。すぐに八日から合宿。朝昼晩

の過程が大切なのです。管弦は、部員の意気込み次第ではウェーベルンでもバロックでもウエストサイドでも演奏することが可能です。また、気のすむまで楽器いじりができます。管弦はそういうクラブです。おっと名物「部誌」のことを忘れました。もちろん最も伝統があり、最もおもしろい（最近だいが高度になった）あれのことです。――S P O――

### 写真部

いつが一番楽しいと言ったって、写真を撮っている時とカメラの話をしてる時と作品の鑑賞をしている時とカメラ雑誌を読んでいる時と……。ああ写真部とは何とすばらしいクラブだろう。

写真機が発明されてから百三十年余り。現在私達の生活の中あらゆる面で写真の占める割合は非常に大きなものである。極端に言う写真のない世界など考えられない。

その写真というものに真正面から取っ組んで、その中に自己を見出し又自己を表現する。私達の目標は正にここにあるのだ。

それでは具体的に活動内容を示そう。まず我々は個人的なテーマや統一テーマを決め集中的に撮影し、それについて部会の時

にみんなで批判し合い討論し合い、そしてより高度なものへと発展させて行くよう努力している。又夏休み等長期の時間的余裕がある時は撮影会を備して部員が同じ事物の中にいかにして自己というものを表現するか、という問題にも取組んでいる。その他にも二、三人ずつのグループにわけ一つの事柄について研究し発表するようなこともやっている。又土曜日の放課後にはマラソンをやることによって精神的な鍛練も行なわれている。以上のようなことによつて我が写真部は文系クラブ全般に言える人間的つながりのなさを打破しそのつながりのもとで自己の主体性を勝ち取ろうと努力している。

#### \*追伸\*

写真部とはほんとうに写真に興味のある人達のためのクラブです。生半可な気持では入部しないで下さい。だから「新人募集」なんてことは言いません。でも女子はこの限りではありません。

#### \*求む\*

新校舎移転に伴い「写真部のための暗室」が消滅しようとしている。どなたか電気、水道・ガス付の6畳位の部屋を安くノ

の猛練習が実って五日間ではとんどどうにか仕上がってしまった。この時ばかりは「管弦もさすがだな」とも思わせるけれどやはり曲がやさしいのかな？ でもそんなことはないぞないぞ。一生懸命やったからね。（自己満足）……というわけで管弦の合宿は大変重要なのであります。みんな竹馬に乗れるようになりまししたし……。合宿から帰っても綿密な練習計画のもとに練習を続け、九月にはいつ「やっぱりなっちゃない」とあわてふためき……本番になってしまった。ジャーン、困った困ったと言つてもしょうがない。楽器持つ手汗びっしょり。お客を見るとどうもいけない。（今年は会場が音楽室で客席との距離が近い）いい気になっているのは指揮者だけだな。お客が見えないから……。という具合で二回の演奏会を見事に消化してしまった。その時のアンケートより「いかなる逆境にもめげずモーツァルトはなんと美しいのでしょう」「感激にペンを持つ手がふるえる程」「ソロのうまさ」……賛辞。でもついでながら書き加えておくと管弦の最もすばらしい時というのは本番前の練習のすんだあとなんです。もう、明日なんかどうなつてもいいって気持ちです。我々にはこのような満足感を得るまで

### 音楽部

「男が入らないかなあー」これは男の声である。女ではない。我がクラブは混声四部合唱部である。今度、男子部員の入りが悪いとハ―モニ―が崩れてしまう。「嗚呼、音楽の父よ、我等に男子を授けたまえ」男の声。

このように書く女子部員ばかりか――決してそうではないのです。ただ我々としては男子中心の後は男声合唱クラブにしたいのです。「女は扱いにくいからね」男の声。弁解――小生曰く「男は下手だからね」

我等には先輩、後輩の間に何の堅苦しさもない。歌を歌うのに大して関係ないことだし年を食っているからといって所詮目声は変わらぬもの――といっても歌は確かにうまくなるゾノ。声の悪い人々、音譜の読めない人結構、音楽の種類も各種各様。我がクラブの男子部員は音譜の読めないのがモットーでして「馬鹿、俺は読めるぞ」お前が読めないからといってそんなこと書くなノ」オット、これは失敬。

これを書いている小生は古びた人間なせいかバロックが好きでして、16世紀前後の曲を押すけれど、こんな存在はめずらしく、フォ

ークの好きな者も随分います。ギター伴奏に歌うのもいいではありませんか。器楽合奏も結構。

我がクラブには、伝統がある。創立以来の存在である。伝統というのはいいもので、先輩もよく来る。しかし伝統の重さに押しつぶされてはいない。我等は我等である。二十世紀現代雑種音楽正統派新宿高校音楽部。家族的雰囲気で心と心のつながりを重視し、少数精鋭主義のーいや、多数音痴主義の我がクラブへ、是非とも御入部下さるよう、小生繰り返し繰り返し要望する次第であります。声を張りあげ、歌いましょう。「チーチーパッパチーパッパ、ピーヒャラドンドン、ハァー、ズンタッタズンタッタ」歌うことは楽しきかな。

## 映画研究部

プロフェッショナルが、億という金をかけ名優を使い、優秀なスタッフで制作した商業映画は確かに面白い。

しかし、アマチュアが、金を出し合って作った16mmなり16mmなりが、商業映画に劣るとは限らないのである。劣る、劣らぬとはナンセンスだが、アマチュアは、プロと違ってスポ

ンサーなり映画会社等の方針に束られることが、全く無いのである。それこそアマチュアの大特権であり、描きたいものを、自分の思うままに表現することができるのだ。そこには商業映画の面白さは無いかもしれないし、有名スターも登場しない。しかし、そこに表現される自由な題在や表現は、それらを補なつて、なお余りあるものである。

我々映画研究部としては、テレビで日夜放映されているコマージュナルに毒されてしまった映画に影響を受けることのない新鮮な映画を作ることを、第一目標にしている。

映画研究部が映画を製作することは、至極当然なことである。が、ここに大きく立ちふさがるのが Money の問題である。なにしろ一本映画を作ろうと思えば、万単位の出費を覚悟せねばならないし、16mmで映画を作るのなら、最低五万円は必要である。頭の中で良い映画が組み上がっても、いざ映像かしようとしても、なかなかうまくいかないのが現状である。

もし、あなたが商業映画にあきたらなくなつて、自分で映画を作ってみようと思うなら映画研究部へ！

## 美術部

年々美術部は衰えていき、ついに現在その頂点に達しているような、という感が強いこの頃。のびのびと絵を描きたい、心のむくまに、なんの憶測もなしに、しかしそれは容易に出来ぬことかもしれない。人間の弱さ、単純でいて複雑な環境の中に立っている自己の位置、他者の中の自分。そんなくだらぬ。観念はお捨てなさい、と囁く声がどこからか聞こえてくる。

大空をキャンバスに、大きな先のとんがっているホウキを絵筆に、野の花々の花びらと空にかかっている虹を絵具にして絵を描いてみたら。人と人の心の触れ合う音を、細くて輝く銀の糸でからまして示してみたら。

現代は、現実には、音にしたらピカドンの音よりも、B 29の爆音よりもっとすぐくて大きな音で動いているだろう。信じ合うふりをしながらふりだけに頼って生きている人の群れ、絵をおかきなさい、と自分の心は言わない。筆をおとりなさい、と自分の心はいわない。現実をみつめなさい、とだけ真赤な口で囁き続ける。

血の色のようなレッド・レモンの汗みたい

なイエロー、晴れあがった空のようなブルー無の世界のホワイト、現実のブラック。

絵をおかきなさい、心の絵をね。

## Ⅱ現状報告Ⅱ

三年 約二十名(活動なし。あたりまえ)

二年 六名(活動四名のみ)

一年 一名(一名一人ではりきる)

ゆえに

## 部員募集の事態発生

## 茶 道 部

まず、学園祭の反省から。

○お茶会は保健室でやった。入口が廊下側だったため、校庭からはよく見える場所にあるながら、最初お客がなかなかはいらなかった。

○はいろうとやって来ても、会の途中だとみると帰ってしまう人が多かった。

○お茶の飲み方を教えてほしい、という要望が多かった。

学園祭の他には一回しかお茶会を開いていない。ふだんあまり練習しないことも実際にお茶会でやってみるといろいろわかってきて、とてもためになる。だからできるだ

け多くやりたいんだが、費用の点もあるし、なかなかできないでいる。

現在、部員は十二人。非常に少ない。道具だって少ないんだが。が、何よりも今一番問題なのは部室が狭いこと。一度に二人しか練習できない。これでは上達も遅いし、クラブに出て来ても、退屈しておしゃべりということになってしまう。部室に水道もないから、ただでさえ狭い部屋にごたごたといろんな物を持ち込んでひどく不便な思いをしている。一学期の終わりからは校舎の移転に伴い、畳をはじめ釜、茶碗その他の道具を運んだり部室を掃除したりで、かなり練習時間がつぶれた。

練習はそんな堅い気分でなく、わりあいくつろいだ気分で行っている。くつろぎ過ぎて困るくらい。

## 華 道 部

学園祭からすでに二ヶ月。一年は二年生を目標に、二年生は一層の上達を願ってけいに励んでいます。

活動日は水曜日、流派は「古流」です。現在部員は十七名で活動日にはほとんど全員が集まります。最も基本的な立体形から入り、

斜体形、横体形へと進みます。さらに上達すると応用で、いろいろ変った形を生けます。

生花中心ですが、リボンフラワー等を作ることもあります。

華道について何も知らなくても、岡先生が丁寧に指導してくださるので、心配ありません。毎回生け終わった後、先生に見て頂いて形や位置の悪い所を直します。

同じ材料を使っても一人一人違った感じに生け上ります。友達同志がおたがいに鑑賞し合うのも楽しいものです。基本の形を一人で生けられるようになったら、自分で材料を考えて家で生けることもできます。

最後に、参考の為に述べておきますが、一ヶ月に月謝とお花代合わせて六百円〜八百円位が必要です。水盤、剣山、はさみは学校にありますので、自分で用意する必要はありません。自分で生けた季節の花を玄関や部屋に飾って眺めましょう。この喜びは他では味わえません。

## 演劇研究部

我が校の演劇研究部を特色づけているものは、創作劇を主体としているという事でしよう。去年の学園祭前までは主として前衛的な

ものを演じてきましたが、学園祭を境として物語的なものを手がけるようになり、その方針をしばらくの間は堅持していくつもりです。

劇はご存じの通り、演技・文学・美術・工芸・音楽から成り立つ総合芸術であり、我々部員は、創造する楽しみに浸っているわけです。右に掲げた五つの事を全て自分達の手で行なう事が理想であり、だから創作劇を行なっているのです。

劇は、照明や大道具などを担当する人も必要なので、多くの人数を必要とします。しかし、残念な事に部員が極めて少なく、実質的にはわずか三名しかいません。このままの状態が続けば壊滅する日待つばかりであり、新一年生の大量入部を期待します。

新一年生の中には演劇が好きだけれども、気が小さくてすぐあがるとか、演技が大変下手で自信がない、などという理由で入部をためらう人も多い事と思います。しかしそういう人も御安心ください。筆者自身、中学校の時はあがりっぽく、訥弁で、気が弱かったのですから。

演劇研究部では次のような人も求めています。

いかに、化学が我々と切っても切れない縁があるか、分かると思う。相当高度に発達した化学。だが、我々は、その恩恵を受ける時、それを当然の事と受け止めてはいないだろうか。

我々は、このような、現代の化学をながめた時、「なぜ？」という素朴な疑問を浮べることを忘れている。ただ、化学のもたらした利益だけを重宝している。しかし、誰でも、ふと、「なぜ？」と感ずることはある。この疑問を消してしまってはいけない。

もし君が、「なぜ？」と考えたなら、化学部に来てください。化学部では、各自が、疑問に思ったことを研究していくのです。君達が想像するような、固苦しいことではないのです。

○次に今年度の主な活動をふり返ってみる。「酸化と還元」の統一テーマのもとに、数グループに分けて、それぞれの方向から研究していった。そして、その結果を、学園祭で、発表した。展示品の中で、一番注目を集めたのが、出口においてあった、魚の泳いでいるビーカーだった。こう言えば、会場がどんな有様だったか分かってもらえると思う。

◎部員募集！

○大工仕事の好きな方

○創作する事が好きな方

## 理数科

### 物理部

物理部？ あんな固いクラブ。物理授業の延長じゃないの？ だいたい物理部なんてあるのかい。見たことあるやつなら、もうとっくに入っているよ。……

と、うわさされている物理部の紹介します。さて物理部は前のうわさとは、まったく別のイメージのクラブです。だいいち、クラブの雰囲気が非常になごやかなのです。クラブ活動の日には、部屋で思い思いの事を話しているのです。その内容は、物理関係の事からオーディオ関係。はては、どの曲がどこのこのという話しまで……。とにかく、楽しいクラブであることはたしかです。

さて、次に物理の活動について話しましょう。僕達は、物理部は、こんなことをやっている。こんなことを疑問に思っているのだが本で読んだだけでなく、自分の手で、少しでも解明したい。というような疑問を実験など

### 生物部

生物部の活動報告を書くはめになった。本年度の活動の総括から、クラブのあり方、来年度の方針について考えたい。

活動を専門別にみると、まず魚類、淡水魚のミヤコタナゴの増殖に心血を注いでいる。（巻末の研究発表参照）この、絶滅寸前の小さなタナゴの一つがいが、何と多くの問題を提起していることか……農薬の濫用、工場汚水など自然を蝕む公害、ブームにのった業者等の乱獲、産業に直結しない（金にならない）学問分野の著しい立ち遅れなど、個人や一団体の力ではどうしようもない、現社会体制の歪み……。タナゴたちはそれに目をつぶっている。そして我々もそうならざるを得ないのか？

次は蝶類、携わる者は例年多いが、なかなか趣味の域を出ない。このことは貝類の者についても同様で、活動の中心が収集であり、分類・生態の研究？が収集の手段である現状は残念だ。しかし、その採集活動はたいへん熱心で、部員の足跡はほぼ日本全土にわたっている。良い面を生かした活動内容の転換を迫られている。

によって少しでも解明できるクラブであると思います。今までの活動とこれからの予定を具体的に述べると、それは、いま言ったことに非常にそっています。一年ぐらい前までは物理部といえば、アマチュア無線しかやっていませんでした。しかし今年からは、もっといろいろな事をしようと、いうことになって超音波の研究を始めました。そして、学園祭の時には、超音波に音声を乗せた超音波通信の実験して見せました。学園祭までで超音波は打ち切り、次は、航空力学（？）の実験もしています。これは実験材料にグライダーをつかっています。この研究は今後も続けていくつもりです。これからの予定として、風洞実験などをやり、さらに綿密に実験を行なうつもりです。

来年は、エアカーの製作を目標にしています。模型から型めて、学園祭には、人間がらくに乗れる物を作りたいと思っています。

### 化学部

君達の中には、化学と聞くと、敬遠する人が、まことに多い。学園祭の時も、「なんだ化学部か」と、素通りしてしまう人が多い。しかし、君達のまわりを、一目見ただけでも

第四にはかいこの研究があげられる。比較解剖実験など、従来の生物部に欠けていた基礎的な面や、変態ホルモンのコントロールなど、新分野を切り拓く意味で、大きな成果があった。

今年度はその他に、リス・ネズミ・ヘビ・カエルなどの飼育を行なったが、いずれも設備の不備や目標がなかったことなどから失敗に終った。

前にあげたように、我々には力の及ばないものもあるが、クラブの段階で解決できる問題も多い。特に部員の態度についてである。我が校一般にみられるように、生物部においても活動しない部員（幽霊・部会屋等）は多い。

クラブは部員の自主的な活動によってのみ成り立つと思う。体制派的ムードの強い新宿高においても、我々生物部だけは、主体的に活動していく、理想的なクラブでありたい。

### 天文部

あなたは今年の小田急デパートのクリスマスのキャッチフレーズを知っていますか。

「星の輝くクリスマス」これがそうなのですがとてもロマンチックな文句です。しかし

最近の新宿ではスモッグがひどくてとても、  
たくさん星がキラキラ美しく輝いているの  
を見ることはできません。せいぜい一等星を  
見るのが限度です。

心ない生徒の中には、「天文部って活動し  
ているのかヨ」「天文なんかツブセ」など  
という者もありますが、私たちは毎日朝早く登校  
してきて、観測条件の悪い「新宿」で太陽黒  
点の観測をしています。その他に流星観測を  
伝統的に行なっています。もちろん「新宿」  
では観測できないので、土・日曜日を利用し  
て主に陣馬山・高尾山へ出かけます。去年か  
らは四連写真儀を利用して大きな成果をあげ  
ています。現在新宿高は流星観測においては  
都内の高校のトップレベルにあります。

よく「黒点なんか観測して何になるの」「流  
星なんか観測して何になる」と尋ねられますが  
私たちは天文学の一翼を担うアマチュアとし  
て、星の好きな者どうしが集って、夜を徹し  
て星を追ひ、そして共に語り合い、せわしく  
変化する社会を逃避して静かな心で自己をみ  
つめてみるのです。

△本年度の主な活動▽  
三月 日食観測（学校）  
四月 おとめ座・琴座流星群観測（高尾山）

八月 ペルセウス座流星群観測（陣馬山・塩  
見）白鳥座流星群観測（高尾山）  
九月 写真撮影 高尾山  
十月 “すばる”えんぺい観測（学校）  
十一月 月面観測（学校）  
その他、獅子座流星群は天候不良の為中止。  
また高尾山における夜観が数回ある。

## 体育科

### 陸上部

新宿高校陸上部といえば、陸上のメッカと  
して、都内の高校に知られている。  
すべてのスポーツを支配する陸上競技が強  
いとは、まことに頼もしいかぎりである。  
わが陸上部にとって、今年度は一歩飛躍の  
年であった。対抗戦はすべて圧勝、記録的  
にも充実していた。しかしわれわれは現在に満  
足せずに邁進する、黄金時代はまだまだこ  
れからである。

しかし練習においては、陰険で暗いムード  
はまったくなく、先輩はいつでも気軽に話し  
相手になってくれ、部内はつねに明るいム  
ードである。練習における苦しさは皆のもの

ある。われわれはただ走るのではない、より  
速く、より高く、より遠く、を求めて考えて  
いるのだ。その理知的な態度と身体とが一致  
して、はじめて好記録を生むことになる。次  
にのせる成果はすべてその結果である。

四月 霞ヶ丘リレーカーニバル参加  
インターハイ東京城北支部大会  
男子四百米（楠瀬）  
“八百米・千五百米（三潞）”  
“走幅跳（卜部）”  
女子百米（秋山）  
男子四百米R・女子四百米R  
以上東京大会進出  
五月 インターハイ東京大会  
男子四百米決勝進出（楠瀬）  
“八百米準決勝進出（三潞）”  
“三段跳決勝一位（卜部）”  
（記録 十四米六〇）  
女子走高跳一位（東）  
“五種競技三位（東）四百米R六位”  
六月 戸山対抗戦（圧勝、通算十勝四敗）  
インターハイ関東大会（埼玉県）  
男子三段跳決勝四位（卜部）  
女子走高跳決勝二位（東）一米五〇  
“五種競技決勝四位（東）”

“四百米R予選敗退”  
（松本・東・上保・秋山）

八月 インターハイ全国大会（群馬県）  
男子三段跳予選敗退（卜部）  
女子走高跳決勝三位（東）  
（記録 一米五〇）

夏季強化合宿（東大検見川運動場）  
国体東京予選参加  
三校対抗戦（西高・小山台高・圧勝）  
十月 新人戦城北支部大会

男子四百米（岡）男子走幅跳  
（卜部・北出）三段跳（五味・関沢）  
・千六百R・女子百米・二百米（伊  
集院）・女子走高跳（上保）  
以上東京大会進出

十一月 新人戦東京大会  
男子千六百R決勝進出三分三六秒四  
（向原・楊・森川・岡）  
男子走幅跳決勝二位（卜部）  
（記録 六米七七）  
男子走幅跳決勝四位（北出）  
（記録 六米六三）  
男子三段跳決勝一位（卜部）  
男子三段跳決勝三位（五味）  
男子総合六位入賞

全国高校駅伝東京予選会参加  
東京ブロック対抗

男子走幅跳二位（北出）  
男子三段跳三位（北出）  
男子三段跳四位（五味）

その他国民体育大会の女子走高跳において  
東選手が六位入賞をなしとげた（一米五五）。  
これらの記録に挑戦したいと思う者、真の  
クラブ活動をしたいと思う者、われわれはす  
べて大歓迎である。

### 剣道部

剣道部の練習風景を見ていた新生が、こ  
ういう話をしていた。  
A「あれが新宿の剣道部だろう。あの白い着  
物のやつ強いじゃないか」  
B「ああ、あれは先生だよ。それにしても  
相手はもうバテているじゃないか。わりとき  
びしいんだねえ」  
A「おれも剣道部にはいつて一旗あげてやろ  
うか」  
B「でも面をかぶるからおれのハンサムな顔  
が見せられないなあ。その点おまえはいいな  
あ」  
A「いいすぎだよ。おまえ」

こんなふうになりと気楽な気持ちで剣道を始  
めて、始めはぎこちなく竹刀を振っていた者  
も約一年もたつと竹刀と竹刀を交わせること  
によって、相手の気持を読みとり竹刀を通じ  
て一種の対話をかわすことができるようにな  
る。そこには体力的なものはもちろん精神面  
での大きな成長をうかがうことができる。  
また練習中は西洋フンドシをはかない。こ  
れも裏をかえせば裸同士の人間的なつきあい  
を示すものではないか。（女子は……）  
それでは44年度剣道部の健闘をたたえる戦  
績を示そう。

関東予選新宿4―1豊多摩  
新宿3―2目黒  
新宿1―4巣鴨  
都予選 新宿4―1聖橋  
新宿2―3久留米  
国体予選新宿3―2鳥山工  
新宿3―2三鷹  
新宿0―5日大鶴ヶ丘  
支部大会新宿0―4千歳（二年）  
新宿1―2海城（二年）  
新宿2―2海城（一年）  
対抗戦  
新宿1―7戸山 新宿4―5両国

新宿3―5青山      新宿5―4小石川  
新宿6―4西      新宿6―5竹早

## サッカー部

都内はもちろん、遠く海外までその名声をとどらせている。わが新宿高校サッカー部昨年は破竹の十数連敗の後、やっと本来の姿に戻り、新人戦では三位となった。その後の関東大会予選に於いては、青山に1―0と惜敗した、その後、新チームに変わり、赤白黄のチューリップスタイルで、さっそうとインターハイ予選に出場したが、初出場のために全員持てる力を発揮できず、敗戦した。その後、御殿場の合宿、感想としては、暑くて、グラウンドがバカッ広くて、食事……等、まあチーム力は、はなばなしく向上しました。（よかったね）合宿前から連勝を続け、国体予選に出場、ここでも破竹の数連勝、しかし二次予戦で、関東大会都一位であり今回は第三位の学習院に（1―1、1―0）と逆転敗けをくった。ここで私は声を大にして叫びたい、学習院といえは青白い顔したひ弱な、子どもっぽい人種を想像するでしょう。しかし、しかしですよ、事実がこれが高校生かと思うほどひねた顔をして    ひげをはやして、ごつ

くて、もうゴリラちゃんというムード、話を戻すと、その後の新人戦、又も破竹の数連勝優勝へ幕進している。

練習はあの第一Gで、周四日（放課後二日朝二日）楽しいムードでやってます。  
「タマばかり追っかけないで、タマには勉強しない」という声をよそに、昨日、今日、明日とタマを蹴る連中、ヘッディングのやりすぎで頭にきたのか、これが本来の姿か？  
当人達は、そしらぬ顔で今日もタマを追い回している。

インターハイ都予選  
一回戦

新宿0  $\overbrace{0 \mid 0}^{0 \mid 2}$  2都城北

練習試合

新宿3―2駒場      新宿1―0戸山

” 3―0都大附

” 4―1都城北

国体都予選

新宿6―1北野      新宿3―2久我山

” 3―1教大附      ” 4―2深沢

” 1―2学習院      ” 1―0世田工

2回戦の久我山との試合では残り10分足らずで2点を入れるという大逆転をやったのけ

初めて、OBからほめられた。

新人戦（12月現在）練習試合

新宿2―0早実

新宿5―0日大二

” 1―0久我山

国体の後数試合を行ない、全勝して、都内にその名を広めている。

## 軟式野球部

ボールを持てばストライクを投げてみたい。バットを握れば快心のヒットを打ってみたい。……そんな野球の魅力にとりつかれた我々が第二グラウンドに集まってくる。軟式野球はキャッチボールを含めて手軽で危険性の少ない球技であるから、見ることもよりもプレイすることに興味がある。軟式野球人口五〇〇万人、児童の遊びの野球から、青年・学生の高度の野球、老年組の楽しみの野球というように範囲は広いが、いずれの分野においても楽しみながらプレイしているのが軟式野球の特徴である。

さて我々新宿高校軟式野球部は週に三回、第二グラウンド及び渋谷の大山グラウンドを中心に練習を行なっている。しかし、第二グラウンドは体育館構築などでより狭くなり、また時間的制限なども重なって、満足な練習はでき

ず、その結果は試合成績も芳しいとは言えない。特に守備面でそれが現われ、惜しい試合をいくつか落とした。その反面打撃は強力で一試合平均五点たたき出している。この点は今年の成果だと思う。

ここでいくつかの戦跡をたどってみよう。

新チーム結成から二連勝。富士高戦、九回裏の横山のサヨナラ大ホームーは印象に残る。八月初め中軽井沢で合宿が行なわれた。今年も例年通り「体力の限界を試す」という目標とともに、浅間山を臨みながら真剣な練習であった。OBが現役を上回る多勢の参加となり、マンツーマンのきびしい合宿であったが、顧問や監督、OBたちと実に有意義な話の交歓が行なわれた。

八月末、新人戦が東大付高グラウンドで行なわれた。相手は大崎高、富山主将を中心に我々はよくまとまりあと一息で勝てた試合だったが、延長の未逆転負けを喫した。今考えてもほんとうに惜しい試合であった。

現在、我々は実力を発揮しきれなかった今年を反省し、ランニング柔軟中心にトレーニングに励んでいる。来年は好スタートきれるように願いながら……。

## 対戦成績

対駒場東邦      7―5

対富士      8―7

対東電学園      0―7（夏季大会）

対大崎      4―5（新人戦二回戦）

対芝      2―4（支部戦二回戦）

対東大付属      4―7

## 水泳部

『水泳部』の練習は、八月の後半、夏休みの終り頃に行われる「東京十六校対抗戦」（第二・三学区を中心とし二十余校が出場）という試合に目標をおき行われる。従って八月十日頃から二十五日頃までの練習はきびしい一日三時間の練習時間をフルに生かして、Freeは八千〇、他種目でも五千〇六千を毎日泳ぎ込んだ。確かにそれは苦しい、しかし、それを終えた後の爽快さは何ともいえない。（終っても苦しいゾ）

プール練習は五月の初めから始まる。五月の冷たい水で、泳ぐのは、夏の練習と違った苦しさがある。上がってからはくるまるための毛布のとり合い。（ソレは大変なものだ）

現在部員は一年九人、二年七人というような小人数である。実をいうと……夏の練習にはいつも部員よりOBの方が多い。今年の合

宿等は部員一人頭三人のOBというようなスゴイものだった）

だからお願い！ 水泳部に入って。

女子部員歓迎！ 男子勿論！

では、次に今年の水泳部の実績をここに紹介しよう。

## 公式戦

六月 東京都高校春季水泳大会

（於、神宮プール）

七月 東京都高校選手権水泳大会

（於、日大桜丘プール）

八月 第十一回小石川戦（十六校優勝校）

敗 99―108

第十五回十六校対抗水泳大会

男子 二位      女子 九位（二十四校中）

九月 第十四回九段戦

勝 80―38

第十八回戸山戦

勝 159―80

○十六校戦においては十七名が決勝進出し九段戦、戸山戦においては全種目一位を独占。

## 山岳部

ネエ、君。大自然の中に自分をおいて、じ

つくり自分自身を観察してみたいとは思わな  
いか？ 君の上に広がる天界に、一歩でも近  
ずいてみたいとは思わないか？ 思うでしょ  
う。人間なら当然だよ。そしてそれをかなえ  
させてくれるクラブがここにあるんだ。そう  
山岳部だ。

文字どうり世界最高の地であるエベレスト  
を征服してみたいとは思わないか？ あらゆ  
る人を征服してみたいとは思わないかあらゆ  
る逆境にたえぬき、命をかけてアルプスの山  
々を極めてみたいとは思わないか？ 思うで  
しょう。男ならば当然だよ。そしてそれをか  
なえさせてくれるのが山岳部だ……とはちょ  
っと言えないけど、少なくともその切符ぐら  
いは手にはいるんじゃないかな。

マア、とにかく山岳部は自然を愛する人間  
のクラブなんだ。

そりゃなかには、「煙と何とかは、高い所  
に登りたがる」とか、山岳部の悪口を言うや  
つもいる。確かに、ぼくもそう思う。なんた  
って、こんな重たいものを山の上まで持つて  
行かなきゃならないんだ。ひょっとしたらこ  
れはニュートンにさからっているんじゃない  
かってね。

でも考えてみたまえ、頂上に着いたときの

充実感。料理ができたときの、もちろん玉ネ  
ギを切るときの涙もあわせた満足感、寝袋に  
くるまるときの安心感、それらすべてが、な  
んとスバライシものなんだろう。

ネエ、君、君は、ぼくが登山こそ最とも宗  
高なスポーツだと思ふのを、ぼくの単なる偏  
見によるものだと思ふかい？

## 卓 球 部

始めに、「卓」とは、優れる、高い、ずば  
ぬけて、立派な……

「球」とは、一語で「美しい丘」

「球琳」となると、「優れた才能」のたとえ  
となる。

「卓球」これこそ、日本が世界に誇る、スポ  
ーツであろう。日本人の平均身長は、今ぐん  
ぐん伸びつつある。しかし、その日本人が、  
欧米人の中に飛び込んだ時、自分の体力に、  
どれだけの自信を持っていられるか。日本の  
古くからの食住習慣が産んだ、一見ひ弱な人  
間が、自分より体力の優れた欧米人に対して  
何をもって立ち向かうか。それは、「技」「精  
神力」の何ものでもあるまい。そういう観点  
から見ると、卓球は、実は日本人向のスポー  
ツとも言えよう。

それでは、今年の活動について、我が部は  
練習が、規則的、合理的であるので、各自の  
技術向上の度は、とても早い。現在は、全盛  
時の頃と同じ、とはいかないまでも、かなり  
実力的にも雰囲気的にも充実し、都立では、  
現在五本の指に数えられている。故に、当然  
今年の成績も、見劣りのしないものである。

◆今季対抗戦々績（ ）内は女子。

|    |                |     |
|----|----------------|-----|
| 新宿 | 6 対 5 （5 対 4）  | 千歳丘 |
| 新宿 | 7 対 1 （6 対 1）  | 駒場  |
| 新宿 | 9 対 2          | 松原  |
| 新宿 | 8 対 3 （3 対 4）  | 広尾  |
| 新宿 | 8 対 10 （1 対 2） | 戸山  |
| 新宿 | 10 対 2 （4 対 3） | 深沢  |
| 新宿 | 13 対 2         | 玉川  |
| 新宿 | 8 対 3 （5 対 4）  | 都大附 |
| 新宿 | 13 対 2 （4 対 5） | 明正  |
| 新宿 | 7 対 4 （6 対 3）  | 桜町  |

以上のように、内容的には、傑出しており  
ここ当分、この勢いは続くものと見られる。

現部員は、皆卓球を通じて、不屈の精神、耐  
久力を養う事を求めている。来年も、これに  
驕ることなく、今年以上に部を充実させてい  
きたいと思う。

「卓球、バンザイ！」

## バレーボール

○国体予選

- 1 回戦 新宿 2―0 京橋
- 2 〃 新宿 2―0 国学院久我山
- 3 〃 新宿 2―1 小山台
- 4 〃 新宿 1―2 桜美林

○新人戦

- 1 回戦 新宿 2―0 板橋
- 2 〃 新宿 1―2 学習院

練習試合では明正（ベスト 8）、明大中野  
（ベスト 3）を敗る実力があるにもかかわらず、  
公式戦でもう一つ調子でないのは、いかに  
してベストコンディションを試合にもって  
いくかということだ。いかにしてこの問題  
を解決するか？ 男子バレー部は、当面の目  
標であるインター杯東京代表を目ざして練習  
にはげんでいる。

女子も週四日の練習を能率的な練習法で充  
実させ、かなり良い成績をおさめている。そ  
して念願の、東京都本大会の出場を果したの  
である。

バレーボールがほんとうに好きな連中のク  
ラブそれがバレー部である。バレーボールで  
最も重要なものはチームワークである。バレー

ーを通して、部員の心が一つになりチームワ  
ークができてこそ技術も向上し、ほんとうに  
強いチームが生まれるのではないだろうか。  
男子バレー部はOBをもってして「現在のチ  
ームは新宿バレー部史上最強だ」といわせし  
めたほどの技術とチームワークをもっている  
のである。チームワークなくしてバレーボー  
ルはない。

練習は週四日。まじめにでていれば練習は  
苦しい。しかしそこには苦しさを越えた「や  
れができる」という自信と喜びを得ることが  
できるのである。バレーボールとは何とすば  
らしいスポーツなのだろう！

△戦績▽

- 戸山戦 新宿 1―2 戸山
- 新宿 3―0 明正 新宿 3―1 明大中野
- 新宿 3―1 駒場……………あと省略。

## 軟式庭球部

コートに勢いよくバウンドする白球を追  
いストロークを決めるすばらしさ——これが一  
口に言うテニスである。

現在、練習日は週三日、第一グラウンドに  
やっとコート思われるものが一つと、仮設が  
一つあるだけ。高校でちゃんとしたコートが

ないのは、新宿高校ぐらいであろう。

しかし、新一年生諸君、安心したまえ、「努  
力」「和」このことばを目標とし、常に、「勝」  
に向かって前進している。

テニスはお嬢様の球遊びと言う者もあるが  
これは、まちがいである。ダイナミックな体  
力をそれほど必要とせず、また頭脳プレーを  
必要とする。だから、その頭のよさそうな  
君どうぞ入部したまえ。ただ一つ言っておき  
たいことは、

『やる気のない者、入るべからず』

それでは、昭和四十四年度軟式庭球部活動  
を、お目にかけよう。

|     |             |
|-----|-------------|
| 四月  | 関東大会        |
| 六月  | 戸山対校戦、措敗    |
| 六月  | 富士見高原において合宿 |
| 六月  | 城西大会 五回戦 一組 |
|     | 四回戦 一組      |
|     | 東京選手権大会     |
|     | 四回戦 一組      |
| 九月  | 東京団体選手権大会   |
|     | 対駒場 三対二     |
| 十一月 | 新進大会 五回組 二組 |
|     | 四回組 一組      |
|     | 新進団体選手権大会   |

その他、多数対校戦に勝利

(七勝一敗)

これからの軟式庭球部は、君達新一年生にかかっている。

経験者にはかならず入りたまえ!!

初心者も大いに歓迎、女子部員は特別大歓迎!!

## 硬式庭球部

我々硬式庭球部が、週にたった二・三回の練習であるのにいかに強いかということは次にかかげる四十四年度のががやかしい成績から容易にわかると思う。

▽東京都大会春季大会

男子単 ベスト32 (佐藤)

ベスト64 (笠井、角田)

同 複 ベスト32 (佐藤、山田、笠井、野呂)

▽都大会団体戦 (男子)

一回戦 新宿3―0 国立

二回戦 新宿0―3 成蹊 (優勝校)

△関東高校選手権 (硬庭部創立以来初出場)

二回戦出場ベスト32 (佐藤)

▽グリーンジュニアトーナメント

男子単 ベスト8 (山田)

同 複 ベスト8 (佐藤、山田)

▽毎日選手権

男子単 ベスト16 (佐藤)

ベスト32 (山田)

▽東京都大会新入戦

男子単 準々決勝出場ベスト8 (佐藤)

六回戦出場ベスト32 (山田、笠井)

同 複 準々決勝出場ベスト8 (佐藤、山田)

六回戦出場ベスト16 (中野、笠井)

女子単 ベスト32 (有蘭)

同 複 ベスト64 (有蘭、岡田)

(末永、末永)

▽都立対抗戦 (男子)

一回戦 新宿5―0 井草

二回戦 新宿1―3 石神井 (優勝校)

▽対抗戦成績 (昨年以来九連勝)

四月 新宿8―4 石神井

同 新宿4―1 九段

六月 新宿9―3 都大付

十月 新宿6―3 武蔵工大付

これ以外にも試合はたくさんあり、好成績をあげていることは確かである。

今年は、女子のレベルもだいぶ上ったので来年度は男女共、インター杯出場を最大の目標として努力し、硬式庭球部のががやかしい

伝統を受けついでいきたいと思っている。

## 体操部

体操競技は日本では数少ない世界一強いスポーツである。にもかかわらず、一般にはあまり普及していない。何故であるか？それはみんなが一流選手がやる宙返りの一回ひねりだとか、山下跳びなどを見て、「俺には絶対あんな事できない」と決めかかっているのではないか。そんな事はない。現にマットではできるのが前転か後転ぐらい。鉄棒ではけ上りもできなかった一年生が一年の終わりに宙返りもやれば大車輪もやるといった具合である。又、体操には他のスポーツにない喜びがある。それは新しい技を覚えた時の喜びである。今日はツイストができた。 ترامロ―ができた、前振り上り脚前掌ができた。こういった時の喜びは格別。体操をやったことのない者にはわからない喜びである。

この辺で四四年度の活動をふり返ってみると、

○六月 戸山対抗戦――優勝

二年の一人がケガの為に欠場したが、部で唯一人の三年生の活躍により勝つ。

○八月 夏期合宿

★第六ブロックにて

決勝選出強豪日大豊山高校を相手に、善戦健闘したが、惜しくも敗れた。

(二年生の部)

★第一ブロックにおいて

北野高校と対戦、不運にも敗退した。

我々は、新宿柔道部の伝統を守り続け、さらに成長しようとしている。公式戦において本大会進出は、不運にもなかったが、その実力は右のような対抗試合内容からも想像することはできよう。一年生部員十名中、七名までが初段であり、都立高の中でこれほど人材にめぐまれている学校は、まずみあたらないといつてよい。現在、我柔道部は個人の体力、技の向上を重点的に行ない、冬季トレーニングの休勢に入った。我柔道部の目標はあくまでも、第三支部優勝、東京都本大会における決勝進出であり、各部員は強い信念のもとに黙々と練習に励んでいる。

## ラグビー部

泥だらけの体で、まっ暗な灯一つない第二グラウンドを楕円球を追って必死に走った。だが、諸君は、試合の結果しかみてくれはしなかった。……去年の秋。人目に触れる事なく

東海大湘南校舎に於いて合宿。新宿と違い整った設備により大いに成果をあげる。

○十一月 都新人戦――第五位

これは特筆すべきことである。四人チームのところ一人がケガの為欠場したにもかかわらず団体総合で東京都五位。個人でも個人総合とつり輪に上位入賞をばたす。

三校対抗戦――優勝

現在インター杯出場を目ざし全員が一丸となって練習に励んでいる。なお、現在女子部員が非常に少ない為女子の入部も大いに期待している。

## 柔道部

我柔道部は、近年まれにみる超大型新人達を迎え、早くからその強さは、東京中に知れわたろうとしている。各都立校との対校試合においては、一方的に相手をくだし、対私立高戦にも、全くひけをとらない好試合を演じている。十一月九日に行なわれた第三支部予選大会では、東京都本大会進出を目標に、一二年とも獅子奮迅の活躍をし、一、二年ともに各ブロックの決勝まで進出、決勝において

一年生は不運にも天下の強豪、日大豊山高と対戦し、白熱の好試合を演じ、惜しくも敗退二年生も北野高に敗れた。このため本大会進出こそ成らなかったが、その実力は高く評価された。

主な戦歴 「」内は、新宿高校の成績。

○六月十四日(土) 戸山高校定期戦

対人戦Ⅱ九勝一敗三分

勝ち抜き戦Ⅱ十三勝六敗二分

○九月二十一日(日) 対竹早高校戦

対人技Ⅱ三勝一敗六分

勝ち抜き戦Ⅱ八勝八敗二分

○九月二十七日(日) 対千歳高校戦

対人戦Ⅱ三勝一敗六分

勝ち抜き戦Ⅱ八勝八敗二分

○十一月一日(土) 対駒沢大学附属高校戦

対人戦Ⅱ二勝四敗三分

勝ち抜き戦Ⅱ三勝四敗三分

○十一月三日(月) 新宿区民柔道大会

★区の個人柔道大会。新宿は無段の部

初段の部に参加、初段の部においてほとんど全員が、二回戦、三回戦まで進出した。

○十一月九日(日) 東京都学年別柔道大会

第三支部予選

(一年生の部)

黙々と励み続けた我々は、校舎移転によって初めて全校生徒の前に、姿を現わした。

ラグビーシーズンがあつても、練習にはない。梅雨や台風のごしや降りの中でも、三〇度を越す真夏の中にあつても、我々は練習をかかした事はない。苦しかった合宿、また、試合が近づいて第一グラウンドで、ナイター練習をした事もある。しかし、まだまだ充実した練習ができていないと感じている。

さて、チームの目標は、春季大会、新人戦戸山戦である。今年も、初試合は大敗してしまつたが、試合毎に、欠点を必ず克服する練習法によって、確実に力をあげてきている。

今年こそと、はりきる部員にとって、最も切実な障害はグラウンドである。新校舎、体育館によって、 $\frac{1}{2}$ 、 $\frac{1}{3}$ とせばめられたうえ、水はけを良くするという理由で、砂地にされてしまつたのである。加えて東大グラウンドが、紛争以来使えない。仕方なしに、我々は砂のグラウンドで、試合場を仮定しながら、局地戦ばかりを練習しているのである。

ラグビーは、すばらしいスポーツである。十五人が一体となつた、完全なチームプレーであり、チームワークの中でも、特に「信頼」が要求されている。そしてスクラム、タック

ルといった烈しいプレーを、何の争いもなく支えているのはフェア精神である。また、ニュージールランドで、五才の子供がラグビーを楽しんでいる事、全日本選手十五人中七人までが、160cm台である事をみても、ラグビーは危険だとか、体が大きくなければできないといった考えが、誤解であることがわかるであらう。

相手のタックルをかわしてゴールに飛び込む。迫力にみちたトライ、そのトライを夢みて、我々は寒い、暗いグラウンドを走るのだ。

#### 公式戦結果

|     |    |      |    |
|-----|----|------|----|
| 新人戦 | 新宿 | 11―5 | 盈進 |
| "   | "  | 20―3 | 独協 |

#### 春の大会

|                      |    |      |      |
|----------------------|----|------|------|
| 一回戦                  | 新宿 | 不戦勝  | 三田   |
| 二回戦                  | "  | 0―50 | 成城学園 |
| (レギュラー四人が負傷、一四人で戦つた) |    |      |      |

|    |      |      |
|----|------|------|
| 以上 | 旧チーム | 5勝9敗 |
|----|------|------|

#### 新チーム

|        |    |      |     |
|--------|----|------|-----|
| 全国大会予戦 | 新宿 | 6―17 | 王子工 |
|--------|----|------|-----|

#### バスケット部

まず、戸山戦から述べてみよう。戸山戦で

は例年熱のこもつた試合を繰り返し人気を集めている。さて、昨年は一点差で我が校が勝つた。親しみ深い我が体育館で行なわれた試合、我が校のプレーヤーたちにとって、あまり良いコンディションとはいえなかった。そして今年の戸山戦。前半18―17と一点リードで向えた後半、息つく間もないシーソーゲームを転回した。あと0秒新宿41―42、戸山で新宿校にフリースローが与えられた。一つ入れば同点、二つ入れば逆点のマンガならぬシンであったが、シナリオどろりにはいかず、おしくも一点差で涙をのんだ。

それでは、戸山戦以降の公式戦の結果を列記する。

#### ▽国体予選

|     |         |     |
|-----|---------|-----|
| 一回戦 | 新宿62―62 | 小山台 |
| 二回戦 | 新宿69―65 | 都三田 |
| 三回戦 | 新宿52―72 | 都足立 |

(この後、都足立はこの大会で都ベストに進出した)

一試合一試合実力をあげ都ベストと力を競える程になつた。我々の目標であつたベスト16も、もはや夢ではなく、手の届く所にあつた。ところが、ここに一事件が起きた。校舎移転のため、新人戦出場ができなくなつたの

だ。この事件に我々部員は一人一人、ぶちまけようのない憤りを感じている。しかし、これでくじけるようなバスケット部ではない。来年の関東大会をめざし、又都ベスト16の各校を破る覚悟を心に秘めて、日夜たゆみない練習に明け暮れている。新宿校の生徒諸君、我が校バスケット部にも夜明けは近づいた。諸君らは、あらたな日を感じを、バスケット部にむけなければならぬ時が来た。バスケット部の活躍に期待し、暖かく見守つて欲しい。

## 二部

### 工 作 部

素晴らしく真新しいあの新校舎に対して二世紀も前を思い出させるような古典的な建物がプールのそばにある。そこが僕達工作部部室兼工作室である。そこには木製のすばらしいロッカーがあり、その中には相当量の工具、模造紙、ラッカーなども入っている。毎週、火、水、金曜日の放読後になると部員が三三五五とやってくる。そしてそこには、工作室の主ともいふべき野畑先生がいつでも待つて

いて下さるのである。この温和な先生のもとで僕達はおのおのの制作にとりかかるのである。ご自慢の制作に越に入っているもの、さてこんどは何を作るうかと頭をいためているものなどさまざまで、デザインをするもの、紙細工かと思えばスピーカーボックス、レコードキャビネット、マガジンラックが出来上つて行く。

現在部員は男子のみであるが、鏡、ブローチ、小物入れなど女子向きのものもたくさんある。大いに女子の入部を期待したい。

#### 落語研究部

エー、落語研究部で御座居ますが、落語家がテレビ・ラジオなどで時間や客に妥協して低俗な笑いを提供している現在、『落語』というものがかなり誤解され、我々オチ研もその誤解を受けている面も多少あるようです。我々はただ単にお客(観賞する人)を笑わせさえすればよいものではありません。生意氣のようですが我々は皆様に古典落語を味わってほしいのです。落語を通じてその時代時代の庶民の風俗また人情を少しでも知ろうというのが落語研究部の目的です。落語は描写が巧みでその言葉一つ一つは生(ナマ)の日本語で

すから、おろそかにすることはできません。落語が文学・芸術といわれる由縁はそこにあります。芸術家の中には落語は芸術でないという人がいますが、暇人のひとりよがりで自己満足的で人間の生活にかかわりのない前衛芸術に比べれば、落語は民衆から生まれそして育てられたものでより立派な芸術であることは明らかです。どういう根拠で芸術でないとは決めつけるのでしょうか。全くのナンセンス。我々は深い味わいを求めて落語を研究しようとしているのです。そして少しでも皆さんに落語を理解してもらいたいです。

十一月に創立三周年記念特別公演と銘打つて、目黒高との交流会を予定しておりましたが、五日からのゴタゴタで、延期となりました。目黒高を皮切りに他校との交流会を開きたいと思っています。来年の学園祭は一年間の研究発表ということで公演その他展示もやりたいと思っています。

## 同 好 会

#### 数学研究同好会

いやはや、数研も変つたものである。新宿



生徒会総務

|              |    |     |    |   |   |              |  |  |  |    |    |    |   |   |
|--------------|----|-----|----|---|---|--------------|--|--|--|----|----|----|---|---|
| 昭和四十四年度生徒会総務 |    |     |    |   |   |              |  |  |  | 後期 | 大川 | 栄一 | 2 | H |
| 会長           | 前期 | 鬼沢  | 一寿 | 2 | D |              |  |  |  |    |    |    |   |   |
| 副会長          | 後期 | 佐藤  | 裕志 | 2 | A | ○その他諸機関      |  |  |  |    |    |    |   |   |
|              | 前期 | 平井  | 邦一 | 2 | E | 生徒代表会議議長     |  |  |  | 前期 | 松永 | 雄司 | 2 | F |
| 書記長          | 同  | 田名部 | 益興 | 2 | B |              |  |  |  | 後期 | 鳥飼 | 一功 | 2 | D |
|              | 後期 | 小林  | 隆夫 | 2 | A | H R連絡会議議長    |  |  |  | 前期 | 木下 | 徳之 | 2 | B |
| クラブ委員長       | 同  | 古市  | 健治 | 2 | H |              |  |  |  | 後期 | 松本 | 竜夫 | 2 | D |
|              | 前期 | 中山  | 隆  | 2 | C | 放送委員長        |  |  |  | 二期 | 上条 | 弘子 | 2 | C |
| クラブ副委員長      | 後期 | 空位  |    |   |   | 新聞委員長        |  |  |  | 前期 | 古市 | 健治 | 2 | H |
|              | 前期 | 田村  | 宏行 | 2 | A |              |  |  |  | 後期 | 秋山 | 勝男 | 1 | D |
| 生活委員長        | 後期 | 八木  | 達夫 | 2 | B | 選挙管理委員長      |  |  |  | 前期 |    |    |   |   |
|              | 前期 | 増山  | 信夫 | 2 | G |              |  |  |  | 後期 | 古市 | 健治 | 2 | H |
| 文化委員長        | 後期 | 空位  |    |   |   |              |  |  |  |    | 大盛 | 芳路 | 2 | H |
|              | 前期 | 徳長  | 秀彦 | 2 | E | ベルマーク委員長     |  |  |  | 後期 | 黒川 | 和雄 | 2 | A |
| 保健整備委員長      | 後期 | 橋本  | 温人 | 2 | H | 学園祭対策委員長     |  |  |  | 前期 | 黒川 | 和雄 | 2 | A |
|              | 前期 | 井窪  | 保彦 | 2 | F |              |  |  |  | 後期 | 鬼沢 | 一寿 | 2 | D |
| 体育委員長        | 後期 | 井口  | 淳  | 2 | H | 戸山戦対策委員長     |  |  |  | 前期 | 植村 | 裕幸 | 2 | H |
|              | 前期 | 土屋  | 貴  | 2 | H | 轍編集委員長       |  |  |  | 後期 | 鬼沢 | 一寿 | 2 | D |
| 図書委員長        | 後期 | 波立  | 一男 | 2 | H | 渉外委員長        |  |  |  | 前期 | 鬼沢 | 一寿 | 2 | D |
|              | 前期 | 宮崎  | 修一 | 3 | D | 規約検討委員長      |  |  |  | 前期 | 石橋 | 和子 | 2 | A |
|              | 後期 | 福原  | 政広 | 2 | A | 合唱コンクール対策委員長 |  |  |  | 後期 | 高津 | 浩明 | 2 | D |

委員会報告

総務

総務は各生徒会活動の部分部分を積極的に引っぱっていかねければならない。戸山戦は総務がリーダーシップをとって運営したが、学園祭は一般公募の委員が活発に働き、総務の一部も積極的に働いたが、総務委員の大部分は何ら主要な役割を演じなかった。

概して、前期の総務の活動は不活発であった。総務ニュースはわずか一回しか発行せず討論会も一回しか開かなかった。これは、発足後すぐに戸山戦の準備にとりかからなければならぬという事もあるが、戸山戦直後から学園祭準備が始まるまでの二週間は純粋な総務としての仕事ができる期間であり、その期間にあまり活動をしなかったというのは総務の怠慢にほかならない。

前期の総務の活動が不活発だった原因は、総務内の討論のしすぎである。総務会は従来の週一回を週二回とし、役員は毎日かなり熱心に討論をやった。討論の内容は戸山戦の意義は？ などというような、なかなか意見がまとまりそうのないものばかりをやった。そのため事務的な仕事がかなりおろそかにされまた、役員内の意見の対立がはっきりし、役

員の間に気まずい空気が漂い遂には一部の役員が総務の仕事を全くやらなくなってしまった。

青年期は思考力は発達途上にあるので、討論をやる事は悪くはないが、そればかりやってしまつて、何の実行もしないのでは困る。生徒の中には、考える方が、事務的な仕事をやるよりも上だ、と考えている人が多い。これは、ホワイトカラーをブルカラーよりも、上に見る社会の影響を多分に受けていると思う。しかし、生徒会の仕事に関しては、事務的な仕事をする方が考える事よりもはるかに上である。生徒会の意義などというような事を考えても、それは活動する際に余り役に立たない。しかも、生徒会の一期の活動期間は非常に短いのである。その短かい半年の間に総務が実行しなければ二つの大きな行事があり、その二つの行事を充実したものにするには、何よりもまず、より多い行動が必要ならばならず、くだらない事で討論をやっている事は全くの時間のロスである。

ともかく、前期の総務は生徒会の運営に失敗してしまい、活動が余り活発でなかったという事は誠に申し分けない事である。今後、発足する総務は僕達の犯した失敗を二度とお

こさないようにしてもらいたい。

文化委員会

文化委員会は四つの主な仕事がある。

- 講演会
- 討論会
- 論文新報
- 轍

前期の活動状態は、あまり活発ではなかった。行なった事といえば沢先生の講演会、轍の原案ぐらいなものである。討論会はまったく開かれず、論文新報は三年生一人が原稿を書いてくれたが、それだけではどう仕様もなかった。

後期にはいると活動はますます不活発となった。水曜日の委員会は欠席者多数のため最近数週間は流会が続いている。この状態がさらに続けば、文化委員会の機関としての役割はまったくなくなされずに終わってしまうであろう。後期は特に轍、論文新報中心にやるはずであった。轍は轍特別委員と文化委員の共同活動のはずであったが、現在では特別委員が中心に働き、文化委員会はそれをただ傍観している感が強い。また論文新報にしても、一応ポスターらしきものを各クラスへ配り、応

募の放送を適に二三回放送したが、さっぱり原稿は集まらなかった。これは、我々文化委員会の募集の方仕にまずい点があったかもしれないが、生徒の創造意欲がないということまた創造する時間がないということも言えるのではないだろうか。ここに今の教育について疑問が生じてくる。生徒を、知識を覚える機械のようにする教育の中で創造意欲を持てといっても土台無理ではないだろうか。これが改まらない限り、真の意味で創造した論文はあらわれず、真の論文新報はできないであろう。

## 生活委員会

前期の生活委員会の活動は、主として学校行事にそって行なわれていた。前期は戸山戦学園祭、運動会と多くの行事があったので、その度に警備などを頼まれ、それを一つ一つこなしていき、またその間、前期の目標であった「遅刻をなくすこと」については、正門において遅刻調査を一週間行なった。

遅刻調査について毎回問題になるのは、果してこの仕事をやってどのような意味があるのだろうか、ということである。御承知のとおり、遅刻調査中の遅刻者数は各クラス、一

二名であるが、調査のない時は五名ぐらいの者が遅刻しているという現状であり、委員会の中でも、遅刻調査廃止という意見はかなり出ていた。

とにかく、前期はいろいろな仕事に追われ自主的に活動するという機会はあまりなかったようだ。

後期は、学校行事もほとんどないので、自分たちで仕事を決めて活動していきたいと考えたのだが、その前に委員自身が生活委員会とはどういうものかということをはっきり認識しておかなければならないということで、しばらくの間生活委員会の定義について話し合った。そして、活動方針を決めようというところで今度の紛争が起こり、委員会活動は一時中断したが、それによって委員会で扱う話題もいくつか増えた。その一つは自主規制機関の問題で、現在は学校の回答に対し、生徒がどのような反応を示しているかを調査している段階である。

生活委員会は今ひとつの転換期に入ろうとしている。生徒による自主的な活動が望まれている現在、この委員会でも先に述べたように、遅刻調査、服装検査などについて考え直す必要があるということが叫ばれている。こ

れらのことは検査などによって強制されるものではなく、生徒間でそれこそ自主的に取り締まっていかなければならない問題なのであるが、これは生徒全員の協力がなければ成り立たないのである。このことをよくわかってもらいたい。

## 体育委員会

前期の体育委員会の仕事は、男子バスケット、女子バレーボールの試合で蓋をかけた。だが、水曜日の委員会にはクラブ活動と重なるので出席率の低いことがしばしばあった。試合の組合せから準備まで委員会で行なうのだ。たいへんな仕事なのに、生徒の協力も少ないからよけいに重荷だ。二学期に入ると水泳大会、運動会と続く。運動会の準備はいそがしいだけでなく、楽しい面も多い。たとえば、競技種目も委員会の意見が重視され、競技する者も声援する者も楽しめる種目を作れる。もちろん種目を何にするか考えながら、競技者の表情を思い浮べるのも一つの楽しみだ。準備中に「腹へった、先生お疲れ」などと叫んだのも思い出に残っている。先生の差し入れもあった。つらかった面は忘れた。各種委員になるなら体育委員になろう。

後期は男子バレーボール、女子バスケットを行なう予定であったが、いわゆる「紛争」というもので、計画はすべて白紙となり、期日未定の延期とせざるを得なくなった。各クラスとも盛んに練習していたのに。残念なことである。体育委員会の仕事にはもう一つ一番大きなものが残っている。三学期のマラソン大会である。中止にならないように願うだけである。

以上が体育委員会の主だった仕事である。このように充実した委員会を我々だけで占めているのはおしいことである。このへたな紹介を読んでいる君達も一度体育委員になってみたまえ。後輩に勧めるだけの価値があることがよくわかるはずだからね。

## 保健整備委員会

四十四年度前期、保健整備委員会は、多忙の中に有りました。例年の事では有りますが期間中に運動会・身体検査・水泳大会などの諸活動があり、又、それに拍車をかけた形で新校舎への移転がありました。委員会は、今までもっぱら保健活動（保健室管理）に重きを置いていた点で、新校舎の整美が、旧校舎のそれとは、比較にならないことが、今諸君

の眼で、旧校舎を見れば容易に理解いただけるでしょう。保健委員会と整備委員会への分離という声も委員会の中に多いという事も、今の保健整備委員会の責任の重すぎることを示すものと思われます。このようにいろいろな仕事で、委員会独自の活動（生徒の意志による事）は、あまり出来ませんでした。しかし学園祭では花を、各教室や廊下に置き、又実行は後期に委ねられました。各教室の月ごとの花の配布のための集金など、もっぱら新校舎の美化に、つとめたつもりです。ですが、実行できなかったこととして、四十三年度後期に出された、保健整備委員会誌の続刊の発行やら、保健活動（統計など）の総括的発表などがあります。上記のように、前期から後期へ委ねられた、いくつかの活動があまりすが、最後にこの原因的な事を書くなら、いわば、委員会内にはびこるダレムードが書も大きな原因であると思われます。これは単に委員会内部だけにとどまるものではなく、生徒の掃除の時の態度にも見られることです。

保健整美委員会は生徒の日常生活の中における協力を、基底としてはじめて成り立つ委員会などです。したがって生徒諸君にも自分たちの新しい校舎を管理する気構えを持って

もらいたいものです。全然むずかしいことはありません。ただ一つの事でさえ、紙の飛行機を飛ばさなければずつと校庭は、校舎はきれいになるんです。次期保健委員会への協力を要請して文を終わります。

## 渉外委員会

総務会で、渉外関係へ、例えば他校との交流会等は余裕があれば行うというような消極的な態度を決定したため、渉外委員会ははでな行動はできなかった。

しかしどちらかというと地味ながら充実した仕事をした。

前期の活動は次の通りです。

### ① 全定交流関係

まず、昼夜交流ノートの設置を行なった。昼夜交流ノートは、落書帳がわりになってしまった所もあったが、全体的にみれば、だいたい真面目に利用されており、設置した効果はあったと思う。なお、新校舎に移った時に昼夜交流ノートを新しいノートに取かえた理由は、旧校舎の時の定時制とのクラスの組合わせが、新校舎に移って、全く変わってしまったためである。

六年間にわたって休刊されていた全定交流

機関誌夜光虫を復刊させた。この夜光虫復刊には、かなりの時間がかかり、夏休み中、六回定時制と話し合い、九月三日発行する予定であったが、発行したのは双方とも九月十三月であった。なお、この夜光虫の内容は、主に昼夜交流ノートの中から、ピックアップしたものである。

なお、毎年開かれていた全定交流会は、年ごとに参加者がへつてきており、参加者は生徒会役員だけ、という事が予想されたのと、意義が薄い、という事になり、今年は中止した。

## ② 関東高校生招待会議関係

この会は慶応高校（日吉）が毎年主催するもので、我が校は招徒校にあたっていたので今年も招待がきた。一般には朝礼で呼びかけたが、開催日が八月七日・八日という夏休み中であつた事と、八月七日までクラブの合同合宿とかで一般からの参加希望はゼロで、結局、生徒会関係者の五人が参加したにとどまつた。参加校は慶応、慶応女子・慶応志木・早稲田高等学院・足利工業・女子学院・池袋商業・トキワ松女子・東横学園の計十校であつた。今年の議題は次の通りであつた。

### A 友情

ら、校門の所にかかげた。また、鐘楼の所には「戸山戦まであと×日」という掲示と大きなポスターをのせた。そして、当日も、戸山戦参加クラブの意気込みを載せたビラをくばつたり、戸山高校を罵倒するような展示物を校門の所においたりした。

このような、これ以上は望めない、という程アイデアを考え、また行動したので、戸山戦当日の非常な盛り上がりが予想された。

しかし、盛り上がりは例年通りであり、生徒の約半数が観戦したにすぎなかった。

このように、やや盛上がりにかけたとはいえ、新宿完敗という大方の予想をうち破つて引き分けにまで持つた事は非常に喜ばしい事であり、また成績の所を見てもわかるとうり、もうちょっとで勝つ事ができたという事は、来年に大きな望みをかける事ができる。

〔成績〕 六勝六敗一引き分け、統合引き分け、通算五勝四敗五引き分け

六月七日（第一日目）

|        |       |        |          |
|--------|-------|--------|----------|
| 新宿     | バレー男子 | 負      | 一——四     |
| 卓球     |       | 勝      | 九——八     |
| 戸山     | 陸上    | 勝      | 一四八——一二七 |
| バスケット男 | 負     | 四二——四一 |          |

- B 高校生の人間関係
- C 自主性について
- D 進学その目的と意義
- E 高校で学ぶもの

## ③ 郵便物の事務

学園祭のプログラムやポスターはちゃんと整理したが、その他の事についてはかなりルーズであつた。

## ④ その他

いろいろな生徒会関係の集まりにたびたび出席した。その結果わかつた事は、我が校における教師による生徒会管理の実体は他校のそれに比べれば比較的小さく、都立校の中では我が校はかなり生徒会活動は自由である、との印象を与えた。

## 規約検討委員会

前期規約検討委員会は、発足が遅く、また委員の出足もそろわず、昨年度あれほど紛糾し多くの問題をかかえたにもかかわらず、たいた活動もできないまま、時間切れとなつてしまつた。

七、八、九の三ヶ月間に我々が行なつたことは、一口に言つて過去数年来の規約検の活動と変わりばえないものであつた。つまり

|    |   |        |
|----|---|--------|
| 女  | 負 | 五〇——二九 |
| 男子 | 負 | 六——三   |

六月十四日（第二日目）

|        |       |     |             |
|--------|-------|-----|-------------|
| 新宿     | バレー女子 | 負   | 一——二        |
| 柔道     |       | 勝   | 二——〇        |
| 剣道     |       | 引分け | 一——一        |
| 戸山     | サッカー  | 勝   | 一——〇        |
| ラグビー   |       | 負   | 〇——二四       |
| 体操     |       | 勝   | 一四四・一五——一四三 |
| バドミントン |       | 勝   | 一〇——四       |

最後に、戸山戦対策委員会では当初、文化部の交流や両校の討論も計画したが、時間的に余裕がなく、運動部の盛上げの妨げになる等の理由で中止した。

## 学園祭対策委員会

今年の学対は校舎の移転・学対委員の少なさ、グループ参加に関する問題などがあり、発足当初から大変であつた。

校舎移転に伴う問題は先生との相談などで解決し、学対委員の少なさによる問題は学対委員の「モーレッツ委員」化によって、解決したが、グループ参加に関する問題で総務と教師側が対立し、それに伴い、学対も大揺れに揺れた。

選挙の際の期日のこと、署名制とそれに関する規約の不明な点について。三学期における定足数の問題について各委員会、生徒大会の生徒代表会議の位置づけ。——これらについて出た意見は、それぞれの問題点にふれながらも、改正にもつていくまでの強さがなく、どれも検討不十分ということになった。

また、これらの問題とも関連して最も問題となつたのは、第一章第五条にある。

現在、生徒会粉碎、自治会設立、が叫ばれているのもこの一節によるものと思われる。我々は、指導という言葉に、強制力を認めないということに一致はしていたのだが、委員会として担当の先生方と話し合う必要があつたのに、それも行なわなかつたということは委員会の怠慢としか言い様がない。

## 戸山戦対策委員会

戸山戦は去年は負けていたので、今年こそは勝とうという意気込みに燃え、戸山戦対策委員会が発足した。

戸山戦を盛り上げなければ、勝てない、と考えていたため、盛り上げるためにいろいろな活動をした。「戸山戦に勝利を！」という大きな立看を作製し、戸山戦の二週間程前か

この問題の一部始終は次の通りである。  
五月に開かれた生徒大会で総務は、学園祭の方針として次の事をうちだした。

意義 創造発表の場

内容

- ・クラス単位の参加は各HRの決定による
- ・クラス参加の決まつた場合はそのクラス員はクラスの参加に協力しなければならぬ。
- ・個人及びサークルの参加も認め、クラス参加と重複してもよい。
- ・クラブ参加及び職員の参加は自由である。

学校はまず、この総務方針を認めるか認めないかを相談した。（六月十六日）そして、結局認める事になり、学対は総務の単なる事務機関にすぎない、という事ははっきりさせた。（なお、この時には、学対委員はまだ二人しかおらず、両君とも総務の案に反対を示していたが、規約の上でも総務決定が優先すると考え、総務案を認めたわけであつて、真から認めたわけではなかつた。なお、この場には、先生方の学対委員のうち一人がおられた。この事実は重要であり、後になって総務

が先生方に対し、総務の正統性を主張する根拠ともなった。詳しいことは後に述べてある。

学校は、この総務案を一応認めたので、この総務案に沿って活動をし、グループ参加の募集を六月二七日の行間の時に行なった。なお、この行間の時には数多くの先生がいた事は、言うまでもない。

七月十二日の行間の時、試験休みの学園祭準備の事について朝礼で言うために、鐘樓の横の所に立っていた学対委員長（当時）に先生側の学対のうちの一人が「全然グループ参加の事については聞いていないから、グループ参加は認めない」と言った。もとより、グループ参加反対の委員長はその時に、その先生に強い抗議の意志も示さずに、事務的にその事を了承した。そして、同じく鐘樓の横に立っていた生徒会長に委員長がその事を話した。グループ参加推進を唱える生徒会長はその事を聞き、おどろき、学対の教師に抗議した。そして、その時、その教師が言うには、「グループ参加を認める、などというような学園祭の性格にも影響する重大な問題は職員会議にかけなければいけない問題だ。それなのにグループ参加の事なんか私は全然聞いて

いない。君は、顧問の坂本先生にその事を話したかね」と。ともかく、その時は対決意識に両者とも満ちており、冷静さを欠いていたので、その日の午後話し合う事になった。

なお、この発言の中で先生は、グループ参加の事については私は全然聞いていない、とおっしゃったが、その発言は明らかに偽わりであり、六月十六日の時にちゃんと話してある。証人もいる。坂本先生に話さなかった、というのは事実である。これは別にこのグループ参加を認めるという事をかくそうとしたために言わなかったのではなく、さして重要な事でない、と判断したから言わなかったのである。

その日の午後の話し合いでは、教師側は、「グループ参加を白紙に戻し、どうしても参加したいと希望するグループだけ、グループ参加としてではなく、管弦楽部の一部としてとか言うように参加できる事を検討する」と述べ、参加できればどんな形でもいい、と生徒会長は考えたため、その月の会談はそれで終わり、七月十五日に個々のグループの参加について話し合う事になった。

七月十五日、生徒会長が会談予定を忘れるという大失態を演じてしまい、教師側をかん

かに怒らせてしまった。なお、この日に開かれた学対委員会で、グループ参加募集を全て白紙に戻し、この件を職員会議にかけてもらい、これに従って学対は行動すると決定した。

この決定に伴い、既に応募していた七グループにこの事をつげた所、四グループはなおも参加したい、という意向であった。

そして、問題が解決しないまま、夏休みを招え、夏休み中、八月中旬までに先生方と二回話し合いをした。その結果、三年生の二グループは認める事が決定したが、二年の二グループについては参加を認めないと正式通告があった。

これにどう対処するかを決めるため八月十五日に臨時総務会を開いた。定足数には満たなかったが、その日のうちに決めてしまわないと、プログラム製作上まづかったので、方針を考えた。その結果、次のような苦肉の結論をだした。

「生徒会則第五条には、この会の活動は名誉会長並びに顧問の指導を得て行なうものとする、とある。従って、顧問の指導を得れば活動を行なってもかまわない。グループ参加に関しては、教師側の学対から、認めない、と

の指導があった。指導があれば活動を行なってもかまわないのだから、別に指導と異なったことを行なってもさしつかえない。だからグループ参加を強行しても、それはあくまでも合法的であり、非合法的ではない。以上の根拠によって、総務はあくまでも、グループ参加を合法的に強行させる」

なお、この結論に不満をもち、グループ参加反対を唱えていた学対委員長は八月十八日に辞任した。

このころから、学対は大きな混乱に陥り、有力委員までもが、教師介入の学園祭はつぶすべきだ、などと考え、一時的に手を引いてしまったが、生徒会長が一人で働いたため、機能の低下はあまりなかった。

なお、八月二十日に印刷屋に渡すプログラムの原稿の中に、グループ参加の原稿を先生には秘密で生徒会長がこっそり入れた。この事は後になって、先生方がグループ参加を認めざるを得ない状況をつくりだす一因ともなった。

八月三十日、再び臨時総務会を開き、八月十五日に定足数不足で決議した内容を再確認した。また、この日に、先生との最後の協議会を九月にはいってすぐに開く事を先生方に

要求する、という学対決議がなされ、その事を教師側の学対に申し入れた。教師側は、こ

れを快く受諾し、九月一日に学対・総務・先生

生の三団体で協議会を開く運びになった。

九月一日、先生との協議会が開かれた。ここでは、学園祭についての考えの違いなど抽象的な事からプログラムの事など具体的な事を詳しく話し合った。そして、教師側は九月三日の職員会議で、グループ参加を認めるか、認めないかを最終的に決定すると述べ、その日の会議は終わった。

九月三日の職員会議では、グループ参加が認められた。この事は余りにも予想外の出来事であったので、学対を狂喜させた。

なお、これを機に冷戦状態が続いていた先生と学対との間にミゾがなくなり、以後学園祭が終わるまで先生との協調関係は続いた。

以上が、学対開幕までのいきさつである。

なお、従来の学対は学園祭が終わると、反省だけをやって解散してしまうのが常であるが、今年の学対はいろいろな問題を提起したので、後期も活動を続けた。二月の生徒大会には、後期中にまとめた学対改組規約を提出する予定である。なお、我が校の学園祭は他

校よりも一段早く開かれるため、学園祭前に他校の学園祭を視察することは殆んど出来ない。従って、後期には三十数校にわたる他校の学園祭の視察を行なった。

最後に、少し述べる。学対の仕事は事務的な仕事が始んどで、ちっとも面白味がなく、苦労ばかりしてつまらない、と考えている人が多い事と思う。確かに、苦労は多かったが実際にやってみると非常に面白い。そして、この学対の仕事に生甲斐さえ見だし、今考えても、あの学対時代の思い出は脳裏にこびりついて離れない。学対の仕事をやると、責任感と実力がつく事は確かであり、思わぬ所で、自分の才能を発見する事が出来、学園祭が終わった後には、実力を背景とした大きな自信が残る。とにかく、次の学対にはやる気のある人は積極的に入ってもらいたい。学対はそのような人たちの期待を絶対に裏切る所ではない。

## HR連絡会議

前期には学園祭があったため、HR連絡会議のかかりの時間がそのために、さかれまして。毎年のことではありますが、学園祭には大分、手をかけられます。

四月から五月にかけては、二・三年生による一年生を迎えるにあたっての対策、説明などの事項について話しあいました。

このあと、全学年の本格的討論となりました、現在のH R連絡会議の沈滞ムードをどう改めるべきか、H R連絡会議と生徒代表会議との関係などが話しあわれましたが、あまり見るべき成果はありませんでした。

同じく沈滞気味の生徒会などを活発化させるためにも、H R連絡会議を、もっと活発にしたいものだと思います。

さて、例年の通り学園祭への準備段階となりましたが、種々の原因で、その準備は大幅遅れてしまいました。

この遅れは、二学期になっても取り戻せず学園祭直前まで続きました。

ざっと前期の報告を書きましたが、H R連絡会議の沈滞原因は何でしょうか。

まず、意見がさっぱり述べられず、進行できません。これは、各H Rの状態がかなり影響しているのではないのでしょうか。

更に悪いことには、出席率が良くないことです。

何しろ、出席率が良くないのでは、困ってしまいます。クラブなどの理由で、出にくい

人もいるでしょうが、クラス一人でも出ていただきたい。

そして、基礎であるところの各クラスで討論を活発にしていきたい。

後期の人以上のことを最低限、実行していただきたい。

### 生徒代表会議

二学年も半分が過ぎ去り、「これでは、いけない」と思い、生徒代表に立候補し、当選したのが昨年十月。そして初めての会議が3 Hの教室に於て、二十クラス程の参加を以って開かれた。全く未知数だったが、とにかく生徒会総務と同等の権限を持つ委員会であるという事だけは知っていた。であるから、少なからぬ期待をもって出席したのである。またでは良かったのだが、他の委員会と同様、意識の低さばかり目について戦意喪失してしまった。その上二回目からは、一六クラス（定足数）集まる事も稀になり、我々議長団は、議決権のない会議を自由討論に変えて、細々と討論を続けていくようになってしまったのである。自由討論と言えば聞こえは良いが、その実は、誠に哀れなもので、この討論が回を重ねるうちに、一人また一人と出席者が減

り、その事が更に意識の低下を招き、悪循環を繰り返すのみであった。

以上が四十四年度後期生徒代表会議を振り返って感じた事であるが、心ならずも生徒代表に推された方は、以上の事を留意しフットをもって臨めば、必ずや代表会議を高められるであろう。

### 放送委員会

一、放送委員会とは？

特殊委員会の一つで、編成は放研五名、総務二名の計七名から成り立っています。

任務は各行事（水泳大会・運動会などから生徒総会はまだ全学集会に至るまで）のセッティング・昼休みのDJ・下校放送といったことです。

二、現状

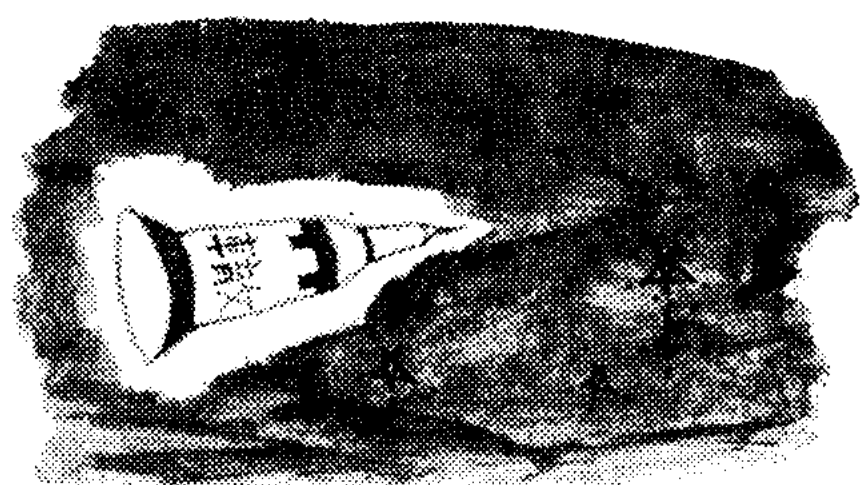
常識で考えたって、右の任務全てをたった七名の委員でできるわけがなく、更に総務の二人はそちらが忙しくて放送室へなんか顔も出さず、……という訳で、実際の活動は放研部員総動員で行っています。

つまり「放研II放送委員会」で、部員は二重労働に苦しむのであります。

三、今年度の報告

好きな方もどうぞ。

（現在は新しい機械です）



## 新宿徒然草

昭和四十四年度

第三回新宿高校十大ニュース

- ◎ 二学期に紛争勃発
- ◎ 本校新校舎に移転
- ◎ 竹早高旧校舎に移転
- ◎ 業間体操なくなる
- ◎ 学園祭にグループ参加が正式に認められる
- ◎ 戸山戦引き分け
- ◎ 後期総務二か月半遅れて発足
- ◎ 検閲制廃止となる
- ◎ 一・二年、二学期の成績表に評果つかず
- ◎ 生徒を一喜一憂させた巻き紙がなくなる

四、「問題提起」に関して

当委員会には、学校側の規制というものはあまり強くかかりません。どうしても判断に

困る時、久保田先生に御相談にうかがうくらいです。委員会の判断でやっていますので、どうぞ御用の節は放送室まで……

とこれはPRでした。

五、入会希望者は……

本校で唯一のDJのできる当委員会へ入るには、まず放研に入って下さい。委員会の仕事だけでなく、その基礎となるアナウンス練習から指導致します。もちろん機械技術がお

# A F S 報 告



3年G組 田 口 雄 司

アメリカで女の子はやたらにかっこよくみえた。だので大変な根性で社交生活に成功しようとした。それが留学の成功だと信じていたのである。その考えは後には捨てた。しかし、やはり女の子への興味は失わなかった。うそではない。まるで色気狂いみたいに見えるかもしれない。だけど、思春期の盛りである。その事実を避けたくない。さて、それでその結果といえは話せば長いが、まあ、恥もかいた。苦しい思いもした、根性だしたけどそれは悲喜こもごもの一大叙事詩であった。男女問題は重要な問題だと思う。さて、ここにまるで異性に無関係な子がいたとしよう。そしたら日本の親は喜ぶだろうが、アメリカの親なら病院へかつぎ込むのではないか。およそ、健康でしっかりした嫁さんもうのもいいけど、一生を伴にするのである。本当に自分にあつた人を冷静に選ぶ力を養うという点で、若いうちからの気楽で幅広いつきあいは必要だと思う。その点、おとなしく、ニヒルに消極的に構える事は損だと思う。拒否することは、いとも簡単である。もし、本気で行くとうとするなら恥を恐れぬ驚くべき根性があるだろう。それに対して社会が許容的である事は大事である。また、当事者

である者である男女もお互いにもっと寛容な受け入れ安さと積極さがある。まずは、相手を知るための意志の疎通がなくては好きも嫌いもないと思う。男子問題もひっくり返して、はじめは「こんなめめしい真似ができるか、おれは男の子なんだ」なんていろんな事によく思った。しかし、その点において日本的観念がいかに損であり、それを捨てると楽しい時がかなりあると悟った。楽しい事といえば、一番は人との交わりである。景色を見るために外国まで行くとは思わない。ことばというのはすばらしい。まあ、会話には苦労した。まあ、会話には苦労した。一言もわからなかった。懸命に俗っぽい会話を聞いてて、暗記したもんだった。あまり、入試に役立たないのはくやしいが、おかげで随分年がいくもなく、はしゃげるようになった。楽しむ時は思いきり楽しむのが良いと思う。せっかく、この世に生をうけてんだ。だけど、一方きびしい面に全力でぶつかってこそ心からはしゃげる資格が与えられると思っている。

同じ高校にピートというイタリアからの留学生がいた。彼とは本当にはしゃいだ。一番の親友である。同じ留学生の身、二人でまさ

## ユーモア 他校生徒会誌より

美稲（千歳ガ丘高校）より……………・成績表は一色よりも赤が入っていた方が非常に美しくてよい。  
・嘆願書……先生、生徒にも研究日を作ってください。

以前（慶応高校）より……………・教師は生徒のためにいる。  
あけのほし（福山暁の星女子高）より…・第5次限 上まぶたとたまぶたが2大巨頭回談  
磐城高生徒会誌より……………・肉体が純潔であればあろうとするほど心の純潔が失われていく。  
・大学は落ちる以上に受ければよいのである。  
・イヤー、物理だけは真剣に聞くべきでした。  
（パチンコ経験者より）

足跡（鷺宮高）より……………・愛は事情によりマイナスになる。 $(i^2 = -1)$   
・旺文社を破産させ、社会をよくしよう。  
・もし沈黙が金ならば、あなた方はお金持ちになるでしょう。  
・戦後と呼ぶべき時代は終わった。今や戦前と呼ぶべきである。

・物体Aをすべらせないようにするには、どれだけの力が必要か。ダインで答えよ。という問題があった。私はセメダインと答えておいた。

北辰（富山高）より……………・生徒 = a, 先生 = b, 人間 = c  
 $a \asymp b, a = c \quad \cdot \quad b \asymp c$   
・問い、月に何があると思いますか。答、30日。  
めぐろ（目黒高校）より……………・わが授業時間は忍耐養成時間であった。  
・学校での秀才、及ずしも社会での秀才にあらず  
（赤点獲得者）

城北（城北高校）より……………・汝の隣人を愛せよ、されど垣根をぶちこわす事なかれ。

足跡より……………・だれよりも君を愛す。アンチョコ様  
・すべての可能性、破壊の前夜  
・ならぬカンニングするが勘忍  
・勉強せずに東大に入れます「東京大工組合」

からす（烏山工高）より……………・校長とは生徒にとって不必要で朝礼にとって必要な人種である。

田園（田園調布高）より……………・池田氏曰く「人造りに精を出せ！」お解り？  
芝商（芝浦商業高）より……………・1時間は長く三年間は短い。

# 地歴研究発表

＜多摩川＞



に喜びも悲しみも分けあった。二人で三十回以上も演奏会をした。彼はピアノ、ぼくはギターで、日伊の歌を歌った。本来ならスピッチをやるのだが、こっちの方がうけてしまった。二人でやると会場は爆笑の渦でよくGR・EAT COMEDIANS! とほめられた。ピートのイタリアの唄とぼくの「ケメ子の唄と学校のバンドの曲が入っているLPのステレオ盤レコードをつくってもらった。それは、日本にもって帰った最高の物質のおみやげである。さて、ピートとの別れの時、彼は最後のことばとしてぼくに「Sukebe」と言ってくれた。ぼくも同じような事をイタリア語で言った。かなりふざけているようだが冗談抜きで、あの生活ががんばり抜いた二人の生命力を象徴していることばに感ぜられた。そして、つらい別れだった。

町を去る時、飼っていた犬にさよならを言った。そして涙が滝のようにでた。でも、アメリカで泣いたのはその時たった一度きりであった。本当は、このまますべてを放棄したい、そして大声で泣きたい、と何べんも思っていたけれど。それは、ホームシックなんかからじゃなく、実際の留学生活のむつかしさからである。一度、車の中で友達と飲酒中警官

に警察まで連れていかれ事もある。それは反省すべきだが、実際の留学生活においていい子ちゃん、いわば上流階級の人だけとつきあうだけでいいのか、とたまになくもなかった。金が足りなくてよく芝刈りや窓ふきもした。でも、それらの事などはまだ些細な事である。とにかく、きびしい事が多かった。それらの事全部を、ここにあげにくい、とにかく楽しいばかりの一年ではなかった。でもそれは当然である。それは旅行なんかじゃない、一つの生活だった。そこに人間らしい喜怒哀楽のあらゆる要素が複雑にからみあったとしても不思議ではあるまい。ここでぼくは思う。アメリカで安逸に暮した日々は楽しいかもしれないが進歩はなかった。きびしい時ぼくが学んだ事がある。それは、自分のいい加減さを思いしった、人の美しさも醜さも見た。すこしづらく要領よくなった、最後にたよれるのは自分なんだと悟った。なんと退廃的と思われるかもしれない。でもそれを体をはって思いしれたのである。これからもあるであろうこんなのもきびしい時に、その経験が役に立つなら、それはこのAFS留学の最大の功德だと思う。

去年、世界50ヶ国からきた三千人のAFS

留学生の感じたことは何だろう。その一つはアメリカの大部分を占めるその驚くべき豊かさには比べた世界の矛盾ではないか。ぼくも日本の貧しさきびしさを何となくみたような気がする。ホンダやトヨタはごろごろしてたが、反面、中小企業の職工の匂いのするような、ちゃんとした日本製品もたくさん見た。そして、ここに忘れることのできない一人の西南アジアからの留学生のこの言葉を思い出す——国は農業だけ、帰ったらテントに暮らすんだ、でもすぐに徴兵されるだろう——世界には日本より貧しい国がまだまだたくさんある。日本はそれらの国を食いつぶしていくんだろうか。でもそれが世の中なんだ。皮肉なことに国際親善を目的としている留学を通じて、ぼくはそう認めるようになった。

注…AFS留学とは、一年間米国の高校に在学、かつその間一般家庭にはいる制度。ほとんど無償。東京地区は毎年十一月ごろその試験がある。

# 研究発表「多摩川」

## 地理歴史研究部

多摩川（奥多摩）については、交通公社で出している旅行案内という手頃で優れた案内書があるが、それを写しただけでは無意味である。そこで、地歴部では、昭和四三年度後半から四四年度前半にかけて多摩川に何回も出かけて、奥多摩の山村の様子・観光・水道などを調べた。ここで我部の研究発表を見て、そして多摩川の存在について再確認していただければ幸いである。

### 多摩川の概要

秩父山地に源を発し、上流の奥多摩では支流の秋川・日原川と共に狭谷をなし、多くの景勝地を造り河口付近では六郷川とよび「羽田川」が発達している。長さ一二八キロメートル。

《青梅から日野まで》

多摩川は山地を出ると急に川幅が広くなる。そして、河岸段丘が開けて、川幅は広さを増し、流量もしだいに多くなっていく。多摩川の水は、羽村にある大規模なダムでせき止められ、左岸取入口に渦まいて流れこんでいる。ここで、導水路の水は数百m流れて、ひとつは暗渠（トンネル水路）の中を村山・山口の両貯水池へ送られる。一つは玉川上水となって武蔵野に流れていく。拝島付近では多摩川と秋川が合流する。

《日野から丸子まで》

用林）などである。

山々は比較的急傾斜の山腹が多く、谷が狭いため棚田を開くこともできず、緩傾斜地は、畑として利用されている。この種の山地の農耕では緩傾斜地が得にくいいため、家を建てるのに便利な平地を犠牲にしても、そこを畑にすることがある。その場合、集集の位置は、山の中腹の急傾斜地の、すべり落ちそうな所が選ばれている。奥多摩の谷は、多摩川の流路がほぼ東西に走っているから、山合いの耕地は、その適地が日向傾斜か日陰傾斜面かによって利用価値に大きな影響を受ける。即ち谷の北側の南向きの斜面は日当りもよく作物も育つが、北向きの斜面は日照時間が少ないので作物の育ちは悪い。このような土地利用は上流にいくほどはつきりあらわれてくる。谷の出口の青梅付近になると、ずっと耕地も開け、山村というより農村に近い土地利用がみられ大麦は年一万三千石、小麦三千石をこえる生産をあげており、その他にバレイショ・ニンジン・ゴボウ・ダイコンなどが作られ、東京の近郊農村の西縁を形成する。これにひきかえ青梅市街及びその周辺にある小会木・吉野では、木材の生産は多摩溪谷や檜原村に比べ、はるかに少ない。奥多摩山林からの年々十萬石に近い生産に対し、青梅では、年々五千石程度である。これはこの地域には利用されない山林が多いためである。

これらの木材はスギ・ヒノキが多く、青梅材と呼ばれている。角材と足場丸太が主で大きな材木は少ない。江戸時代には江戸に最も近い木材供給地として、各種用材が切り出されたい。明治以後急速に発展した市街地や近郊農業に押され、西へ移動し、今日奥多摩まで移ってきている。山の中腹は湿気と深い土壌に恵まれ、スギを育てるのに適し植林の進んだ山では、高度千二百m付近から谷へ

日野をすぎると、やがて、八王子盆地の北を流れる浅川が合流する。浅川流域には、沖積原が開け、川から丘陵にかけては水田がゆるやかな段々を作りつつ開けている。多摩川の本流沿いは砂利層が発達していてこのような土質に適した梨・桃などの樹果園が多い。羽村取入口の余水は、下流でさらに砧上・砧下（いずれも河床の砂利層を流れる伏流水の取入）と玉川の各浄水場へ取り入れられている。

《丸子から東京湾まで》

丸子付近から下流の多摩山は、水かさが増し、川幅はかえって狭くなる。下流部は六郷川とも呼ばれている。川口の三角州の埋立地には、国際空港の羽田飛行場もある。下流の多摩川は、昔をしのぶ風景はほとんど見るできない。

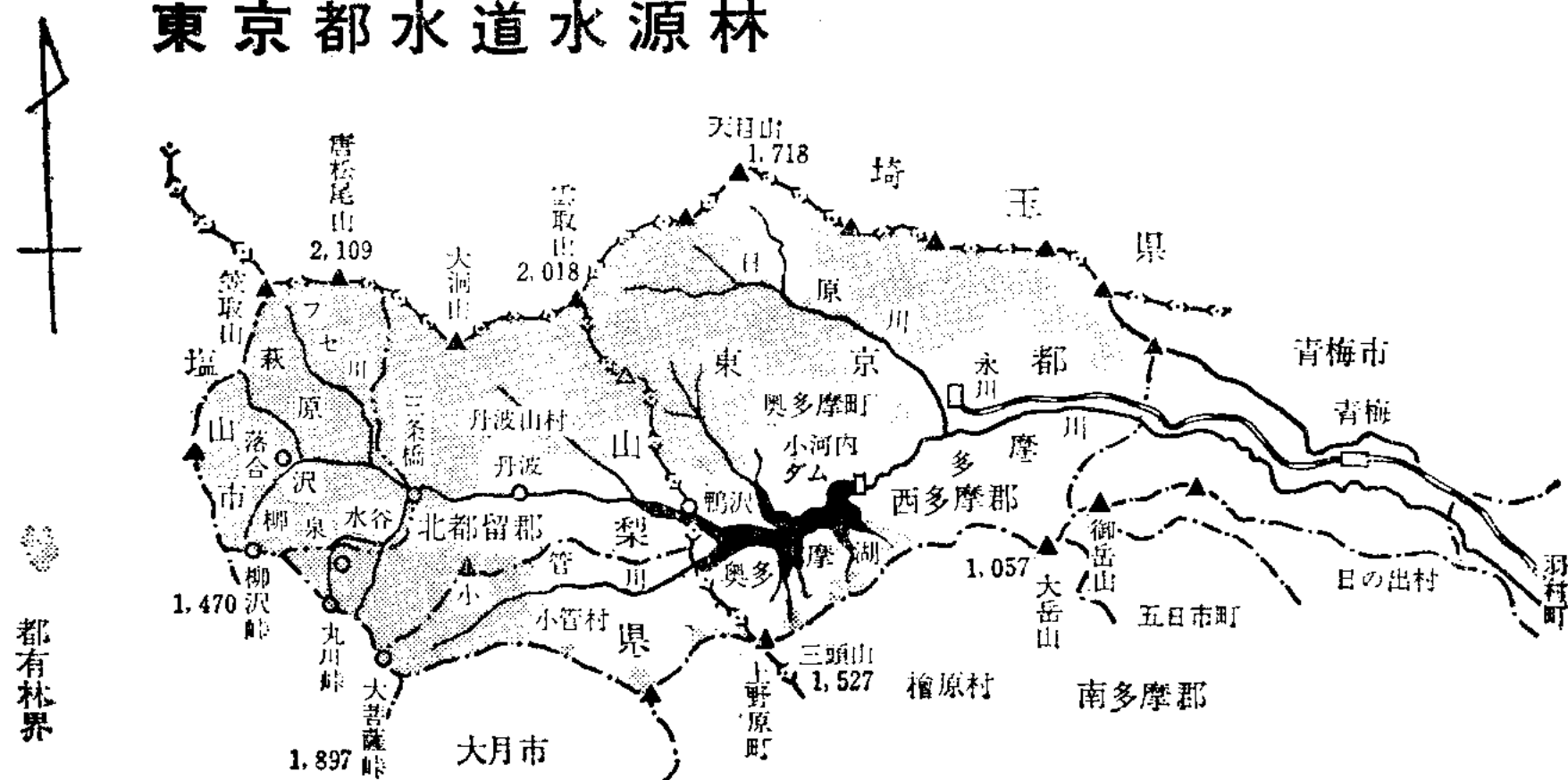
### 奥多摩の町と村

#### 一、東京都の僻地

《山地の土地利用》

山々とその周辺の台地とからなる西多摩郡は、面積約五・七・ha中七八％が山村、耕地面積は都全体の約半にすぎず、大部分は山麓周辺の台地に集中し、多摩川と秋川の谷に沿って山の中にわずかながら延びている。水田は殆んどなく、多摩川秋川の谷底に狭い水田がある程度で、緩傾斜の山腹斜面には芋や麦の畑が谷底から中腹へはい上がっている。これに比べ森林面積は多摩川流域全体で約二二万haもある。しかしこれらの森林のうち経済林は約一四・六万haで全森林面積の約半は林業の対象にならない山林（水源保護林・水利

東京都水道水源林



かけてスギ林が、高い斜面にはスギよりも乾燥に耐えるヒノキが植えられている。植林のない斜面は雑木林で覆われ、その大部分は利用の対象にならない山林である。奥多摩流域では約五五〇haが薪炭材として仕立てられているにすぎない。薪炭生産は、江戸時代にはこの地では最大の生産業であり、大消費地を近くに控え、青梅・五日市はその集落地として栄えたが、近月東北地方から良質安価な炭が大量に出回るため、奥多摩の炭は往年の繁盛を失っている。

#### 《山の畑の特産物》

今までは自給用の主穀・雑穀を主として作り、山の幸と共に生活の大きな糧としていたが、今日では何か現金収入源があれば、食料は多地域から移入できるので、山地の特色を生かした換金作物が見い出せるならば、その方に畑地利用を転じた方が有利である。

明治の後半期から昭和にかけて土地利用・畑地利用は一段と進んだ。その第一は養蚕業の発展による桑畑の開拓であるが、むしろ山深い地域に特色のある作物として注目すべきものはコンニャクイモとワサビである。コンニャクイモは高冷地気候にも耐えられ山地向きの作物として好適だが、多量の草肥を必要とし、コンニャクイモ栽培面積と同程度の採草地を隣接地にもつ必要がある。現在その収穫量は、奥多摩の小河内地区で年間約一八〇七、檜原地区で四・五t程度である。

これに対してワサビの方は分布範囲も広く、コンニャクイモよりも盛んに栽培され、水の流れる沢に分布する。主な栽培地域とその収穫量は、奥多摩の古里地区八t、氷川地区七t、小河内地区四・五t、檜原地区一tという、年産額をもっている程度で、静岡県に比べればまだ遠く及ばない。この他シイタケ栽培も盛んであるが、

達により物資交通もこれによって能率化され、二つの町の定期市は次第にさびれて、今日では廃絶している。

### 三、溪谷の町と村

青梅線が、氷川まで延びたので溪谷中の中心集落であった氷川は町に発達し、今日、同町はその上流の小河内村を合併して奥多摩町となっている。同町は、都西北端にあり、全域山岳地帯で、町域は二二六・四km<sup>2</sup>に及び、都内市町村中最大の境域をもつが、人口は約一・五万人、うち氷川が<sup>1</sup>/<sub>3</sub>を占め、残りの一五部落中の半数は人口五百人に満ず、都内市町村最小の人口密度をもつ地域となっていてまさしく東京都の僻地である。

小河内ダムの完成による奥多摩湖の出現は僻地であった奥多摩溪谷に新しい展開を与えた。元来、多摩上流は、都民の飲用を主目的とする各種の用水源として、古くから重要視されたが、従来の給水施設（玉川上水、村山・山口両貯水地）では、渇水期の給水を確保できないので、大人造湖を造り渇水期にも給水可能の水を確保しようとして、一九三八年（昭和八）着工、一時中断（第二次大戦中）、一九五七年（昭和三二）完成した。この完成により都水道供給能力は旧約五五・五万m<sup>3</sup>から九八万m<sup>3</sup>に増大し、この工事を契機として、氷川から上流へのバスが通じ、バス道路は山梨県境を越えた。

こうして都心部との結びつきが密になるような機関や施設されると、奥多摩の僻地性が次第に薄れてくるようになった。同ダム建設は、いわばこの種の僻地性を切り開く水門であり、土地を初めてとして伝統的なものを失わせることによって新しい生活への打算を教えた。多くの場合このようなダムサイド一帯は、人造湖を中心として

これは青梅・五日市近傍に多く、特に山地の特産物栽培物とは限らない。また山麓地の緩傾斜で水はけのよい所には梅・栗などの果樹やユリも栽培されている。高尾や吉野の梅林・秋留台地の栗林は名所として多くの観光客を集めている。

### 二、奥多摩の集落

#### 《谷口集落の町》

多摩川上流地域は高い生産性を示す東部地域と対照的にひっそりとした僻地の静けさをもっている。そこには地形的にも、土地の生産力からいっても多くの人口を養う力はない。しかし武蔵野台地に連なる山麓から丘陵地帯にかけては、近郊農業地帯の西縁を形成していて、土地利用も高度の集約性をもっている。

青梅は多摩川上流地域と接合する地点に発達した谷口集落で五日市と似ているが、青梅が明治になっても、着々と発達を続けたのに対し五日市は今日まで、町勢の停滞が続き、市街は五日市街道の終着地をなすメインストリートが一条長く延びているだけである。これは多摩本流の谷の奥行きの深さ広さが、秋川に比べ遙かに広大であったことと、青梅が明治以後その周辺に五日市より広い生産的な培養圏をもつことができたことによる。青梅も五日市も上流の物資と平場の物資との交易の市が立って、物資交流の結節点として起こった町で、青梅では二七の市が定期市として、江戸時代すでにその名を知られていた。五日市も大正頃まで薪炭の間屋が軒を並べてその名の示すとおり五・一五・二五の月三回の市が立った。また、青梅街道（青梅―江戸）、五日市街道（五日市―江戸）が重要な動脈となっていた。しかし、今日陸上交通機関（青梅線・五日市線）の発

観光地化する。同湖は今日、都の観光地として脚光を浴びている。

これまで奥多摩の山々は、一般にはせいぜい武州御岳が昔からの山岳信仰と観光と結びついて高尾山と共に知られていた程度であったが、小河内ダムの建設により、バス路線は山梨県境をこえる小河内線を幹線として、鍾乳洞で知られた日原へ延びる日原線が氷川から分岐した。日原は戦後数年を経てやっと電燈がついたという僻地で、氷川は多摩本流と日原川との合流点にあり、溪谷内の交通の要衝であると共に観光の中心ともなった。これまでも溪谷内の特産物（木材・ワサビ・コンニャク・シイタケ）などの集荷地ともなっている。したがって町の付近にはキャンプ場、バンガロー等の施設もあり、夏季には特ににぎわう町である。

これに比べ秋川の谷筋は奥多摩より取り残された感が深い。奥多摩町の中心集落氷川に対比される秋川溪谷内の檜原村本宿は、北秋川と南秋川の分岐点に位置し、その地理的位置も氷川に似ているのだが、集落規模も活気もとうてい氷川には及ばない。しかも明治になっても平野地域との接触をあまりもたず、静かに取り残された形で今日に至っている。僻地的素朴さや伝統がよく保存されている。山梨県境に近い数馬部落は、武田家の落武者の部落だといわれカブト造りの屋根をもつ家が多く、甲州文化の影響のあったことは明らかである。

### 奥多摩の村々の生活

変貌する山村の生活……奥多摩町全体の産業別人口構成の比率は、

第一次二六・九％、第二次三四・三％、第三次三八・九％（一

九六〇年）となって思いのほか農林業人口が少ない。第二次大戦直後は第一次五二％、第二次二二・八％、第三次二五・二％と第一次が半数以上を占めている。これは貯水湖工事開始以前の山地集落の生業の状態を示す。戦前は農家一戸当り経営耕地面積は五二a強だが、六〇年では一八・三aにすぎない。これは奥多摩湖の出現により、耕地が密集していた谷底が水没させられたためである。奥多摩山村の生活は大まかに次の三つの時期に分けられる。

江戸～明治……自給生活を営み焼畑農業を行なう。林業は微少。現金収入源は薪炭程度

明治末～第二次大戦直後……次第に林業中心の生活へ移る。一世帯当りの私有林は約四・八ha、養蚕も行なう。

直後～今日……農業は兼業化が進み（第一種兼業農家が多い）、専農は、僅少。石灰岩採掘、セメント製造の鉱工業と土建関係商業・各種サービス業。

ダムの開設と山村生活の変貌……一九三八年の小河内村の人口は男二一〇三人、女一六八三人、うち有業人口三二八四人、そのうち日傭い四六一人。これは貯水池工事に雇われる者が着工と同時に生じたことを示している。ダムの完成後は、農業人口の激減（半分）と建設関係者の著しい増大（二倍半）をみるようになった。さらに各種のサービス業は、二、三倍にまでふくれあがった。

## 観光地としての発展

### 一、観光地としての出発

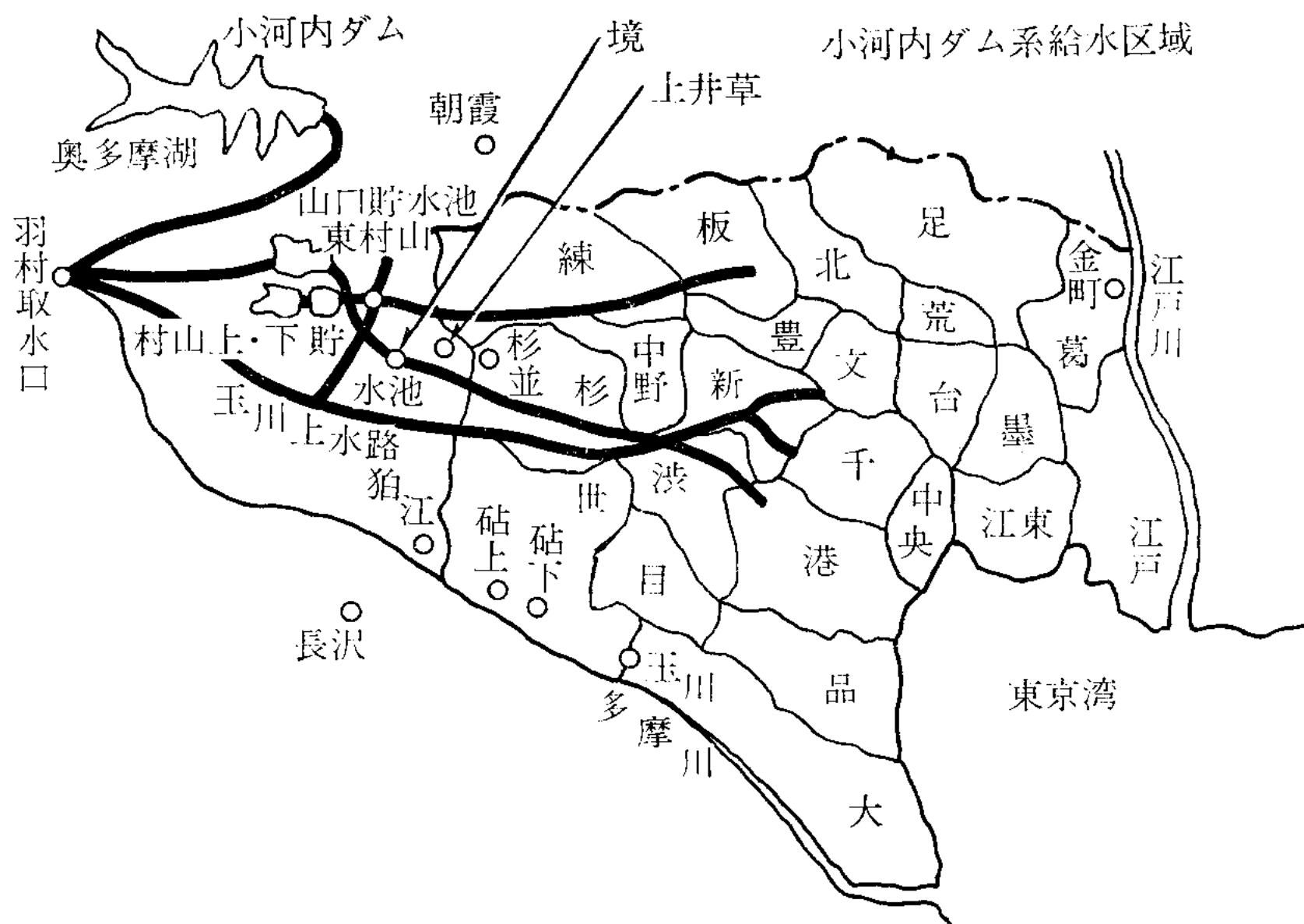
家や土地を犠牲にして得た奥多摩湖は、観光地としての大きな要素となり、同湖と共に秩父多摩国立公園の優れた溪谷と、それらの自然人工の美を加えて、有形無形の文化財となった。同湖の出現が観光地化を促進したことは確かだが、それまでこの溪谷が観光的に知られていなかったというわけではない。観光開発は、江戸時代の頃からあった。

### 二、奥多摩の観光資源と文化財

同地の観光は、山岳信仰に結びついた温泉契機をなし、また多摩川の溪谷は、秋川の支谷と共に武蔵野に向って広く谷口を開いていたので、東部の政治的支配も谷の奥まで及んだ。同地の文化的・政治支配の根拠地は、多摩本流の場合は青梅、秋川の場合は五日市近傍があてられた。

紀元四世紀頃からこの地方の開発が進んだとみられ、五日市に阿伎留神社が建てられた。また武州御岳（一〇七〇m）にもそのころ御岳神社が建立され、山岳信仰の伝統のうえに、関東の武将たちにもちろん、一般庶民の信仰をも集めた。

同地の遺跡遺物の主なものは、多くは室町以前のものである。江戸時代この地は、天領となり、青梅や五日市の山麓を中心とする地域の生産は著しくのびたが、神社仏閣の建築や芸術品などの生産はかえって行なわれなくなった。だが、小河内鶴の湯は観光地としての名声が上がり、溪谷の美を楽しみつつここを訪れる江戸の文人墨客が多くなり、さらに御岳の山岳信仰により観光をかねる団体参拝



も増し、むしろ観光地としての発展がみられた。明治になり、林鶴梁が奥多摩探勝の紀行文を著わし、その名文と共にこの溪谷の観光地としての価値を高揚し、いっそう都人に知られるところとなってきた。

### 重要な文化財

〔青梅市所在のもの〕

金剛寺と如意輪観音像……平将門の開基といわれる真言宗の寺で、市名青梅の名の起源となった梅の考本がある。この寺に安置されている如意輪観音像は重要美術品に指定されている鎌倉時代の仏画である。

氷川神社……日原川が多摩本流に流入する所にあり、祭神はスサノオの命とクシナタヒメの命で出雲族の植民により建立されたという。

天寧寺と釣鐘……開基は一四七三年（文明三）、青梅勝沼城主三田弾正氏宗といわれる曹洞宗の禅寺で寺内鐘樓の寺鐘銅製で、重要美術品に指定されている。

塩船観音寺と観音堂……一五三三年（天文二）勝沼城主三田政定の建てた堂宇で、観音堂・阿弥陀堂・仁王門は室町時代の寺院建築として、重要文化財となっている。

御岳神社……社殿は明治のものであるが、その背後にある旧本殿は（室町時代）、一九四六年国宝に指定された。他に畠山重忠が寄進したという鎧と馬具が国宝に、社宝の甲冑・太刀、賽銭箱などが重要文化財となっている。

### 三、奥多摩湖の観光シーズン

近年、年に百万人以上の観光客を誘致しているのは、奥多摩湖の出現であり、来遊客数の年次変化がそれを裏付けている。同湖を来遊する人々は、多く春と秋に集中して、九割程度が日帰りの客である。バス・自動車・電車を利用して来遊し、昼食などを携行して一日を楽しんで帰るのである。

### 多摩川と水道

〔東京の水道〕

水道の需要は、東京の巨大都市化に伴って近年著しく増大している。水道は、夏の強大需要量にみあった施設能力をもつことが必要であるが、ここ数年の大幅な施設の増強にもかかわらず、現在の施設能力一日四三八万<sup>3</sup>m<sup>3</sup>と比べて、なお七三万<sup>3</sup>m<sup>3</sup>余が不足している。雲要にマッチした水源の開発と、浄配水施設の整備拡充が、いま東京の水道にとって一番必要である。

#### ■都水道の施設のあらまし

東京の水道は、二三区が給水区域だが、区部の九〇五万人に対して、給水人口は八四一万人、水道普及率は九三・四％（昭和四四年三月末現在）なお郡部の一部市町気水道にも臨時分水をしている。昭和四四年三月現在の水道施設のあらましは次のとおりである。

#### ◎東京都水源林

多摩川上流の水源林は、東京都と山梨県にまたがり、その面積は二二五七ha、材木の総蓄積量二四八万<sup>3</sup>m<sup>3</sup>に及んでいる。このような

大規模な水源林を持っているのは、わが国では東京の水道だけである。水源林として利用される木は（人工林）、スギ・ヒノキ・アカマツ・ブナなどである。

#### ・小河口貯水池（奥多摩湖）

西多摩郡奥多摩町に、多摩川の本流をせき止めて造った人造湖でコンクリートダムの高さ一四九m、満水時の有効貯水量は、一億八五四〇万<sup>3</sup>m<sup>3</sup>（霞が関ビルをますにして約三六〇杯分）である。水道用としては、世界最大の貯水池である。昭和七年に計画され、一三年に着したが、一八年から二二年まで戦争で中断、三二年ようやく完成した。

#### ◎村山・山口貯水池（多摩湖、狭山湖）

西多摩郡羽村町にある羽村取水所を取り入れた多摩川の水は、地下導水路で村山・山口の貯水池に導かれる。これらの貯水池は、狭山湖の谷間をせき止めて造った人造湖である。村山貯水池は大正五年起工し、昭和二年に完成、山口貯水池は昭和九年に完成した。満水時の有効貯水量は、村山貯水池（多摩湖）が一四八二万<sup>3</sup>m<sup>3</sup>、山口貯水池（狭山湖）は一九五三万<sup>3</sup>m<sup>3</sup>、合計貯水量は三四三五・m<sup>3</sup>、（霞が関ビルをますにして約六六杯分）である。

#### ◎浄水場

現有施設全体の標準給水能力は、一日三六五万<sup>3</sup>m<sup>3</sup>、浄水場別の水源、給水能力で多摩川の上流、下流の浄水場では、全体の三六・一％を占めている。配水施設として、給水場（一七カ所）、ポンプ場（三カ所）がある。

### 多摩川と工業

京浜工業地帯はいうまでもなく日本の大工業地帯のひとつであるが、特に多摩川をはさんでその兩岸はこの工業地帯の中核をなしている。

〔京浜工業地帯〕

京浜工業地帯が工場地帯として確立されたのは、日露戦争（明治三七〜三八）をへて明治末期の頃だが、本格的な発展と拡大の時期は満州事変に始まる昭和の戦争経済の時代である。経済軍事化の波にのって、軍需産業を中心に重化学工業化の先頭に立ち、我国最大の工業地帯に成長した。この地域はそれだけ敗戦の打撃を最も強く受けた。このため戦後の回復の歩みは遅く、その地位も低下して阪神工業地帯に首位の座をしばらく譲ることになった。だが、朝鮮戦争の勃発に伴う、特需景気を契機に、この地帯は回復から飛躍の時期を迎える。特に三〇年以降の発展テンポは著しく高まっており、全国平均を上回っている。

経済の発展に伴い工業地帯の外縁を拡大しているが、工場数、労働者数で全国の約<sup>1</sup>/<sub>4</sub>、出荷額で三割見当が集中しているとみてよいだろう。

中部地区↓川崎・横浜鶴見区を核心として、北は太田・品川区まで、その工業化は東京都南部と川崎市の多摩川下流部に第一次大戦以後工場が増えたのに始まるが、多摩川沿岸が過密状態を呈すに至って、新しい外延的発展の道をとらざるを得なかった。それが、現在中核をなしている臨海地区である。満州事変以後の重化学工業

の躍進につれ鶴見河口から東の扇町に至る埋立第一地区（一九〇三〜一九二八）には、数々の大工場が立ち並んだ。その後、川崎地区根岸港の埋立てが計画されたのは昭和三十一年であり、前者は三二年後者は三四年に着工されている。（「神武景気」から「岩戸景気」へといわゆる「高度成長」の時期を迎えるが、京浜工業地帯もまた新しい拡大の時期に入る。それが臨海部における埋立ての進行であり、内陸部への進出だったのである）川崎地区区は三八年春に完成して、日本石油化学と東燃石油化学の二つの石油化学を軸にしたコンビナートが新しく生み出された。

部長 田村宏行

部員 猪瀬・岡田（三B）深見（三C）山本（三E）高野（三F）

豊田・渡部（三G）石井・杉崎・野村（三H）北村・田村・

福田（二A）伊倉・佐藤・川島（二B）

顧問 久保田武先生

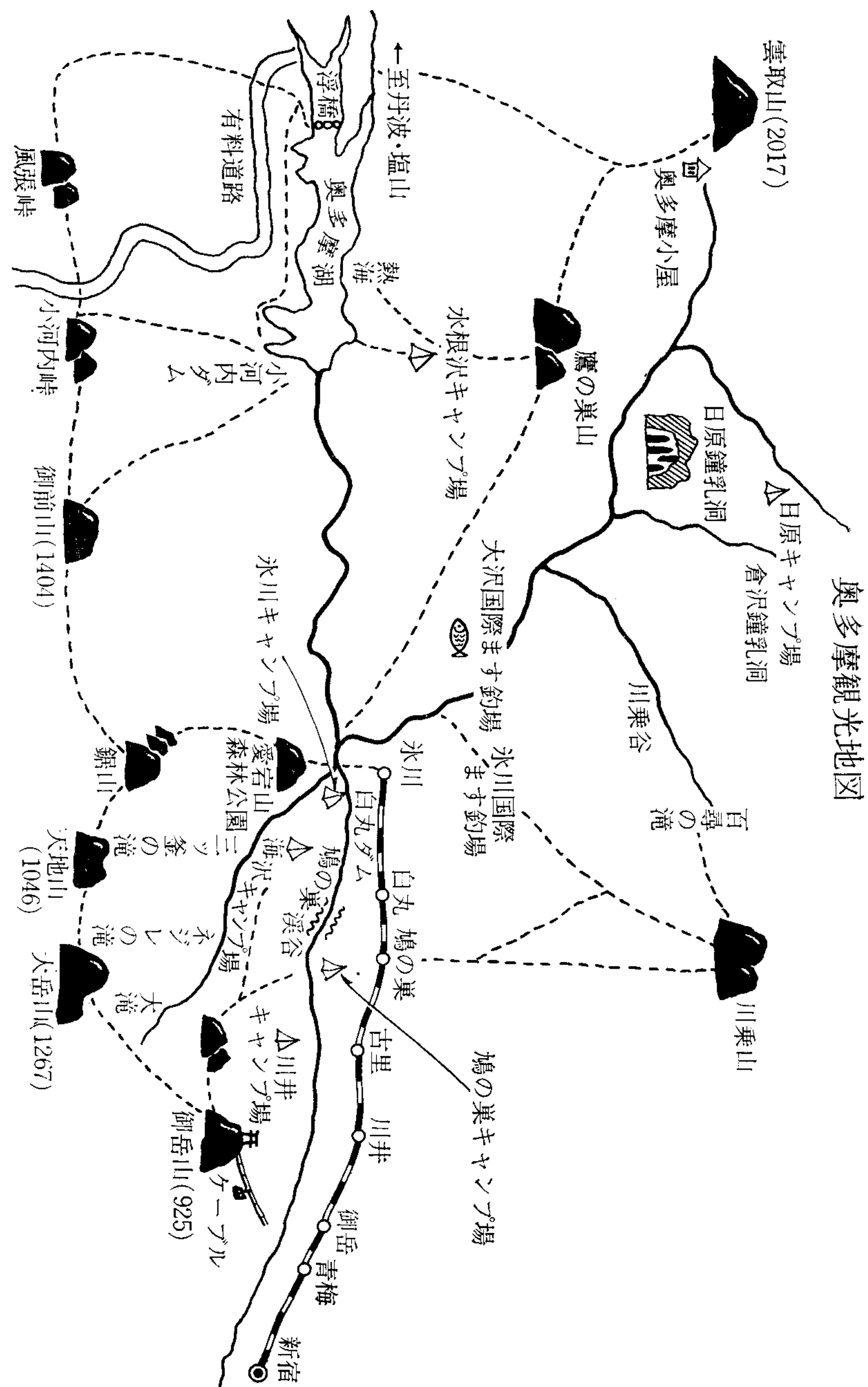
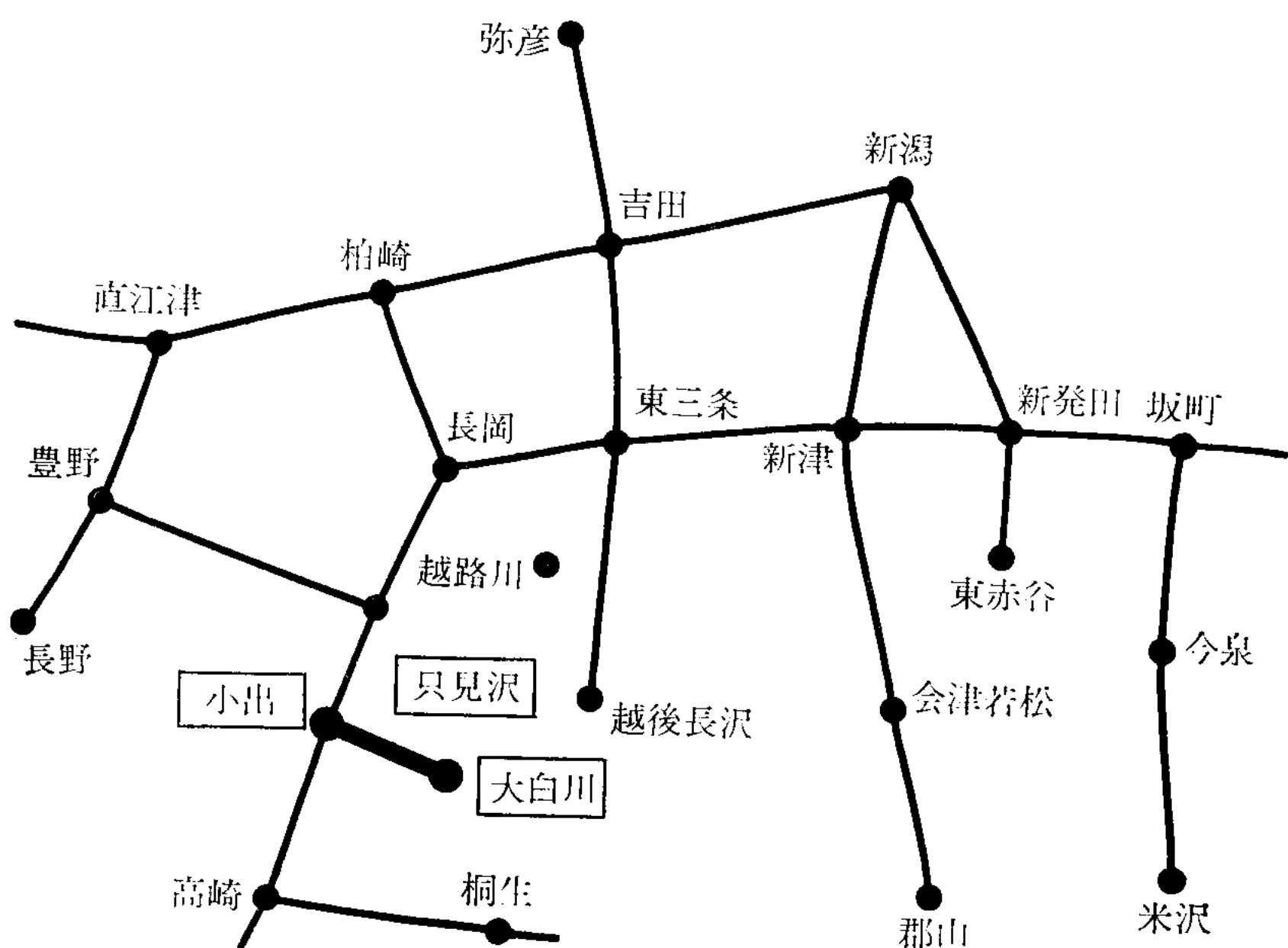
☆

☆

☆

# 鉄 研 研究発表

## 只見村



・、現況

只見線は上越線の小出から北東に分れて、破間川に沿って大白川に至る全長二六・〇kmのローカル単線である。昭和一七年一月一日に開通して現在に至っている。

沿線人口は約三・九万人足らず、最近若干減少している。並行の道路もあるが、客貨ともに鉄道に対する依存度が高い。その理由は運賃・冬期の豪雪・道路の未整備などによるものである。しかし近い将来、道路が整備され積雪対策も完全になれば、鉄道に対する依存度は低下するだろう。

旅客列車と混合列車（客混合）がC11形式SLけん引によって運行されており、一編成により一六〇〜二三〇分の間隔が一日五往復が運転されている。

八月二五日〜二七日の小出祭の際には、一往復増発されていた。旅客列車の編成は朝夕の通勤通学時のみ四両で、その他の時間帯は二両が原則である。

貨物は米・パルプ・けい石・セメント等があり増加の傾向にあるといえる。

DLは四四年一〇月一日より長岡運転所所属のDE15が入線した。

それ以前は、先に書いたようにSLが活躍していたがDL化に伴い、SLは冬期のみ使用されることになっている。（四四年度のみ）

DLは冬期に各線の除雪列車に充当される。

地形は小出・大白川間は、ほとんどゆるい上り勾配で左右を山々にはさまれた、それほど広くもない平地をすすんでいく。

途中鉄橋一ヶ所、トンネル二ヶ所がある。

駅数の駅で、小出、越後広瀬、越後須原、大広間、大白川を除いては、無人駅であり出改札は車掌が行なっている。これらの無人駅は線路が一線のみで、貨物扱いはない。

また現在建設中の大白川と会津只見を結ぶ只見中線は、新潟県側は四四年いっぱい、全線は四六年完成予定である。

この線が完成すれば、新潟県と福島県が鉄道で結ばれることになる。

二、添乗記

「只見線」とは上越線小出駅より北東へ二六kmのびる赤字ローカル線である。

我々鉄道研究同好会は、国鉄新潟支社の御協力により只見線に添乗する機会を得た。只見線には長岡運転所小出派出所のSLC11が二両あり、乗務員も同所が担当している。

乗務員並びに機関車運用を紹介すると、

AB三一 小出一三五、大白川一三六、小出 三七、大白川一三八、小出

八、小出

AB三二 小出一三九、大白川一四〇、小出（翌日）、小出一三一、大白川一三二、小出一三三、大白川一三四小出

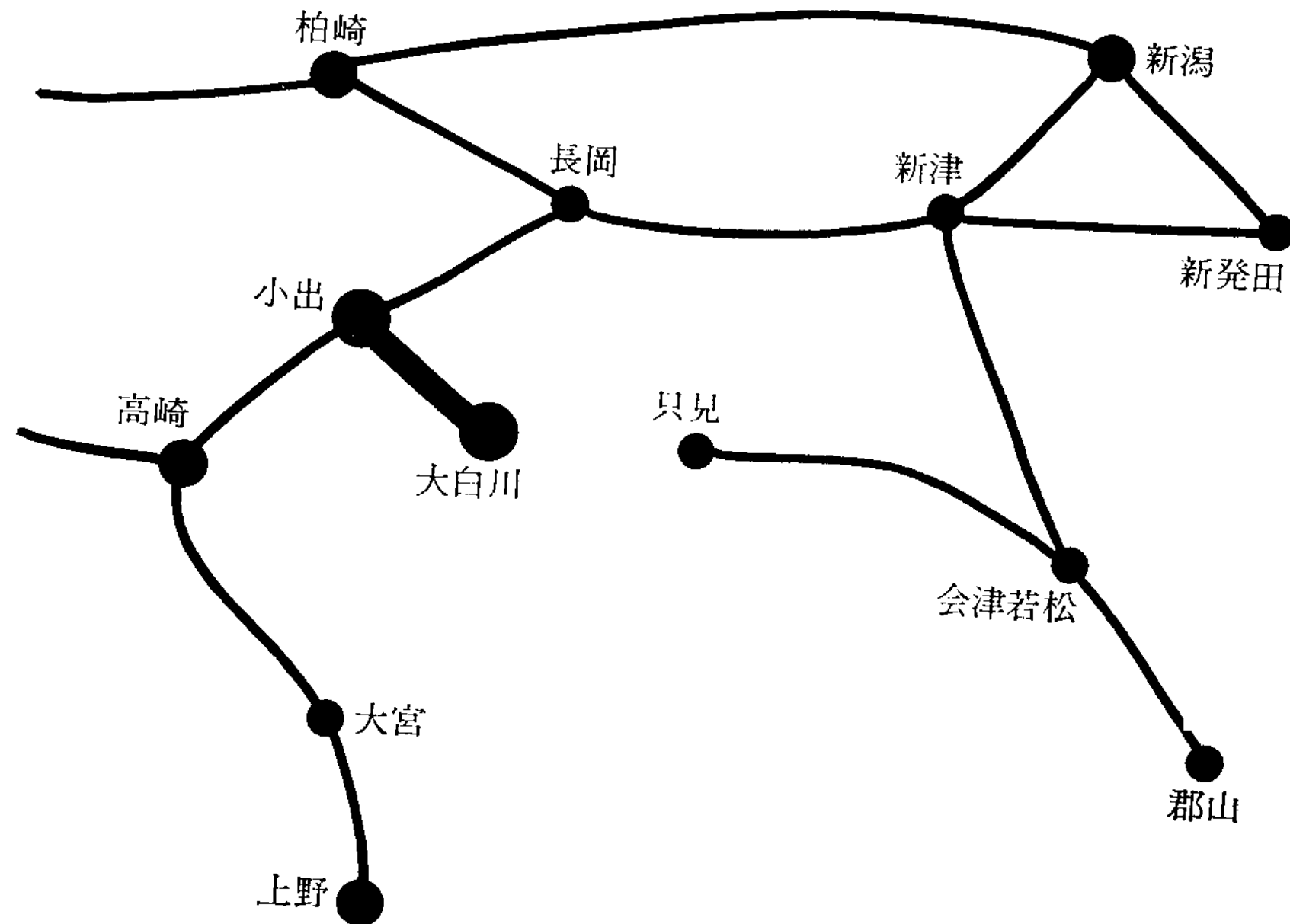
乗務員の仕業順序は三一仕業、三二仕業、休又は非番である。我々は八月二九日第三一仕業一三七↓一三八↓に添乗することになっていた。

当日の第三一仕業は小幡実機関士、金子祐一機関助手、機関車はC一一・一九

機関士と機関助手は出勤点をすませ、派出所構内に留置してあるC一一・一九に向かう。

只見線と山手線の比較

|       |           |               | 只 見 線                  |                        | 山 手 線               |  |
|-------|-----------|---------------|------------------------|------------------------|---------------------|--|
| 資 産   | 主 要 施 設   | 全旅客キロ物        | 26.0km<br>26.0<br>26.0 | 26.1km<br>26.1<br>26.1 |                     |  |
| 輸 送 力 | 列 車 キ ロ   | 旅 貨           | 客 物                    | 664                    | 4,974km             |  |
|       |           | { 計 客 計 物 計 } | 積 空                    | 28                     | 1,367               |  |
|       | { 積 空 }   |               | 94                     | 6,341                  |                     |  |
|       |           |               | 231                    | 39,515                 |                     |  |
|       | 車 両 キ ロ   |               | { 積 空 }                | 23                     | 458                 |  |
|       |           | 254           |                        | 39,973                 |                     |  |
|       | 換算客貨車キロ   | { 積 空 }       | 94                     | 35,601                 |                     |  |
|       |           |               | 90                     | 10,238                 |                     |  |
|       |           | 旅 貨           | 客 物                    | 184                    | 45,837              |  |
|       |           |               |                        | 892                    | 160,494             |  |
| 453   |           |               |                        | 98,402                 |                     |  |
| 1,345 |           |               |                        | 258,896                |                     |  |
| 速 度   | 表 定 速 度   | 普 平           | 通 均                    | 26.0<br>26.0           | 33.6<br>33.6        |  |
| ひ ん ど | 1 キ ロ 1 日 | 旅 貨           | 客 物                    | 7<br>3                 | 521<br>143          |  |
| 快 適   | 乗 車 効 率   | 下 上           | り り                    | 81%<br>98              | 110<br>105          |  |
| 輸 送 力 | 乗 車 人 員   | 普 定           | 通 期                    | 308人<br>536            | 231,328人<br>490,065 |  |





[illegible]

( 84 )

止まるたびに行なうことだが、列車の重さ・乗客数などでブレーキの利き方が違うので熟練が必要だ。

到着したら、すぐ機関車が切り離されターンテーブルにのり、機関車の自力でターンテーブルを動かし方向転換する。そして側線を通り本線に出てまた客車に連結される。

客車は新コテ・オハ三、オハフ一、オハニ一の配置である。列車乗務員（車掌）は小出駅乗務員と称し、車掌兼操車掛（途中駅での入換・連絡など）兼改札掛（無人駅）である。

一七時三五分大白川を発車、小出へ向かう。

この一三八列車で第三一仕業は終わりである。

小出駅へ着いて機関車は客車の入換をして派出所構内に入り、乗務員は退区点呼をすませ帰宅する。

私も小出発一八時一九分発二〇八Mで帰京した。

最後にこの添乗記を書くことにあたって、御協力いただいた次の方々にお礼を申し上げます。

日本国有鉄道新潟支社機関車課

同  
長岡運転所小出派出所

(二A 太田正行)

### 三、国鉄の赤字線対策について

赤字線については、「国鉄諮問委員会」が次のような意見書を出した。

赤字線のうち八三線区、二五九〇、六kmの鉄道を廃止して自動車輸送に切替るのが適当である。

しかしもう一つ問題になるのは、この意見書とは無関係に将来赤字線になることがわかつている新線を現在建設しているということ

である。

我々が調査した「只見線」も国鉄の廃止予定線区に入っている。しかし一方完成されるとすぐ廃止されることがわかっている只見線が鉄道建設公団の手によって建設中だということに問題がある。ここでもっとも基本的なこととして国鉄のあり方が問題となる。つまり国鉄は営利事業ではなく公共の福祉の増進という使命をもっている。

しかし独立採算制とどのように調和させるかということが問題である。

公社として発足した当時は、自動車も未発達で鉄道が陸の王者であつたのでこの二つの概念も矛盾しなかつた。

しかし今日ではそれぞれの長所を生かす交通体系の編成が必要であらう。

その中で国鉄はどのような立場をとるか、そして国鉄のあり方はどうか重要な課題であろう。

会長 太田正行（二A）

會員 小管尚規 (二C)

會員 小菅尚規（二C）塚原善樹（二D）佐藤有規（二F）  
根間稔幸（二F）齋藤 淳（二G）小幡祐二（二E）

田子実(一F)

顧問  
佐藤先生

ミヤコタナゴは、学名 *Tanakia tanago* (Tanaka)。硬骨魚綱—コイ目—コイ科—タナゴ亜科—ミヤコタナゴ属に分類<sup>2)</sup>され、一属一種、日本特産の淡水魚である。分布は茨城県を除く関東地方に極限され<sup>3)</sup>、生息地が都会に隣接しているため、絶滅寸前にある。

体長30mm～50mmぐらいで、一般に雌のほうが小さく、タナゴ亜科のなかでも小型の部類に属する。体色は紫を基調とし、雄の婚姻色<sup>4)</sup>は鮮やかな紫・朱赤色・黒色などで、非常に美しい<sup>5)</sup>。

ミヤコタナゴをはじめタナゴ亜科の魚は淡水の二枚貝の鰓葉内に産卵する。すなわち、産卵期<sup>6)</sup>になると、雄は前記の婚姻色・追星を発現し産卵床となる二枚貝の周辺に縄張りを作る<sup>7)</sup>。雌は臀部より産卵管を生じ、熟卵を持つことによって産卵管は尾鰭（おびれ）の端近くまで伸長し、産卵もしくは排卵後は縮少する<sup>8)</sup>。

研究の目的は、以上に概略的に述べたミヤコタナゴを、水槽の中で増やすことにある<sup>9)</sup>。

実験はミヤコタナゴと二枚貝の採集から開始した。魚の採集は1968年—3月・9月・12月、1969年—3月・5月・8月、1970年—1月の計7回行い、そのうちの100尾余りを飼育している。ミヤコタナゴは、マツカサガイ *Inversidens japonensis* (Lea)<sup>10)</sup> という貝に好んで産卵する。貝の採集は69年に入ってからミヤコタナゴの採集のたびごと、及び茨城の霞が浦へ数回出かけた。詳細を表1にまとめてみる。

表1のような採集をもとにして、60cmの底面濾過水槽<sup>12)</sup>に、ミヤコタナゴとインガイ20個体ほどと、マツカサガイを数個体（関東における個体数が著しく少なく、昨年琵琶湖採集の51個体を見るまで、全5回の採集で6個体を得たにすぎなかった）を入れ、産卵を待った。しかし、実験途中で死亡する貝の個体が、平均週に1～2個出はじめ、実験に支障をきたすようになってきた。そこで、死亡の状態（いっぺんにたくさん死なない）からみて、水温・水質の著しい変動は考えられず、狭い容器での飼育による餌の不足と推測した。そこで、一部でその効果が言われている乾燥酵母（商品名、エビオス）の粉末に、カルシウム分の不足を補うものとして、鳥の餌に使うボレー粉（貝殻や骨の粉）と、総合ビタミン剤をすりつぶした粉とを混ぜ、4～6日おきに1回3gほどを水槽中に投与しはじめた。その結果、貝の死亡率は著しく低下した。比較実験として、同時に採集した12個体のインガイに対して上野動物園水族館の室内75cm底面濾過水槽において、魚の餌—ペレットの粉末を与え続けたが、8月中旬までに、全個体が死亡した。水温が多少高かった以外は、筆者の実験水槽とほぼ同条件下にあったので、ペレットの粉末は貝の餌に適さないものと思われる。

7月4日午後、水槽において死亡した殻長45mmのインガイの鰓葉中に、二粒のミヤコタナゴの卵を発見した。ただちに鰓葉を切り開き、卵をとり出し、水深3cm・300ccほどの水中に入れた。雑菌予防のための、極く微量のクロロフィリンナトリウムを溶かした。受精卵であることは確認できたが、二個ともそのまま死亡してしまった。理由は、死亡した貝に放置されていたための、酸素不足によるものと思われる。

7月10日、昼、学校の生物部室の実験水槽のインガイが死亡し、再び二粒と一粒の、発生段階の違う受精卵を見いだした。段階の進んだものは、わずかに動くのも観察できたが、やはり同様に、すべてが死亡してしまった。学校の水槽には雄2尾に対し、雌が1尾しか入っておらず、卵の発生段階に差異があることからみて、最初に1粒、次に2粒が生み込まれたものと推察する。翌11日にも水槽を観察中に、インガイの大型（殻長60mmぐらい）が卵を

# ミヤコタナゴの 増殖に関する研究

君 塚 芳 輝

昨年度（43年）の学園祭を契機として、生物部に籍を置き、淡水魚のタナゴ<sup>1)</sup>を増やす実験を試みているので、ここにその概要と、現在（'70.1）までの経過を発表する。

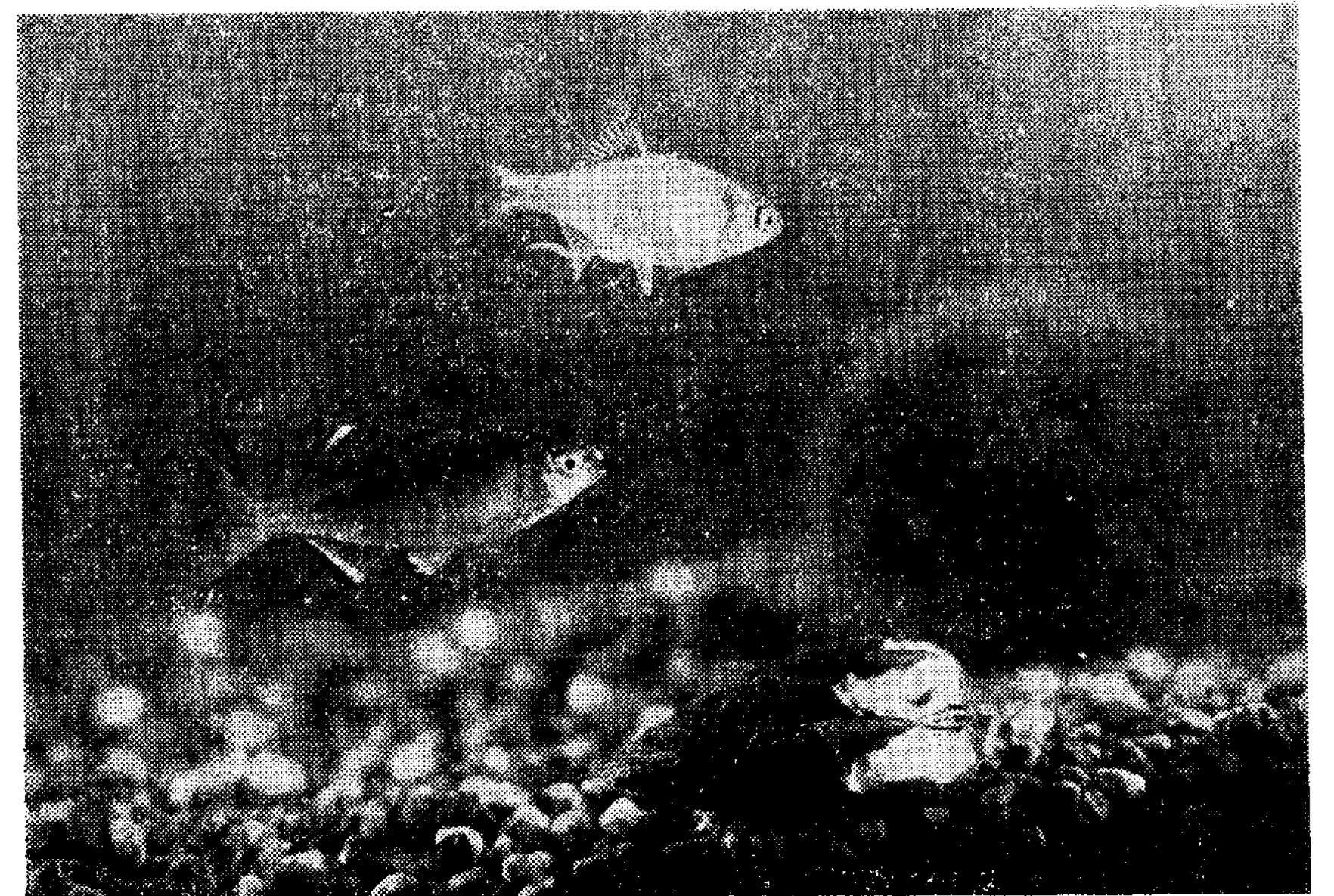


PLATE. I ミヤコタナゴの雄雌

上が♀、産卵管が伸びている。

下が♂

底にある貝はインガイ。

表1. 実験のためのタナゴ類および二枚貝類の採集記録（44年度のみ）

| 年 月 日          | 採 集 地             | タ ナ ゴ 類※                                          | 二 枚 貝 類                                                                                           |
|----------------|-------------------|---------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 69. 4. 1       | 茨城県土浦市<br>桜川      | タナゴ・ヤリタナゴ                                         | 発見できず                                                                                             |
| 5. 2<br>5      | 茨城県行方郡麻<br>生町霞が浦  | 採集せず（タナゴ・ヤ<br>リタナゴ・タイリクバ<br>ラタナゴ・ゼニタナゴ<br>の4種を確認） | イシガイ・カラスガイ<br>・マツカサガイ・ヤマ<br>トシジミ                                                                  |
| 7. 29          | 同 上               | タナゴ・ヤリタナゴ・<br>タイリクバラタナゴ                           | イシガイ・カラスガイ<br>ドブガイ                                                                                |
| 8. 1<br>4      | 長野県諏訪湖            | ヤリタナゴ・ゼニタナ<br>ゴ（移殖）地元水族館<br>で確認                   | ドブガイ・タテボシ・<br>セタシジミ（いずれも<br>購入                                                                    |
| 8. 20<br>27    |                   | ミヤコタナゴ・タイリ<br>クバラタナゴ（稚魚）                          | マツカサガイ・ドブガ<br>イ※・マシジミ                                                                             |
| 9. 7           | 麻生霞が浦             | タイリクバラタナゴ（稚<br>魚）                                 | カラスガイ・イシガイ<br>ドブガイ・マツカサガ<br>イ・ヤマトシジミ                                                              |
| 9. 14          | 茨城県行方郡玉<br>造町浜霞が浦 | タイリクバラタナゴ・<br>ヤリタナゴ・ゼニタナ<br>ゴ                     | 採集せず                                                                                              |
| 10. 10         | 同 上               | タナゴ・ヤリタナゴ                                         | 採集せず                                                                                              |
| 12. 7          | 同 上               | タナゴ・ヤリタナゴ・<br>ゼニタナゴ                               | イシガイ・カラスガイ                                                                                        |
| 12. 25         | 長野県諏訪湖            | 前回（8月）参照                                          | セタシジミ・タテボシ<br>（購入）                                                                                |
| 26<br>29       | 滋賀県琵琶湖お<br>よび同瀬田川 | 採集できず カネヒラ<br>イチモンジタナゴ・シ<br>ロヒレタビラなど生息            | マツカサガイ（瀬田川<br>石山付近）<br>タテボシ（琵琶湖文化<br>館周辺および膳所城<br>址周辺）<br>セタシジミ（同上）<br>ササノハ（堅田町付近）<br>マルドブガイ※（同上） |
| 70. 1. 4<br>～7 |                   | ミヤコタナゴ                                            | 採集できず                                                                                             |

はき出すところを偶然に目撃し、すぐに拾い上げたが、死亡した。

7月中旬に3度目の産着卵を発見したが、やはり死亡。

7月22日に4度目で最後の産卵が確認された。やはり死亡したイシガイの鰓葉内に、1尾と2尾ずつ2組の発生段階の違う3組5尾の卵（胚）で、1尾はわずかに動いていた。同様にクロロフィリンを加え、暗所に保存した結果、最も発生の進んだ1尾は8月2日まで生きていた。最後の個体は各鰭もほぼ完成し、体は腹方にわずかに湾曲し、背面には色素のもとになる黒点も発生していた。（発生段階のH）

以上の4回の産卵は、結局一度も成功しなかった（＝稚魚の形態にならなかった）。失敗の根本原因は産卵された二枚貝の死亡である。タナゴの卵は貝の鰓の虫にあって、常に酸素の含有量の多い新鮮な水の供給を受け、外敵からも完全に守られ、寄生虫等もつきにくい、実に理想的な状態にある。そして、貝体内でフ化した卵は、遊泳・採餌能力のある、立派な稚魚となってとび出してくる。しかし、一たび貝が死ねば、酸素の供給がストップされるばかりでなく、貝の肉質の腐敗が起こり、遊泳能力などない卵や胚は死ぬしかない。水槽において貝が死亡した場合には、まず気付くまでに卵が窒息死していることが多く、うまく生きて

<注>

- (1) 海にもウミタナゴという魚がいるが、淡水のものと関係はない。体型や婚姻色が多少似ている。
- (2) 松原（1955）の分類の略記。中村（1963）[下記(5)]による。
- (3) 中村守純著『日本のコイ科魚類』（1969）によった。
- (4) 産卵期になると、♂（ウグイでは♀も）の体色は鮮やかなものになる。これを婚姻色と言ひ、追い星と呼ばれるにきびのような突起と共に、魚の第二次性徴である。（魚類第二次性徴はヒトのそれと違い、周期的である）
- (5) 中村守純著『原色淡水魚類検索図鑑』（1963）によった。但し、最後の箇所は筆者の主観による。
- (6) 中村（1963）によれば、ミヤコタナゴの産卵期は、春（3月中旬）から夏（7月下旬）とのことである。但し、筆者の実験水槽においては、上記期間以外にも、雄が縄張りを形成したり、雌が産卵管を伸長させたことはある。
- (7) 実験水槽中では貝を中心に5cm平方から20×30cmぐらいの広さで、一定ではない。縄張りを守る雄は、自分の決めた貝の周囲に入ってくるタナゴに向かって、口と各鰭(ひれ)を大きく広げてつかかかっていく。産卵管の伸びた(産卵のできる)ものに対して以外は雌雄を問わずに追い払うが、他の魚（実験に、キンブナ・ヒガイ・ドジョウ3種・ウグイ・キンギョの、タナゴと同程度の大きさのものを使用）に対しては関心を示さず、追わなかった。
- (8) 中村（1969）によれば2～11日おきに、13～15回産卵するとのこと。
- (9) 水槽中であるということ以外、何らの人為的操作は加えない。
- (10) 一応、吉良哲明著『原色日本貝類図鑑』（1954）によった。我が校図書館の蔵書であるが、もう一冊の貝類図鑑も1951年版であり、とにかく古すぎる。
- (12) エアーポンプの力により、水槽底面に敷いた砂と繊維の間を水が通過し、濾過をする装置。熱帯魚・金魚の飼育においても、最も一般的な濾過形式。

a.

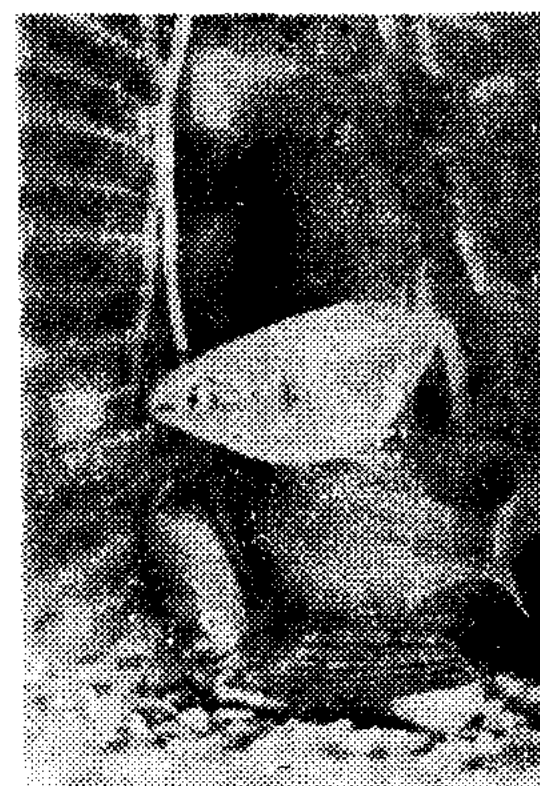


## PLATE. II

### 貝をのぞくタナゴ

- a ミヤコタナゴ♀  
b 上ヤリタナゴ♀, 左下  
ミヤコタナゴとタイリク  
バラタナゴの天然雑種

b.



c.



- c ミヤコタナゴとタイリクバラタナゴ  
の天然雑種  
口の上と目の周囲にある白い塊が追  
い星

## PLATE. III

### ドブガイの水管

a.



b.



- a. は下(せん毛のある方)が入水管, タナゴは出水管に産卵管をさし込んで産卵する。  
貝は両側にあるせん毛を動かして水流を起こし, 呼吸および採餌を行なう。  
b. は左と同じ貝の入水管部分の拡大。

※◎タナゴ類として数種を記したのは, その他にも下記の4種について(ミヤコタナゴの増殖の手がかりとするため)同様に実験を試みているからである。

○タナゴ

*Acheilognathus cyanostigma* (Jordan et Thompson)

○ヤリタナゴ

*Acheilognathus lanceolata* (Temmick et Schlegel)

○タイリクバラタナゴ

*Rhodeus ocellatus ocellatus* (Kner)

○ゼニタナゴ

*Pseudoperilampus typus* (Bleeker)

◎ドブガイの仲間(*Anodonta* 属)は種の判定が困難であるとの見解<sup>11)</sup>があり, 筆者も同感であるので, 和名の記載については主に現地での呼称に従った。(ドブガイ類については同定における種と亜種の区別がつきにくいものが多い)

(11) びわ湖生物資源調査団, 『貝類に関する調査報告』(1963年, 調査担当・執筆者一林・森・東・川那部)によった。この論文は他の部分でも参照した

## 新宿徒然草

### 生徒大会

生徒大会の集まりが悪いというのは、毎度のこと。それは生徒大会に魅力がないからである。そこで、どうやれば生徒大会の集まりがよくなるか、という事について一つの案を考えてみた。

◎生徒大会に全学美人コンテストの順位発表を行なう。

笑ってはいけない。実際にこれを実施して、講堂を超満員にさせた高校があるのだ。その高校は西高である。これは生徒大会の時ではなく、慰労祭の時にやったのであるが、生徒大会の時にやっても面白い。

なお、西高ではこのコンテストの結果発表に、数種類の結果があらわれ、どれが正式のコンテストでどれが私設コンテストかわからなくなってしまう、果ては、自分の恋する女性に大量の水増投票をやるなどして大混乱してしまったという。

いるうちに取り出せても、稚魚になるまで（本来は貝体内にいる期間）に、水中の雑菌・光（貝の中はまっ暗？）・酸素含有量や水圧などの関係で死亡してしまう。このことは、人工採卵による増殖が困難である原因でもある。

貝の死ぬ原因は全く不明だが、推測すると酸素の不足または過多による過労<sup>13)</sup>、餌の不足<sup>14)</sup>や栄養の不足<sup>15)</sup>などがあげられる。現在の日本における、軟体動物学(Malacology)<sup>16)</sup>の分野の立ち遅れも、貝の飼育実験を行なう者にとっては、大きな痛手である。とにかく、マツカサガイをはじめとする淡水二枚貝を、タナゴに産卵されただけで死ぬようなことのないように、丈夫に飼育できるようになることが、今後の研究を進めていく上で、大きな課題である。

最後に、実験の結果と問題点をまとめてみる。

- ① ミヤコタナゴの、室内水槽における増殖を試みた。
- ② 69年7月に、4回の産卵が行なわれ、いずれも産卵されたイシガイが死亡し、すべての卵（胚）も稚魚になる前に死亡した。今年度の実験は、すべて失敗した。
- ③ 問題点として、産卵された二枚貝を殺さぬようにすることがあげられる。但し、タイリクバラタナゴにおいては、すでに一部成功している。
- ④ もう一つの問題点としては、貝が死んでも、産みつけられた卵を稚魚に育て上げることができるようになること。これは将来、人工交配<sup>17)</sup>を行なう上でも重要である。
- ⑤ 天然水域では著しく減少し、絶滅に瀕しているミヤコタナゴを守り、自らの手で命を増やすことによって、自然を破壊する人間社会に抵抗したい。

1970年1月19日

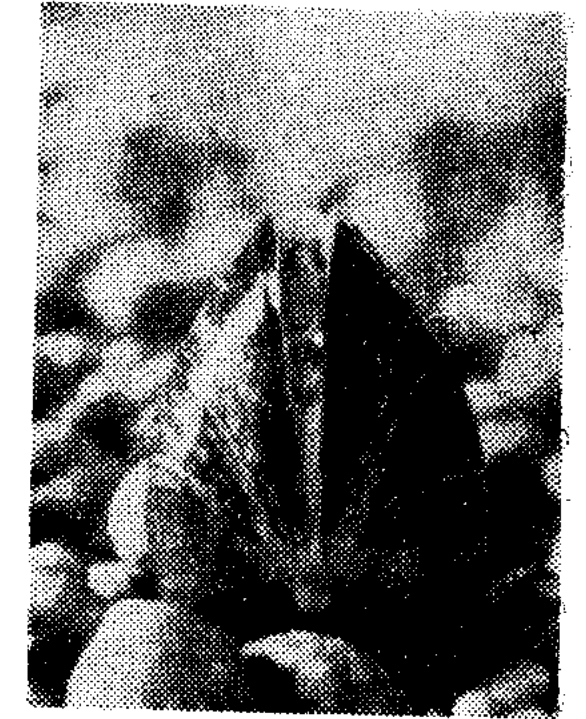
⑭ 東怜『琵琶湖産主要貝類の呼吸について』Reprinted from VENUS JAP. JOURN. MALACOLOGY vol. 23 No. 4 Jan. 1965（びわ湖生物資源調査団業績第32号）によった。

⑮ 前記9月7日の、霞が浦麻生での採集の際に、採集地の周辺でプランクトンネットを引き、またイシガイの内蔵を現地で固定し、持ち帰って調べてもらったが、消化管内容物はプランクトンばかりでなく、藻類のアオミドロ等も入っており、貝にとって重要なのは、餌の大きさのようであった。（なお、詳しい調査が必要である）

⑯ 東怜『琵琶湖産主要貝類の肉質成分の季節的变化について』日本水産学会誌 第31巻 第8号1965年8月（別刷）によれば、貝類（実験はセタシジミ・タテボシ・イケチョウガイ・ナガタニシ）の軟体部の主要成分は、蛋白質（6～10%）・グリコーゲン（6～7%）・脂肪（1～2.5%）であり、これらが活動のエネルギー源として利用されている、と考察している。

⑰ Malacology は貝の中身の研究である。貝殻を扱うのは、貝類学(Conchology)。

⑱ 人工受精により、完全なる発生段階を見たり、雑種を作りだす目的で行なう。一部ではタナゴ以外のコイ科の魚との雑種作りも行なわれている。

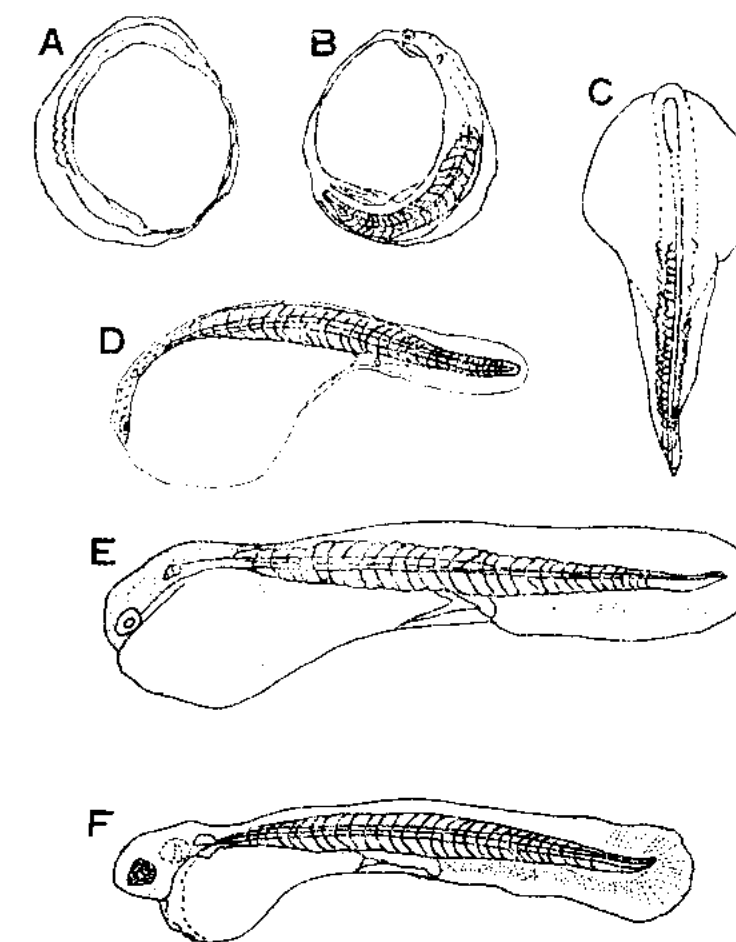


左はイシガイ、上が出水管、せん毛のある下が入水管

右はマシジミ。上が入水管、下が出水管

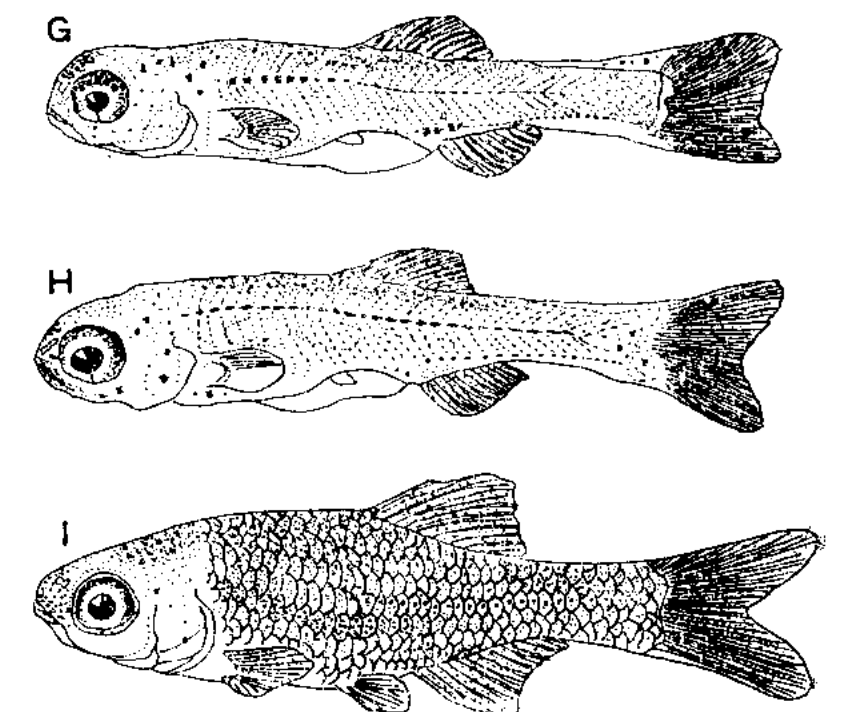
イシガイは外とう膜の一部がくびれただけであるが、シジミは完全な管状になり、突出する。この形態の差異によって、タナゴ類は、シジミ類にはまず産卵しない。

PLATE. V ミヤコタナゴの発生(1)



A-B 卵内発生, C-F 前期仔魚  
C, D 全長3.7mm E 全長5.0mm  
F 全長6.0mm

PLATE. VI ミヤコタナゴの発生(2)



G-H 後期仔魚 G 全長8.6mm  
H 全長10.2mm I 稚魚 全長15.0mm

この図は、中村守純(1969)の図版31・32より模写した。実験の結果ではA～Fが殆んどで、第4回目の産卵時の一尾だけが、Hの段階まで進んだ。

昭和四十四年度年間行事

- ▽四月 八日 入学式。始業式。

九日 一年オリエンテーション

一〇日 一年オリエンテーション

一二日 生徒会各種委員選挙。

一三日 健康診断 三年、一年前半

二四日 健康診断 二年、一年後半

二六日 前期生徒会役員立候補者  
立会演説会。

二八日 生徒会役員選挙

▽五月 一日 校外授業。

スキタイシルクロード展

八日 遠足 一年川越、飯能方面  
二年2組ずつ四方面

一〇日 一年生徒会各種委員選挙

一三日 生徒会書記長選立会演説会

一四日 生徒会書長選挙

二二日、二三日 一、二年標準テスト  
三年中間考査

二八日 生徒大会

▽六月 三、四日 三年第一回特別考査

八日 対戸山高校定期戦第一日

一五日 同右 第二日

▽七月 七、一〇日 第一学期期末考査
- 一一、一四日 新校舎への移転作業

一九日 終業式

二〇日 夏季行事開始。一年館山臨海  
行事（八月一日まで）

水上林間行事（七月二五日）

八、一三日 合同合宿

▽九月 一日 始業式

五、六日 三年第二回特別考査

一〇、一二日 学年別水泳大会

一九、二一日 学園祭

▽十月 四日 生徒会各種委員選挙  
五日 運動会

二四、二五日 一、二年標準テスト  
三年中間考査

▽十一月六日 一年生遠足

▽十二月一〇日 生徒会役員立候補者・立会  
演説会

一日 生徒会役員選挙

二五日 終業式

二五日、三〇日 スキー教室

▽一月 八日 始業式

▽二月一三日 マラソン大会

二三日 合唱コンクール

二四日 生徒大会

▽三月六、一〇日 学年末考査

一五日 卒業式

一九、二二日 二年修学旅行

二五日 終業式

編集後記

とにかく人手不足でした。事実上、活動したのは二年生、一年生あわせて三、四名で、仕事にとりかかった頃は例年とは違ったものにしようとの計画もあったのですが、出来あがってみるとやはり例年通り型にはまったものが出来上がってしまったようです。いや、それよりもある点においては、例年よりも非常に、私達が見るに劣っているということがいえると思います。仕事の途中で発行を中止しようとの考えもあったのですが、一応みなさんの手に届けて批判を受けようということで考えがまとまった次第です。

轍も今回で十三号を数えるわけですが、考えると毎年人手不足、原稿不足でやってきたようで、案外それで続いているのかとも考えるのですが、やはりそれではいけない。また、今回は轍が先生方の手を完全に離れ、生徒手に渡った最初の発行でもあります。が、せかっくあれだけの時間を費やして自由を得たのに、これを利用しないという理屈はありません。今後は轍に対する積極的な批判を望みます。批判なしにはやはり進歩はなく、轍をほんとうに生徒のものとするためにはそれが一番近道ではないかと思ひます。

轍編集員

|    |      |
|----|------|
| 2D | 鬼沢一寿 |
| 2A | 砂川俊雄 |
| 2A | 田村宏行 |
| 2A | 松村茂雄 |

発行者 東京都立新宿高等学校生行会

編集者 轍編集委員会

発行所 東京都渋谷区千駄ヶ谷

六ノ二ノ一

発行責任者 鬼沢一寿

印刷人 長谷川澄雄

印刷所 青文社

新宿区百人町二ノ一五七  
電話（三六一）四九〇六

新宿徒然草

つれづれをいうのは「ひまな」とか言う意味である。

floccinaucinihilipilification

上の英単語は何と29個ものアルファベットを使用している。

ひまな人は調べてみてください。

（注 これは真面目な英単語）